

第2期中期目標期間 業務実績報告書（暫定版）

（平成26年4月1日～平成31年3月31日）

平成30年6月



地方独立行政法人 静岡県立病院機構

（注）本報告書は、平成30年3月まで（一部直近データ）の実績により調製した暫定版であり、今後、変更が見込まれる。

目 次

I 当該中期目標期間における業務実績報告

1 対象期間	1
2 業務実績全般	1
(1) 機構全体	1
(2) 総合病院	20
(3) こころの医療センター	30
(4) こども病院	36
3 項目別実績	42
中期計画 第1－1 医療の提供	42
〃 第1－2 医療に関する技術者の研修	63
〃 第1－3 医療に関する調査及び研究	72
〃 第1－4 医療に関する地域への支援	76
〃 第1－5 災害等における医療救護	81
〃 第2－1 簡素で効率的な組織づくり	83
〃 第2－2 効率的な業務運営の実現	84
〃 第2－3 事務部門の生産性の向上	88
〃 第2－4 業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成	89
(参考) 用語解説	90

【数値の表記方法について】

この報告書内の数値は表示単位未満を四捨五入のため、各項目の和と総計が一致しない場合がある。



静岡県立総合病院

 地方独立行政法人 静岡県立病院機構

Shizuoka Prefectural Hospital Organization

ともにつくる 信頼と安心の医療

この地方独立行政法人は、静岡県における保健医療施策として求められる高度又は特殊な医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与することを目的とする



静岡県立こころの医療センター



静岡県立こども病院

当該中期目標期間における業務実績報告

1 対象期間

平成26年4月1日から平成31年3月31日までの5年間

2 業務実績全般

(1) 機構全体

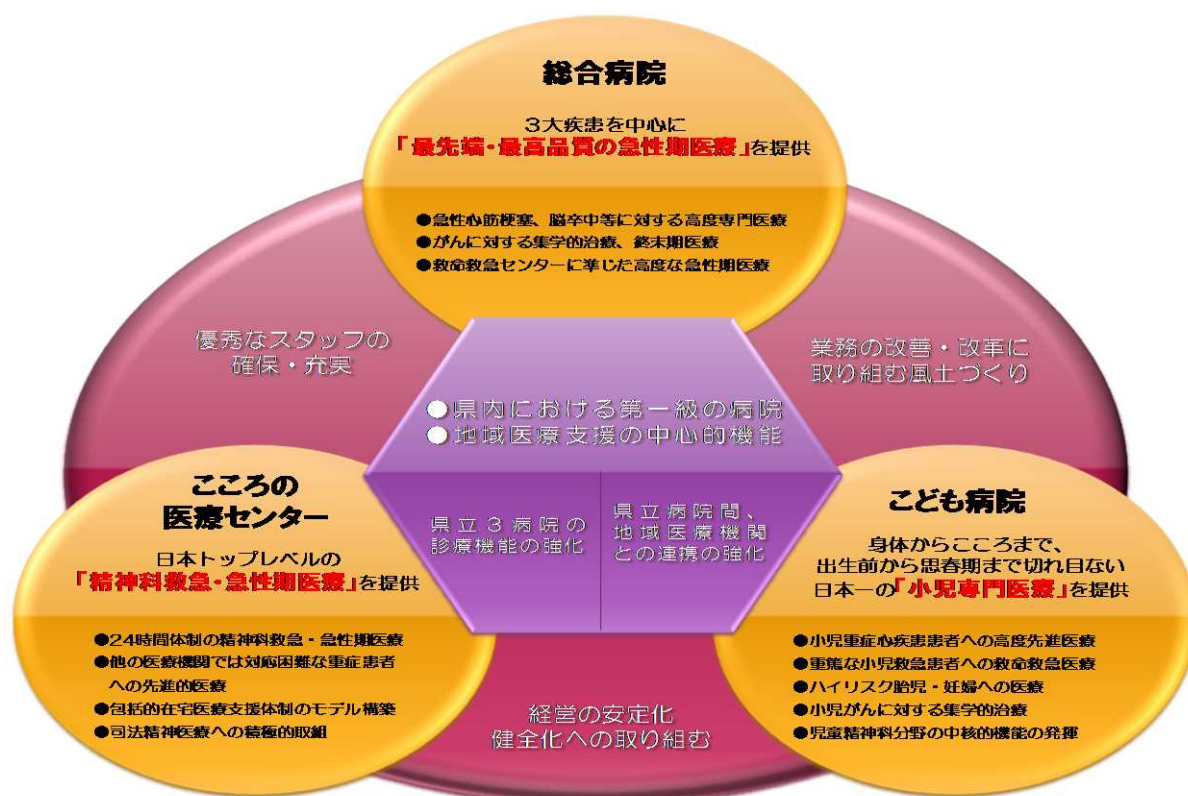
ア 総括

静岡県立病院機構は、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等の分野において第一級の病院であること及び地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、地方独立行政法人の特徴である機動性や効率性等を発揮した病院経営に取り組んでいる。

第2期中期目標期間(以下「今期」という。)の経営状況(5年間累計、3病院計税込)は、入院では、こころの医療センターで延患者数が今期中期計画を上回るほか、医療内容の高度化、高額薬品の使用(がん治療薬:オプジーボ、C型肝炎治療薬:ハーボニー等)に加え、積極的な新規施設基準の取得及び維持、DPCデータの分析などに取り組むことにより、総合病院及びこころの医療センターで単価が中期計画を上回る見込みである。また、外来では、総合病院とこころの医療センターで延患者数が中期計画を上回る見込みであり、単価についても総合病院とこころの医療センターで中期計画を上回る見込みである。今期の収支は、経常損益累計が約4,823百万円(経常収支比率102.3%)、当期純損益累計が約3,692百万円となる見込みで、中期計画を上回るとともに、独法化後すべての年度で3病院とも経常収支比率100%を達成する見込みである。

引き続き、本機構は、医療の質を高め、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等に積極的に取り組み、医療面では充実した質の高い医療を提供し、経営面では機能的で効率的な病院経営を推進し、職員一丸となって「患者満足度日本一」の病院を目指す。

県立病院機構が目指す病院像



イ 業務実績
(ア) 入院診療

- ・総合病院は、今期の延患者数は中期計画を下回る見込み(▲11,292人)であるが、患者1人1日当り入院単価(以下、入院単価:入院収益÷年延入院患者数)は、診療内容の高度化や高額薬品の使用により中期計画を上回る見込み(+6,598円)である。
- ・こころの医療センターは、今期の延患者数は中期計画を上回る(+3,735人)見込みであり、入院単価も中期計画を上回る見込み(+273円)である。
- ・こども病院は、今期の延患者数は中期計画を下回る(▲20,416人)見込みであり、入院単価も中期計画を下回る見込み(▲208円)である。

業務量及び業務実績【入院】 (税込)

(単位:人、%、円)

区分			H26		H27		H28		H29		H30		第2期計	
			中期計画 (年度計画)	実績	中期計画 (年度計画)	実績	中期計画 (年度計画)	実績	中期計画 (年度計画)	実績	中期計画 (年度計画)	見込	中期計画 (年度計画)	見込
入院延患者数	総 合		215,735 (215,735)	212,105	226,977 (223,480)	211,068	228,145 (234,836)	223,709	228,145 (236,301)	232,585	228,145 (236,388)	236,388	1,127,147 (1,146,740)	1,115,855
	こころ		54,372 (54,372)	54,735	54,372 (56,194)	53,620	54,372 (56,275)	56,906	54,372 (55,956)	55,144	54,372 (55,190)	55,190	271,860 (277,987)	275,595
	こども		81,038 (81,038)	77,777	81,549 (82,798)	78,059	82,133 (84,030)	77,860	83,009 (82,000)	75,586	83,009 (81,040)	81,040	410,738 (410,906)	390,322
	計		351,145 (351,145)	344,617	362,898 (362,472)	342,747	364,650 (375,141)	358,475	365,526 (374,257)	363,315	365,526 (372,618)	372,618	1,809,745 (1,835,633)	1,781,772
病床稼働率	総 合	一 般	91.8 (91.8)	90.4	92.0 (95.2)	90.3	92.8 (94.0)	90.4	92.8 (95.0)	93.5	92.8 (95.2)	95.2	92.5 (94.3)	92.0
		結 核	43.8 (43.8)	41.8	43.7 (40.4)	36.0	43.8 (41.6)	34.8	43.8 (37.0)	36.1	43.8 (34.8)	34.8	43.8 (39.6)	36.7
	こころ		82.8 (82.8)	83.3	82.5 (85.3)	83.9	82.8 (89.6)	90.6	82.8 (89.1)	87.8	82.8 (87.9)	87.9	82.8 (86.9)	86.7
	こども		82.5 (82.5)	79.8	82.8 (83.2)	78.7	83.7 (84.6)	78.7	84.5 (82.9)	76.4	84.5 (81.9)	81.9	83.7 (83.0)	79.1
	計		86.0 (86.0)	84.5	86.3 (88.3)	84.1	86.9 (88.9)	85.3	87.2 (88.8)	86.2	87.2 (88.8)	88.4	86.8 (88.1)	85.7
1人1日当り入院単価	総 合		65,547 (65,547)	69,681	66,251 (73,032)	73,848	66,969 (75,922)	74,542	71,788 (78,499)	76,575	74,035 (82,310)	82,310	68,958 (75,255)	75,556
	こころ		24,694 (24,694)	25,009	24,772 (25,412)	24,101	24,772 (25,175)	25,507	24,772 (25,055)	25,137	24,772 (25,349)	25,349	24,756 (25,139)	25,029
	こども		91,162 (91,162)	88,915	91,385 (92,949)	88,371	91,636 (89,060)	91,067	91,648 (92,420)	92,256	91,648 (95,696)	95,696	91,498 (92,238)	91,290
	計		65,132 (65,132)	66,927	65,684 (70,199)	69,373	66,233 (71,252)	70,347	69,305 (73,559)	72,030	70,707 (76,785)	76,785	67,433 (71,467)	71,188

※患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。

※H30年度見込は、H30年3月末現在の見込数字。

(イ) 外来診療

- ・総合病院は、今期の延患者数は中期計画を大幅に上回る見込み(+97,518人)で、患者1人1日当り外来単価(以下、外来単価:外来収益÷年延外来患者数)も中期計画を上回る見込み(+1,967円)である。
- ・こころの医療センターは、今期の延患者数は中期計画を上回る見込み(+1,174人)で、外来単価も中期計画を若干上回る見込み(+83円)である。
- ・こども病院は、今期の延患者数は中期計画を下回る見込み(▲48,544人)で、外来単価も今期の中期計画を下回る見込み(▲47円)である。

業務量及び業務実績【外来】 (税込)

(単位:人、円)

区分		H26		H27		H28		H29		H30		第2期計	
		中期計画 (年度計画)	実績	中期計画 (年度計画)	実績	中期計画 (年度計画)	実績	中期計画 (年度計画)	実績	中期計画 (年度計画)	見込	中期計画 (年度計画)	見込
外来延患者数	総 合	407,467 (407,467)	411,582	407,467 (407,241)	426,343	407,467 (414,182)	432,762	407,467 (440,610)	430,118	407,467 (434,048)	434,048	2,037,335 (2,103,548)	2,134,853
	こころ	40,233 (40,233)	40,336	40,233 (40,676)	39,691	40,233 (38,714)	40,756	40,233 (38,942)	41,140	40,233 (40,416)	40,416	201,165 (198,981)	202,339
	こども	105,234 (105,234)	101,770	111,734 (102,188)	103,282	118,234 (113,073)	104,666	118,234 (107,000)	105,763	118,234 (107,645)	107,645	571,670 (535,140)	523,126
	計	552,934 (552,934)	553,688	559,434 (550,105)	569,316	565,934 (565,969)	578,184	565,934 (586,552)	577,021	565,934 (582,109)	582,109	2,810,170 (2,837,669)	2,860,318
1人1日当り外来単価	総 合	16,827 (16,827)	17,378	16,827 (17,135)	18,547	16,827 (18,368)	19,058	17,465 (19,800)	19,875	17,465 (20,299)	20,299	17,082 (18,529)	19,049
	こころ	5,968 (5,968)	6,001	5,968 (5,997)	6,010	5,968 (6,061)	5,990	5,968 (5,872)	6,149	5,968 (6,104)	6,104	5,968 (6,001)	6,051
	こども	14,258 (14,258)	15,633	14,253 (15,608)	14,160	14,248 (13,780)	14,184	14,248 (13,470)	13,627	14,248 (13,482)	13,482	14,251 (14,101)	14,204
	計	15,548 (15,548)	16,228	15,532 (16,028)	16,877	15,516 (16,609)	17,255	15,975 (17,721)	17,751	15,975 (18,053)	18,053	15,710 (16,815)	17,244

※患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。

※H30年度見込は、H30年3月末現在の見込数字。

<参考資料>

(単位:日、円)

区 分	H26	H27	H28	H29	H30見込	備考
平均在院日数	総 合	13.1	11.4	11.6	11.8	11.7
	こころ	108.1	112.3	101.0	108.5	105.7
	こども	12.1	11.5	10.9	10.4	10.6
紹介率	総 合	85.0	89.1	89.0	90.6	89.4
	こころ	57.9	56.2	55.0	56.3	55.6
	こども	91.8	93.0	94.7	94.1	94.1
逆紹介率	総 合	127.5	134.3	161.5	175.5	161.8
	こころ	27.4	30.8	29.6	28.6	30.9
	こども	53.2	52.0	52.5	46.5	46.5

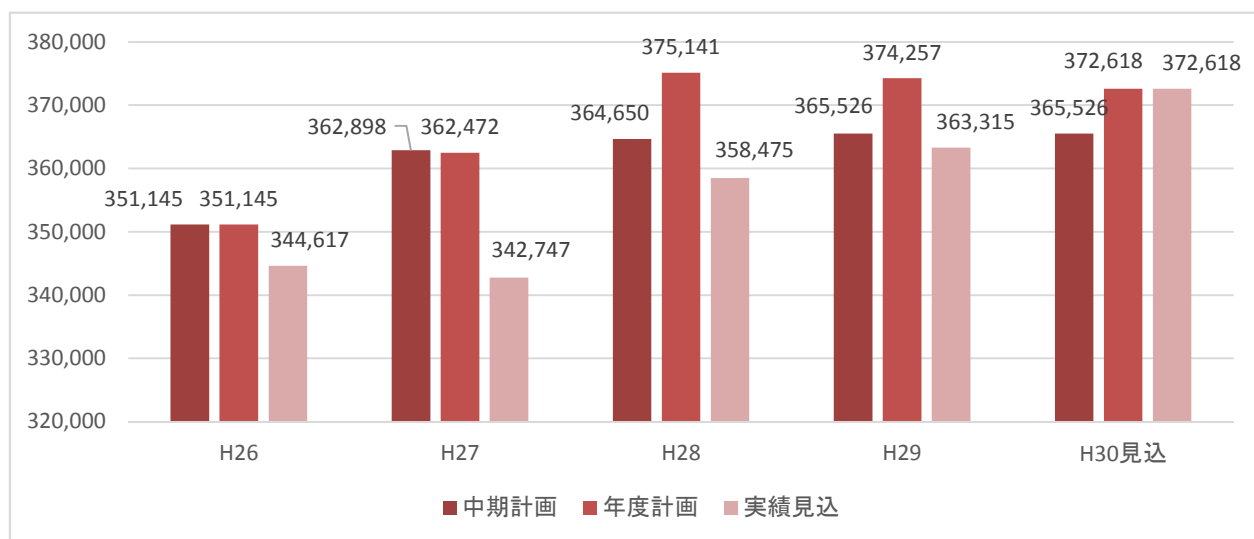
※ 平均在院日数は、総合及びこどもは一般病床分(こどもはNICU、PICU、MFICU除く)で算定。こころは医療観察法病床を除いて算定。

※ H30年度見込は、H30年3月末現在の見込数字。

患者数の推移（26年度実績～30年度見込）

入院延患者数（3病院計）

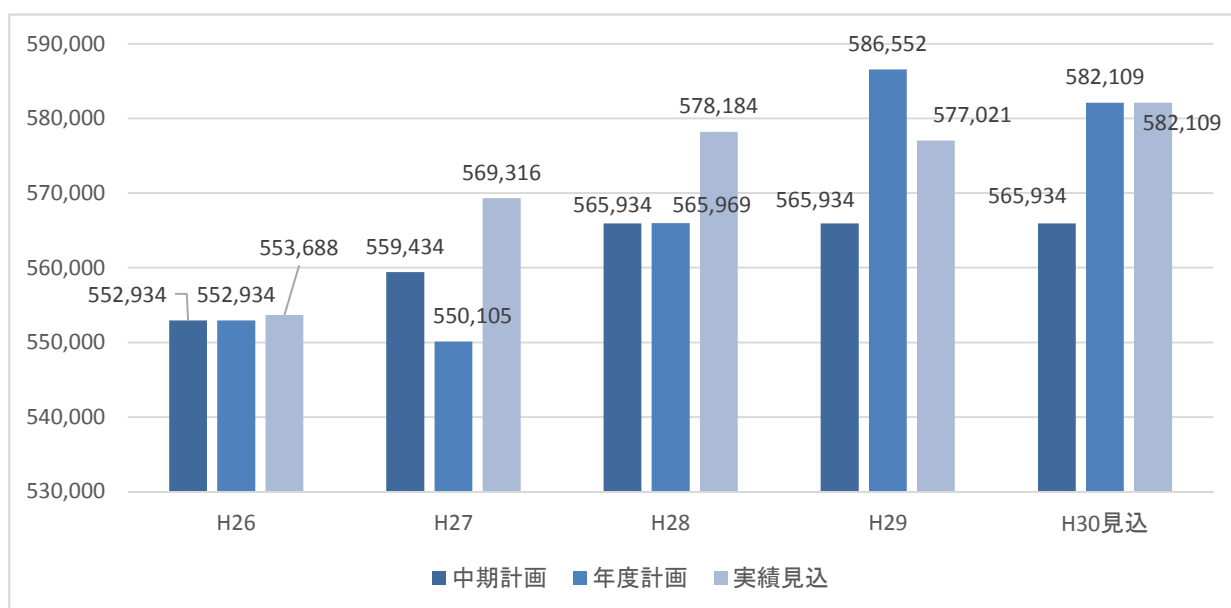
（単位：人）



- ・ 今期の入院延患者数は、26～29年度は中期計画を下回って推移していたが、30年度は中期計画を上回る見込みである。

外来延患者数（3病院計）

（単位：人）



- ・ 今期の外来延患者数は、中期計画を上回って推移する見込みである。

（ウ）収支実績（税込）

- ・ 経常損益累計は、4,822,770千円の経常利益となり、中期計画よりも1,537,114千円増加する見込みで、5年間累計の経常収支比率は、100%以上(102.3%)を達成する見込みである。
- ・ 当期純損益累計は、3,692,052千円の当期純利益となり、中期計画よりも1,194,262千円増加する見込みである。
- ・ 収益累計は、中期計画よりも10,069,648千円増収となる見込みである。
- ・ 費用累計は、患者数の増加等による業務量の増加により、中期計画よりも8,875,388千円の増加となる見込みである。

①収益的収支（機構全体・税込）

区分	款	項	H26	H27	H28	H29	H30見込	第2期計
収益	営業収益	医業収益	32,650,810	34,039,106	35,727,133	37,017,369	39,769,847	179,204,265
		運営費負担金収益	6,772,058	6,786,971	6,807,586	6,817,496	6,825,089	34,009,200
		その他営業収益	408,053	416,182	390,453	390,434	369,689	1,974,811
		小計	39,830,921	41,242,259	42,925,172	44,225,299	46,964,625	215,188,276
	営業外収益	運営費負担金収益	227,942	213,029	192,414	182,504	174,911	990,800
		その他営業外収益	254,525	289,983	292,416	287,421	283,860	1,408,205
		小計	482,467	503,012	484,830	469,925	458,771	2,399,005
	臨時利益	臨時利益	98,264	0	7,505	276,252	0	382,021
	収益計		40,411,652	41,745,271	43,417,507	44,971,476	47,423,396	217,969,302
	(中期計画)		(39,817,618)	(40,876,009)	(41,286,086)	(42,710,424)	(43,209,517)	(207,899,654)
(増減額)		(594,034)	(869,262)	(2,131,421)	(2,261,052)	(4,213,879)	(10,069,648)	
費用	営業費用	医業費用	38,223,204	39,605,537	41,368,872	42,861,993	45,847,605	207,907,211
		一般管理費	318,262	359,743	348,040	341,609	391,909	1,759,563
		小計	38,541,466	39,965,280	41,716,912	43,203,602	46,239,514	209,666,774
	営業外費用	財務費用	389,783	365,197	331,723	317,824	313,060	1,717,587
		その他営業外費用	200,524	232,684	259,116	330,319	357,507	1,380,150
		小計	590,307	597,881	590,839	648,143	670,567	3,097,737
	臨時損失	臨時損失	774,149	111,368	30,174	185,716	411,332	1,512,739
	費用計		39,905,922	40,674,529	42,337,925	44,037,461	47,321,413	214,277,250
	(中期計画)		(38,619,494)	(39,777,608)	(40,990,593)	(42,719,230)	(43,294,937)	(205,401,862)
	(増減額)		(1,286,428)	(896,921)	(1,347,332)	(1,318,231)	(4,026,476)	(8,875,388)
経常損益		1,181,615	1,182,110	1,102,251	843,479	513,315	4,822,770	
(中期計画)		(1,355,105)	(1,362,357)	(432,626)	(109,080)	(26,488)	(3,285,656)	
(増減額)		(▲173,490)	(▲180,247)	(669,625)	(734,399)	(486,827)	(1,537,114)	
当期純損益		505,730	1,070,742	1,079,582	934,015	101,983	3,692,052	
(中期計画)		(1,198,124)	(1,098,400)	(295,493)	(▲8,807)	(▲85,420)	(2,497,790)	
(増減額)		(▲692,394)	(▲27,658)	(784,089)	(942,822)	(187,403)	(1,194,262)	
経常収支比率		103.0%	102.9%	102.6%	101.9%	101.1%	102.3%	
(中期計画)		(103.5%)	(103.4%)	(101.1%)	(100.3%)	(100.1%)	(101.6%)	
年度計画		経常収支	1,331,684	1,163,415	720,885	524,062	513,316	4,253,362
		経常収支比率	103.5%	102.7%	101.6%	101.1%	101.1%	101.9%

※単位未満四捨五入のため各項目の和と総計が一致しない場合がある(以下同様)。

※H30年度見込は、H30年3月末現在の見込数字。

②資本的収支（機構全体・税込）

(単位:千円)

区分	款	項	H26	H27	H28	H29	H30見込	第2期計
収入	資本収入	長期借入金	2,937,000	3,807,000	6,563,000	9,395,000	5,517,000	28,219,000
		長期貸付金回収額	10,100	10,450	19,000	30,700	0	70,250
		補助金・寄附金等	232	10,180	53,170	100,604	1,055	165,241
		計	2,947,332	3,827,630	6,635,170	9,526,304	5,518,055	28,454,491
支出	資本支出	建設改良費	3,194,385	3,868,889	6,673,492	9,533,935	7,681,691	30,952,392
		償還金	2,479,996	3,247,375	2,683,874	3,094,337	3,128,902	14,634,484
		長期貸付金	91,610	188,650	189,550	173,900	256,150	899,860
		計	5,765,991	7,304,914	9,546,916	12,802,172	11,066,743	46,486,736
総収支			▲ 2,818,659	▲ 3,477,284	▲ 2,911,746	▲ 3,275,868	▲ 5,548,688	▲ 18,032,245
(中 期 計 画)			(▲ 2,765,758)	(▲ 3,428,959)	(▲ 2,917,140)	(▲ 3,389,272)	(▲ 3,481,376)	(▲ 15,982,505)
(増 減 額)			(▲ 52,901)	(▲ 48,325)	(5,394)	(113,404)	(▲ 2,067,312)	(▲ 2,049,740)

(工)病院別収支実績

【総合病院】

① 収益的収支（税込）

(単位:千円)

区分	款	項	H26	H27	H28	H29	H30見込	第2期計
収益	営業収益	医業収益	22,461,660	24,033,292	25,352,411	26,868,903	28,821,068	127,537,334
		運営費負担金収益	2,394,068	2,399,236	2,406,286	2,400,145	2,396,761	11,996,496
		その他営業収益	228,253	259,349	237,880	225,168	223,949	1,174,599
		小計	25,083,981	26,691,877	27,996,577	29,494,216	31,441,778	140,708,429
	営業外収益	運営費負担金収益	93,461	88,293	81,243	87,384	90,768	441,149
		その他営業外収益	197,752	229,517	241,571	236,684	229,431	1,134,955
		小計	291,213	317,810	322,814	324,068	320,199	1,576,104
	臨時利益	臨時利益	98,186	0	7,505	175,378	0	281,069
	収益計		25,473,380	27,009,687	28,326,896	29,993,662	31,761,977	142,565,602
	(中期計画)		(24,529,585)	(25,450,669)	(25,698,466)	(27,043,165)	(27,551,856)	(130,273,741)
(増減額)		(943,795)	(1,559,018)	(2,628,430)	(2,950,497)	(4,210,121)	(12,291,861)	
費用	営業費用	医業費用	24,391,568	25,876,738	27,641,251	29,036,239	31,040,830	137,986,626
		一般管理費	210,053	226,638	229,706	228,877	262,248	1,157,522
		小計	24,601,621	26,103,376	27,870,957	29,265,116	31,303,078	139,144,148
	営業外費用	財務費用	163,353	154,294	142,740	156,023	166,724	783,134
		その他営業外費用	136,205	161,324	179,723	248,402	283,826	1,009,480
		小計	299,558	315,618	322,463	404,425	450,550	1,792,614
	臨時損失	臨時損失	674,067	67,168	12,324	175,901	282,843	1,212,303
	費用計		25,575,246	26,486,162	28,205,744	29,845,442	32,036,471	142,149,065
	(中期計画)		(23,979,194)	(24,861,599)	(25,742,308)	(27,313,141)	(27,809,195)	(129,705,437)
	(増減額)		(1,596,052)	(1,624,563)	(2,463,436)	(2,532,301)	(4,227,276)	(12,443,628)
経常損益		474,015	590,693	125,971	148,743	8,350	1,347,772	
(中期計画)		(623,023)	(700,793)	(28,800)	(▲197,325)	(▲184,686)	(970,605)	
(増減額)		(▲149,008)	(▲110,100)	(97,171)	(346,068)	(193,036)	(377,167)	
当期純損益		▲101,866	523,525	121,152	148,220	▲274,494	416,537	
(中期計画)		(550,391)	(589,069)	(▲43,842)	(▲269,977)	(▲257,339)	(568,302)	
(増減額)		(▲652,257)	(▲65,544)	(164,994)	(418,197)	(▲17,155)	(▲151,765)	
経常収支比率		101.9%	102.2%	100.4%	100.5%	100.0%	101.0%	
(中期計画)		(102.6%)	(102.8%)	(100.1%)	(99.3%)	(99.3%)	(100.8%)	

年度計画	経常損益	606,746	380,575	186,666	31,796	8,350	1,214,133
	経常収支比率	102.5%	101.4%	100.6%	100.1%	100.0%	100.8%

②資本的収支（税込）

(単位:千円)

区分	款	項	H26	H27	H28	H29	H30見込	第2期計
収入	資 本 入 収 入	長 期 借 入 金	1,920,000	2,421,000	5,612,000	8,942,000	4,126,000	23,021,000
		長期貸付金回収額	8,080	6,270	15,200	22,718	0	52,268
		補助金・寄附金等	232	8,298	37,305	100,221	0	146,056
		計	1,928,312	2,435,568	5,664,505	9,064,939	4,126,000	23,219,324
支出	資 本 出 支 出	建 設 改 良 費	2,040,260	2,450,235	5,701,670	9,069,346	6,250,194	25,511,705
		償 還 金	1,198,199	1,696,873	1,420,127	1,675,937	1,773,925	7,765,061
		長 期 貸 付 金	73,288	113,030	151,830	128,738	207,960	674,846
		計	3,311,747	4,260,138	7,273,627	10,874,021	8,232,079	33,951,612
総 収 支			▲ 1,383,435	▲ 1,824,570	▲ 1,609,122	▲ 1,809,082	▲ 4,106,079	▲ 10,732,288
(中 期 計 画)			(▲ 1,400,566)	(▲ 1,807,205)	(▲ 1,573,402)	(▲ 1,846,691)	(▲ 2,024,962)	(▲ 8,652,826)
(増 減 額)			(17,131)	(▲ 17,365)	(▲ 35,720)	(37,609)	(▲ 2,081,117)	(▲ 2,079,462)

【こころの医療センター】
① 収益的収支（税込）

（単位：千円）

区分	款	項	H26	H27	H28	H29	H30見込	第2期計
収益	営業収益	医業収益	1,618,743	1,542,294	1,706,529	1,659,053	1,657,537	8,184,156
		運営費負担金収益	1,081,807	1,089,068	1,096,546	1,104,357	1,111,719	5,483,497
		その他営業収益	46,780	47,040	42,695	51,999	51,715	240,229
		小計	2,747,330	2,678,402	2,845,770	2,815,409	2,820,971	13,907,882
	営業外収益	運営費負担金収益	50,597	43,336	35,858	28,047	20,685	178,523
		その他営業外収益	6,082	8,610	7,972	7,967	8,122	38,753
		小計	56,679	51,946	43,830	36,014	28,807	217,276
	臨時利益	臨時利益	72	0	0	20,377	0	20,449
	収益計 (中期計画) (増減額)		2,804,081 (2,782,492) (21,589)	2,730,348 (2,786,488) (▲56,140)	2,889,600 (2,786,377) (103,223)	2,871,800 (2,785,985) (85,815)	2,849,778 (2,785,969) (63,809)	14,145,607 (13,927,311) (218,296)
	費用	営業費用	医業費用	2,360,805	2,359,300	2,444,987	2,443,926	2,589,177
一般管理費			19,095	25,182	20,882	20,497	23,979	109,635
小計			2,379,900	2,384,482	2,465,869	2,464,423	2,613,156	12,307,830
営業外費用		財務費用	76,587	65,630	54,422	42,625	32,005	271,269
		その他営業外費用	6,012	9,148	9,793	11,105	11,840	47,898
		小計	82,599	74,778	64,215	53,730	43,845	319,167
臨時損失		臨時損失	4,652	10,307	9,677	257	25,739	50,632
費用計 (中期計画) (増減額)		2,467,151 (2,623,203) (▲156,052)	2,469,567 (2,680,389) (▲210,822)	2,539,761 (2,788,167) (▲248,406)	2,518,410 (2,822,786) (▲304,376)	2,682,740 (2,858,128) (▲175,388)	12,677,629 (13,772,673) (▲1,095,044)	
経常損益 (中期計画) (増減額)		341,510 (193,919) (147,591)	271,088 (140,729) (130,359)	359,516 (32,840) (326,676)	333,270 (▲2,171) (335,441)	192,777 (▲37,529) (230,306)	1,498,161 (327,788) (1,170,373)	
当期純損益 (中期計画) (増減額)		336,930 (159,289) (177,641)	260,781 (106,099) (154,682)	349,839 (▲1,790) (351,629)	353,390 (▲36,801) (390,191)	167,038 (▲72,159) (239,197)	1,467,978 (154,638) (1,313,340)	
経常収支比率 (中期計画)		113.9% (107.5%)	111.0% (105.3%)	114.2% (101.2%)	113.2% (99.9%)	107.3% (98.7%)	111.9% (102.4%)	

年度計画	経常損益	174,568	286,295	157,930	131,365	192,777	942,935
	経常収支比率	106.8%	111.0%	105.9%	104.9%	107.3%	107.1%

② 資本的収支（税込）

（単位：千円）

区分	款	項	H26	H27	H28	H29	H30見込	第2期計
収入	資本収入	長期借入金	187,000	665,000	190,000	7,000	295,000	1,344,000
		長期貸付金回収額	505	1,045	950	2,149	0	4,649
		補助金・寄附金等	0	0	7,365	0	0	7,365
		計	187,505	666,045	198,315	9,149	295,000	1,356,014
支出	資本支出	建設改良費	190,121	668,617	199,010	9,107	314,431	1,381,286
		償還金	435,106	448,574	462,266	468,212	458,842	2,273,000
		長期貸付金	4,580	18,705	9,530	12,159	12,410	57,384
		計	629,807	1,135,896	670,806	489,478	785,683	3,711,670
総収支 (中期計画) (増減額)			▲ 442,302 (▲ 464,440) (22,138)	▲ 469,851 (▲ 478,203) (8,352)	▲ 472,491 (▲ 498,983) (26,492)	▲ 480,329 (▲ 531,548) (51,219)	▲ 490,683 (▲ 524,147) (33,464)	▲ 2,355,656 (▲ 2,497,321) (141,665)

【こども病院】

① 収益的収支（税込）

（単位：千円）

区分	款	項	H26	H27	H28	H29	H30見込	第2期計
収益	営業収益	医業収益	8,570,407	8,463,520	8,668,193	8,489,413	9,291,242	43,482,775
		運営費負担金収益	3,296,183	3,298,667	3,304,754	3,312,994	3,316,609	16,529,207
		その他営業収益	133,020	109,793	109,878	113,267	94,025	559,983
		小計	11,999,610	11,871,980	12,082,825	11,915,674	12,701,876	60,571,965
	営業外収益	運営費負担金収益	83,884	81,400	75,313	67,073	63,458	371,128
		その他営業外収益	50,691	51,856	42,873	42,770	46,307	234,497
		小計	134,575	133,256	118,186	109,843	109,765	605,625
	臨時利益	臨時利益	6	0	0	80,497	0	80,503
	収益計		12,134,191	12,005,236	12,201,011	12,106,014	12,811,641	61,258,093
	(中期計画)		(12,505,541)	(12,638,852)	(12,801,243)	(12,881,274)	(12,871,692)	(63,698,602)
(増減額)		(▲ 371,350)	(▲ 633,616)	(▲ 600,232)	(▲ 775,260)	(▲ 60,051)	(▲ 2,440,509)	
費用	営業費用	医業費用	11,470,831	11,369,499	11,282,634	11,381,828	12,217,598	57,722,390
		一般管理費	89,114	107,923	97,452	92,235	105,682	492,406
		小計	11,559,945	11,477,422	11,380,086	11,474,063	12,323,280	58,214,796
	営業外費用	財務費用	149,843	145,273	134,561	119,176	114,331	663,184
		その他営業外費用	58,307	62,212	69,600	70,812	61,841	322,772
		小計	208,150	207,485	204,161	189,988	176,172	985,956
	臨時損失	臨時損失	95,430	33,893	8,173	9,558	102,750	249,804
	費用計		11,863,525	11,718,800	11,592,420	11,673,609	12,602,202	59,450,556
	(中期計画)		(12,017,097)	(12,235,620)	(12,460,118)	(12,583,303)	(12,627,614)	(61,923,752)
	(増減額)		(▲ 153,572)	(▲ 516,820)	(▲ 867,698)	(▲ 909,694)	(▲ 25,412)	(▲ 2,473,196)
経常損益		366,090	320,329	616,764	361,466	312,189	1,976,838	
(中期計画)		(538,163)	(520,835)	(370,986)	(308,576)	(248,703)	(1,987,263)	
(増減額)		(▲ 172,073)	(▲ 200,506)	(245,778)	(52,890)	(63,486)	(▲ 10,425)	
当期純損益		270,666	286,436	608,591	432,405	209,439	1,807,537	
(中期計画)		(488,444)	(403,232)	(341,125)	(297,971)	(244,078)	(1,774,850)	
(増減額)		(▲ 217,778)	(▲ 116,796)	(267,466)	(134,434)	(▲ 34,639)	(32,687)	
経常収支比率		103.1%	102.7%	105.3%	103.1%	102.5%	103.3%	
(中期計画)		(104.5%)	(104.3%)	(103.0%)	(102.5%)	(102.0%)	(103.2%)	

年度計画	経常損益	550,370	496,545	376,289	360,901	312,189	2,096,294
	経常収支比率	104.6%	103.9%	103.0%	102.9%	102.5%	103.4%

② 資本的収支（税込）

（単位：千円）

区分	款	項	H26	H27	H28	H29	H30見込	第2期計
収入	資本金収入	長期借入金	830,000	721,000	761,000	446,000	1,096,000	3,854,000
		長期貸付金回収額	1,515	3,135	2,850	5,833	0	13,333
		補助金・寄附金等	0	1,882	8,500	383	1,055	11,820
		計	831,515	726,017	772,350	452,216	1,097,055	3,879,153
支出	資本支出	建設改良費	964,004	750,037	772,812	455,482	1,117,066	4,059,401
		償還金	846,691	1,101,928	801,481	950,188	896,135	4,596,423
		長期貸付金	13,742	56,915	28,190	33,003	35,780	167,630
		計	1,824,437	1,908,880	1,602,483	1,438,673	2,048,981	8,823,454
総収支			▲ 992,922	▲ 1,182,863	▲ 830,133	▲ 986,457	▲ 951,926	▲ 4,944,301
(中 期 計 画)			(▲ 900,752)	(▲ 1,143,551)	(▲ 844,755)	(▲ 1,011,033)	(▲ 932,267)	(▲ 4,832,358)
(増 減 額)			(▲ 92,170)	(▲ 39,312)	(14,622)	(24,576)	(▲ 19,659)	(▲ 111,943)

- ・ 総合病院の経常損益累計は、1,347,722千円の経常利益となり、中期計画よりも377,167千円増加する見込みである。また、5年間すべて経常収支比率100%を達成する見込みで、累計の経常収支比率も101.0%の見込みである。これは、医療内容の高度化、手術件数の増加、集中治療系病棟の稼働率向上、積極的な施設基準の新規取得およびランクアップを行い、単価UPを図ったこと等によるものである。
- ・ こころの医療センターの経常損益累計は、1,498,161千円の経常利益となり、中期計画よりも1,170,373千円増加する見込みである。また、5年間すべてで経常収支比率100%を達成する見込みで、累計の経常収支比率も111.9%の見込みである。これは、医療観察法病床(12床)の整備により入院単価のUPを図ったこと等によるものである。
- ・ こども病院の経常損益累計は、1,976,838千円の経常利益となり、中期計画よりも10,425千円減少する見込みである。また、5年間すべてで経常収支比率100%を達成する見込みで、累計の経常収支比率も103.3%の見込みである。これは、小児医療に重点配分された診療報酬改定を踏まえて積極的な施設基準の取得(NICUの増床など)を行い、単価UPを図ったこと等によるものである。
- ・ 3病院の資本的支出については、総合病院では先端医学棟及び立体駐車場の建設、こころの医療センターでは空調設備改修及び電子カルテシステムの導入、また、こども病院では外来棟増築工事及び院内保育所の整備等を実施している。

(オ) 経常収支比率の年度別推移

- ・ 当機構では、中期目標において「業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、中期目標期間を累計した損益計算において、経常収支比率を100%以上とすること。」を数値目標として設定しており、経営改善に取り組んでいる。
- ・ 今期の経常損益は、5年間累計で4,822,770千円となり中期計画累計の3,285,656千円を1,537,114千円上回る見込みで、経常収支比率は、102.3%となり中期計画累計の101.6%を0.7ポイント上回る見込みで、中期目標を十分達成できる見込みである。

経常損益の状況（税込）

（単位：千円）

区 分		H26	H27	H28	H29	H30見込	第2期計
経常 損益	中期計画	1,355,105	1,362,357	432,626	109,080	26,488	3,285,656
	年度計画	1,331,684	1,163,415	720,885	524,062	513,316	4,253,362
	実 績	1,181,615	1,182,110	1,102,251	843,479	513,315	4,822,770
比率	中期計画	103.5%	103.4%	101.1%	100.3%	100.1%	101.6%
	年度計画	103.5%	102.7%	101.6%	101.1%	101.1%	101.9%
	実 績	103.0%	102.9%	102.6%	101.9%	101.1%	102.3%

※ H30年度見込は、H30年3月末現在の見込数字。

(カ) 経費削減及び効率化目標との関係

- ・ 当機構では、材料費の削減手法として①品目の絞込み、②購入単価の見直し、③材料の期限切れの発生防止等に取り組んでいる。

材料費対医業収益比率（税込）

（単位：千円）

中期 計画	区 分	H26	H27	H28	H29	H30見込	第2期計
	医業収益	31,988,012	33,028,396	33,434,871	34,869,229	35,379,776	168,700,284
	材料費	9,057,967	9,188,885	9,305,114	9,600,300	9,711,177	46,863,443
	比 率	28.3%	27.8%	27.8%	27.5%	27.4%	27.8%
実績	区 分	H26	H27	H28	H29	H30見込	第2期計
	医業収益	32,650,810	34,039,106	35,727,133	37,017,369	39,769,847	179,204,265
	材料費	10,196,974	10,723,188	11,405,546	11,783,686	12,206,539	56,315,933
	比 率	31.2%	31.5%	31.9%	31.8%	30.7%	31.4%

（キ）決算指標 ＜3病院計＞（税込）

（単位：千円）

区 分	項 目	H26	H27	H28	H29	H30見込	第2期計
収支 構造	経常収支比率 (%)	103.0%	102.9%	102.6%	101.9%	101.1%	102.3%
	医業収支比率 (%)	85.4%	85.9%	86.4%	86.4%	86.7%	86.2%
収入 構造	病床稼働率 (%)	84.5%	84.1%	85.3%	86.2%	88.4%	85.7%
	1人1日当 り単価 (円)	入院患者	66,927	69,373	70,347	72,030	76,785
		外来患者	16,228	16,877	17,255	17,751	18,053
費用 構造	職員給与比率 (%)	57.7%	58.7%	58.7%	57.8%	56.0%	57.7%
	(職員給与費 (医業費用))	(18,842,150)	(19,984,656)	(20,985,549)	(21,386,163)	(22,281,515)	(103,480,033)
	材料費比率 (%)	31.2%	31.5%	31.9%	31.8%	30.7%	31.4%

※H30年度見込は、H30年3月末現在の見込数字。

- ・ 収支構造の各指標は、経常収支比率が各年度で中期計画の数値目標である100%を上回る見込みで、医業収支比率は、第2期中期計画初年度の26年度実績に対して改善傾向を維持している。
- ・ 収入構造では、入院患者1人1日当たり単価が、各年度とも前年度を上回って推移しており、30年度見込は26年度実績に対して9,858円の大幅な単価UPの見込みである。また、外来患者1人1日当たり単価も各年度とも前年度を上回って推移しており、30年度見込は26年度実績に対して1,825円の単価UPとなる見込みである。
- ・ 費用構造では、職員給与比率、材料費比率ともに26年度実績から28年度にかけて上昇傾向にあったが、29年度に若干改善し、30年度にはさらに改善傾向に向かう見込みである。

【収支構造】

- ・ 経常収支比率 $\text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100$
病院が安定した経営を行うための財政基盤を確保するための指標で、適正な区分負担を前提として100%以上が望ましい。
- ・ 医業収支比率 $\text{医業収益} \div \text{医業費用} \times 100$
医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標で、100%以上が望ましい。

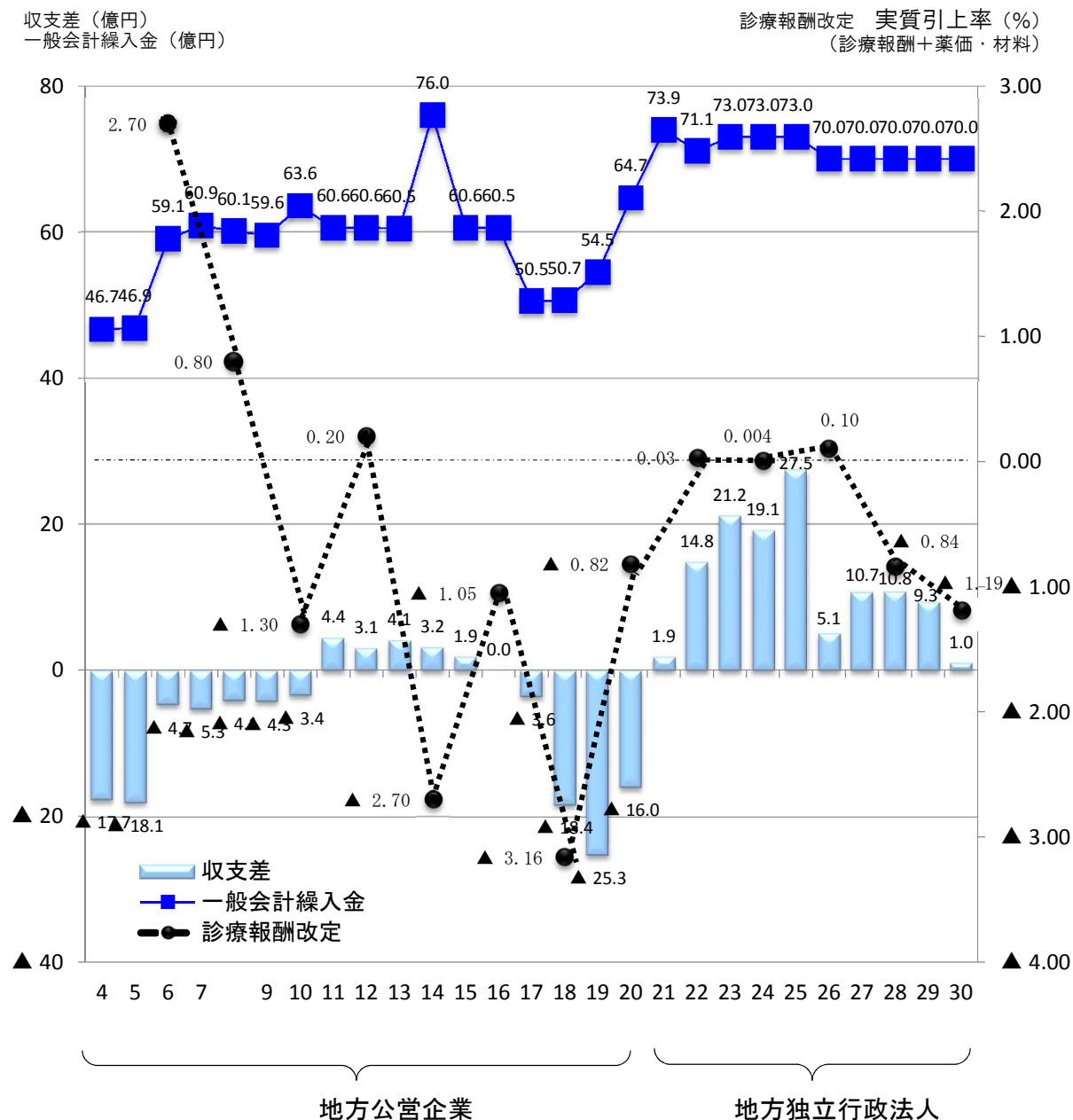
【収入構造】

- ・ 病床稼働率 $\text{年間延入院患者数} \div \text{年延病床数 (稼働病床} \times \text{歴日数)} \times 100$
病院の施設が有効に活用されているか判断する指標である。
- ・ 入院患者1人1日当たり単価 $\text{入院収益} \div \text{年延入院患者数}$
- ・ 外来患者1人1日当たり単価 $\text{外来収益} \div \text{年延外来患者数}$
病院の収入分析をするうえで基本的な指標で、収入を増加させるため、患者数(量的要素)と1人当たりの収入(質的要素)が重要となる。

【費用構造】

- ・ 職員給与比率(職員給与費対医業収益比率) $\text{職員給与費} \div \text{医業収益} \times 100$
病院の職員数等が適正であるか判断する指標で、職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営の重要なポイントである。
- ・ 材料費比率(材料費対医業収益比率) $\text{材料費} \div \text{医業収益} \times 100$
この比率が高い場合、材料費の購入価格(方法)を見直し、材料費の削減を図る必要がある。(薬品・診療材料・その他)

5 決算状況の推移(収支と繰入金・診療報酬の改定)(3病院計)



※30年度は見込

- ※ 平成14年度の一般会計繰入金75.98億円には、がんセンター開院準備経費分15.44億円を含む。
- ※ 平成17年度から平成19年度までは繰入金10億円を抑制(県財政事情を勘案)。
- ※ 平成21年度から地方独立行政法人へ移行したため、一般会計繰入金は運営費負担金に名称変更。
- ※ 平成22年度の診療報酬改定率は政府発表の+0.19%の後、薬価部分に追加された後発品のある先発品の価格引下げ分▲0.16%を加味して実質的な改定率を+0.03%とした。
- ※ 平成24年度の診療報酬改定率は薬価部分を市場価格の下落を反映して1.375%引き下げる一方、医師の診療行為や入院料などの本体部分は1.379%引き上げた結果、実質的な改定率は+0.004%となった。
- ※ 平成26年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定を0.63%引き下げる一方、本体部分を0.73%引き上げた結果、全体改定率は+0.10%となった。(消費税率引上げ対応分を除いた実質改定率は▲1.26%)
- ※ 平成28年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ1.22%、0.11%引き下げる一方、本体部分を0.49%引き上げた結果、全体改定率は▲0.84%となった。
- ※ 平成30年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ1.65%、0.09%引き下げる一方、本体部分を0.55%引き上げた結果、全体改定率は▲1.19%となった。

(ケ) 職員の状況

① 正規職員 (毎月初め人数累計÷12 か月。ただし、H30 は4/1 見込)

(単位：人)

区 分		H26	H27	H28	H29	H30 見込
総 合	医 師	125	135	148	157	165
	歯 科 医 師	3	3	4	3	3
	看 護 師	653	680	743	797	806
	看 護 師	649	676	739	793	802
	准看護師	4	4	4	4	4
	医 療 技 術	194	215	210	207	214
	事 務	41	49	50	52	54
	技 能 労 務	－	－	－	－	－
	小 計	1,016	1,082	1,155	1,216	1,242
こころ	医 師	13	12	12	12	14
	歯 科 医 師	1	－	－	－	－
	看 護 師	112	111	113	115	118
	看 護 師	110	109	112	114	117
	准看護師	2	2	1	1	1
	医 療 技 術	26	26	26	26	25
	事 務	13	13	13	13	13
	技 能 労 務	－	－	－	－	－
	小 計	165	162	164	166	170
こども	医 師	93	94	88	91	90
	歯 科 医 師	1	1	1	1	1
	看 護 師	442	452	442	445	444
	看 護 師	441	451	441	445	444
	准看護師	1	1	1	－	－
	医 療 技 術	81	85	83	81	80
	事 務	28	27	28	28	27
	技 能 労 務	－	－	－	－	－
	小 計	645	659	642	646	642
本 部	看 護 師	2	2	2	2	2
	看 護 師	2	2	2	2	2
	准看護師	－	－	－	－	－
	医 療 技 術	1	1	－	－	－
	事 務	27	28	27	25	32
	技 能 労 務	－	－	－	－	－
	小 計	30	31	29	27	34
計	医 師	231	241	248	260	269
	歯 科 医 師	5	4	5	4	4
	看 護 師	1,209	1,246	1,300	1,359	1,370
	看 護 師	1,202	1,239	1,294	1,354	1,365
	准看護師	7	7	6	5	5
	医 療 技 術	302	326	319	314	319
	事 務	109	117	117	119	126
	技 能 労 務	－	－	－	－	－
	合 計	1,856	1,934	1,989	2,056	2,088

② 有期職員 (毎月初め人数累計÷12 か月。ただし、H30 は4/1 見込)

(単位：人)

区 分		H26	H27	H28	H29	H30 見込
総 合	医 師	89	91	91	92	90
	うち初期研修医	36	38	36	39	39
	看 護 師	63	70	74	69	68
	看 護 師	61	68	73	68	67
	准看護師	2	2	－	1	1
	医 療 技 術	27	29	30	33	35
	事 務	112	116	141	151	151
	補 助 職 員	93	99	98	94	94
小 計		384	405	434	439	438
こころ	医 師	1	2	5	5	3
	うち初期研修医	－	－	－	－	－
	看 護 師	15	11	15	12	11
	看 護 師	12	8	12	11	10
	准看護師	3	3	3	1	1
	医 療 技 術	4	4	5	5	4
	事 務	11	14	15	15	14
	補 助 職 員	12	11	12	11	11
小 計		43	42	52	48	43
こども	医 師	45	48	51	48	55
	うち初期研修医	－	－	－	－	－
	看 護 師	14	16	13	12	13
	看 護 師	13	15	12	11	12
	准看護師	1	1	1	1	1
	医 療 技 術	15	14	17	17	19
	事 務	51	51	52	52	54
	補 助 職 員	23	24	24	25	24
小 計		148	153	157	154	165
本 部	医 師	－	1	1	1	1
	看 護 師	－	－	－	－	－
	看 護 師	－	－	－	－	－
	准看護師	－	－	－	－	－
	医 療 技 術	－	－	－	－	－
	事 務	8	7	7	8	6
	補 助 職 員	1	1	1	1	1
	小 計	9	9	9	10	8
計	医 師	135	142	148	146	149
	うち初期研修医	36	38	36	39	39
	看 護 師	92	97	102	94	92
	看 護 師	86	91	97	91	89
	准看護師	6	6	5	3	3
	医 療 技 術	46	46	51	54	58
	事 務	181	188	215	226	225
	補 助 職 員	128	135	134	131	130
合 計		582	608	650	651	654

※1 補助職員：看護助手、薬剤助手、放射線助手、検査助手等

※2 短期間特別研修医は含まない。

(コ) 職員の採用状況

- ・看護師の採用については、定期募集、経験者募集（月次募集）により、切れ目のない採用試験を行った。
- ・また、県立総合病院における看護師を確保するため、平成 25 年 10 月より看護師の紹介業者を通じた採用をしてきた。
- ・平成 27 年度以降は、看護師確保対策の推進を図るため、人材確保対策本部会議を実施した。本会議において、機構幹部職員が直接協議したことで、きめ細やかな対策を迅速に実施することができ、看護師採用数の大幅な増加につながった。（H26 108 人⇒ H27 149 人、H28 136 人（アソシエイト 5 人を含む）、H29 113 人）
- ・人材確保対策会議による対策例としては、修学資金の拡充の継続（貸与時期 2 期制等）、支度金制度の実施、病院見学会の旅費の拡充（市外 最大 5 万円）、静鉄電車・バス等へのポスター掲載、J R 静岡駅への電照公告掲載等があげられる。
- ・また、看護学生向けに就職情報を提供する民間事業者が開催する合同就職説明会への参加や就職情報サイトへの情報掲載等を積極的に行った。看護師就職説明会において、看護学生を集めるために看板等の作成やノベルティの配布を行った。
- ・看護師が充足してきたことから、人材確保対策会議及び紹介業者を通じた採用を見合わせ、今後は退職補充を中心に採用をしていく。
- ・医療技術、事務については、適時適切な採用を行った。

採用数の推移

（単位：人）

区 分	機 構 全 体				
	H25【H26 採用】	H26【H27 採用】	H27【H28 採用】	H28【H29 採用】	H29【H30 採用】
看 護 師	1 1 4	1 0 8	1 4 9	1 3 6	1 1 3
事 務	9	1 2	3	1	6
医 療 技 術	2 8	3 6	3	2	1 8

※前倒し採用を含む

※アソシエイトを含む

職員数の推移（各年度 4 月 1 日現在 現員数）

（単位：人）

区 分		H26	H27	H28	H29	H30	備 考
医 師	正 規	235	245	250	264	273	
	有 期	138	144	149	144	149	
	計	373	389	399	408	422	
看 護 師		1,221	1,251	1,317	1,370	1,370	
医 療 技 術		304	327	320	315	319	
事 務		109	118	119	118	126	
（うち事務プロパー）		(53)	(64)	(63)	(61)	(70)	
計		2,007	2,085	2,155	2,211	2,237	

※正規医師には、歯科医師、自治医初期研修医、へき地代診医師を含む。

※有期医師の契約は、1 年更新、短期間特別研修医は除く。

実働数の推移

(単位：人)

区 分		平成 26 年 4 月 1 日現在①			平成 30 年 4 月 1 日現在②			増 減 数 ②－①		
		定数 a	実働数 b	差引 b-a	定数 c	実働数 d	差引 d-c	定数 c-a=e	実働数 d-b=f	差引 f-e
医 師	正 規	239	235	▲4	282	269	▲13	43	34	▲9
	有 期	160	138	▲22	169	149	▲20	9	11	2
	計	399	373	▲26	451	418	▲33	52	45	▲7
看 護 師		1,143	1,137	▲6	1,254	1,278	24	111	141	30
医 療 技 術		291	293	2	289	295	6	▲2	2	4
事 務		110	109	▲1	124	125	1	14	16	2
計		1,943	1,912	▲31	2,118	2,116	▲2	175	204	29

※実働数＝現員数－休職者数

ウ 特記事項

(ア) 経営改善

- ・ 薬品費や診療材料費については、購入品目数の絞込みに加え、納入業者数の見直し、価格交渉の更なる拡充等の改善を進め、経費節減・業務効率化に取り組んだ。
- ・ 契約の3病院一括化、複数年化、同種業務の包括化など、委託業務契約等の契約手法の見直しを中心に、地方独立行政法人制度のメリットを活かした改善を推進した。
- ・ 経費の節減のみならず、モニタリング制度（インセンティブ（契約延長：最長5年間の業務受託が可能）の付与や業務内容が適切ではない場合の契約解除等が課せられている。）の導入などにより、業務の質の向上も図った。

以上のような改善の推進には、事務部門のみではなく医療従事者の理解と協力が不可欠であり、経営改善に向けた取り組みを通じて、職員間にコストと委託業務等の質に関する意識づけが進んだ。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
コスト節減への取組を強化する (薬品費の節減)	【今期の実績】 ・ 一薬品メーカー・一卸業者制度 ・ 納入卸業者数の見直しによる事務効率化及び値引き率の向上	109
	【次期への課題】 ・ アドバイザー・ベンチマークを活用した更なる効率化の推進 ・ 購入から消費までの業務の効率化と業務フローの整備 ・ ジェネリック医薬品の導入促進	
コスト節減への取組を強化する (診療材料費の節減)	【今期の実績】 ・ 医療従事者と協働した同種同効品の絞込み、3病院品目共通化、価格交渉、安価な材料への切替等 ・ 診療材料の品目数の削減	109
	【次期への課題】 ・ 購入から消費までの業務の効率化（業務フローの精査） ・ 診療材料の品目数の更なる削減	

コスト削減への取組を強化する (医療機器購入・保守管理業務の改善)	【今期の実績】 ・保守管理委託の3病院一括化・複数年化・同種業務の包括化による保守管理費の節減	110
	【次期への課題】 ・機器の集中管理の推進等、適切な管理に係る更なる検討	
コスト削減への取組を強化する (委託料等の契約形態による業務改善)	【今期の実績】 ・契約の3病院一括化、複数年化、同種業務の包括化による委託料の節減及び業務の効率化 ・モニタリング制度による業務の質の向上	111
	【次期への課題】 ・現行契約の効果水準の維持及び更なる改善に向けた検討	
・情報の受け手を意識したわかりやすい情報発信体制の整備 (説明責任・透明性の確保) ・経営情報の積極的な活用による効率的な運営 (原価計算への取組)	【今期の実績】 ・総合病院において原価計算システムを導入し、検証や見直しを図りながら定期的にデータを蓄積した。	80
	【次期への課題】 ・DPC データや財務会計システムを用いて診療科別、部門別の原価計算	

(イ) 環境改善

- ・医療従事者の研修については、研修医の海外研修への派遣、看護師の認定看護師研修への派遣、県立大学との共同研究、メディカルスキルアップセンターを利用した研修の実施など、県立病院に相応しい医療技術者の育成に努めた。
- ・業務改善の推進として、各病院が各々行っていた表彰制度を統合し、機構の改革推進制度として新たに設置し、改革・改善に積極的に取り組む組織風土の醸成に努めた。
- ・看護師の確保対策のため、平成27年度に理事長をトップとする人材確保会議を立ち上げ、看護師確保キャラバン隊を創設し機構幹部職員が県外養成校を訪問するなど、強力にPR活動を行った。
- ・有能な人材を確保するため、経験者の選考採用を進めるとともに、新たにアソシエイト制度を創設し、ニーズに応じた多様な人材の登用を推進した。
- ・医療従事者の事務的作業を補助する職員の採用により、特に医師事務作業補助者を増員することにより、医師の負担軽減を図った。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
医師・看護師その他医療従事者の確保 対策の充実を図る (即時的で効果的な人材確保)	【今期の実績】 ・優秀な経験者の選考採用実施	55
	・アソシエイト制度の創設、有能な職員の登用	67

	【次期への課題】 ・新たなニーズへの迅速、柔軟な対応	
医師・看護師その他医療従事者の確保 対策の充実を図る （看護師確保対策）	【今期の実績】 ・看護師人材確保対策会議の設置 ・養成校、就職説明会への訪問 ・修学資金等の就職前支援策 ・年間を通じた採用試験の実施	55
	【次期への課題】 ・優秀な人材確保に向けた選考	56 57 58
医療従事者が研修や研究に参画しやすい体制を整備する （認定看護師等の資格取得を支援(医療の質の向上)）	【今期の実績】 ・資格等取得助成制度利用者 総合 20 名、こども 4 名	73
	【次期への課題】 ・必要な資格種別の選定	
職員による経営・業務改善の提案を奨励する制度を充実し、提案が反映される制度の整備を図る （業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成（「業務改善運動推進制度」の実施））	【今期の実績】 ・業務改善提案の活性化 ・表彰による業務改善の推進	116
	【次期への課題】 ・業務改善意識のさらなる高揚 ・改善提案の普及	
医師・看護師の就労環境の改善、向上を図る （多様な雇用形態や勤務形態への取組(就労環境の向上)）	【今期の実績】 ・ワーク・ライフ・バランスに配慮した多様な雇用形態の採用 ・看護師 2 交代勤務制の開始や夜勤専従の試行など柔軟な勤務形態導入への取組み	67
	【次期への課題】 ・職員が働き続けることができるような、更なる多様な勤務形態の整備	
医師・看護師の就労環境の改善、向上を図る （医師の事務負担軽減のための補助職員の配置）	【今期の実績】 ・医師事務補助職員の増員 (総合 67 人、こころ 2 人、こども 19 人) H30. 4 月	68
	【次期への課題】 ・人材の育成（医療に熟知した人材が必要）	
医師・看護師の就労環境の改善、向上を図る （医師・看護師確保のための宿舎・院内保育所の整備）	【今期の実績】 ・総合病院医師宿舎の大規模修繕（H26. 27） ・総合病院の新看護師宿舎完成（H27） ・こども病院医師宿舎を改修（H28） ・総合病院医師宿舎新規建設の準備、こども病院内保育所敷地内リニューアルに向け検討・整備（H29）	70
	【次期への課題】 ・総合病院院内保育所の定員枠の検討 ・こども病院院内保育所の建替え	

(ウ) 災害等における医療救護

①熊本地震への対応状況

- ・熊本地震（平成 28 年 4 月）への医療救護活動として、熊本県阿蘇地域などへ静岡県医療救護班派遣（一般医療チーム及び精神医療チーム）等による被災地支援を発災 1 週間後から平成 28 年 5 月中旬まで実施した。

派遣実績

（単位：日、人）

区 分		派遣期間 (移動を含む)	延日数	合計	派遣職員数		
					医師	看護師	その他
H28	静岡県医療救護班						
	一般医療チーム	4/23～4/27	5	5	1	2	2
	一般医療チーム	4/26～4/29	4	1	1	0	0
	精神科チーム	5/1～5/7	7	5	2	1	2
	精神科チーム	5/6～5/12	7	5	2	1	2
	累 計		23	16	6	4	6

※静岡県医療救護班：静岡県からの要請に基づき、県内公的病院による救護班を組織して派遣。

「一般医療チーム」⇒「総合+こども」「総合」によるチーム編成。

「精神医療チーム」⇒「こころ」によるチーム編成。

※放射線技師派遣：福島県からの要請に基づき、被ばくスクリーニング業務を行う技師を静岡県でチームを編成して派遣。

②東海地震に備えた今後の対応

- ・各病院で災害対応マニュアルの見直しを進め（県立総合病院：H26.4 更新）、東日本大震災を教訓とした想定内容をマニュアルに反映させていくとともに、避難訓練の実施方法や設備面での見直しも検討している。
- ・県や静岡市では、現在各々の防災計画の見直しを行っているところであり、各病院が地域防災における役割を的確に果たせるよう、上位計画の見直しに合わせて機構の計画見直しを行い、体制整備を図る。
- ・医療継続の観点で、道路の復旧が遅れ、医薬品・診療材料の供給に支障を来さないよう、県及び卸業者との協議を進める（航空機による搬送計画等検討）。
- ・被ばく医療について、福島第一原発相当の事故に対応する体制・医療計画の見直しについて県をはじめ関係機関と協議する。

(2) 総合病院

<理念>

「信頼し安心できる質の高い全人的医療を行います」

全人的医療：身体、精神、心理、生活様式などを含めた総合的な視点から、患者さん自身の
全体的な健康回復を目指す医療

<基本方針>

- 1 医療を受ける人々の立場に立ち、説明に基づく心のこもった医療を行います。
- 2 県内の中核病院として高度医療や先進的医療に取り組み、地域医療を支援します。
- 3 救急医療、災害医療、へき地医療、結核医療などの政策医療を積極的に担います。
- 4 将来の医療を担う質の高い人材を育成します。
- 5 快適な職場環境の整備と透明性の高い健全な病院運営に努めます。

ア 総 括

総合病院は、県内医療機関の中核的病院として、各疾患の総合的な医療をはじめ、高度・専門医療や救急・急性期医療を提供している。

本中期計画期間は、主要事業として、循環器病センター機能を活かした24時間365日体制での高度な専門的医療の提供、がん疾患患者に高度な集学的治療の提供、高度救急救命センターとして重症な患者への救急医療の提供を主要事業の三本柱として取り組んだ。

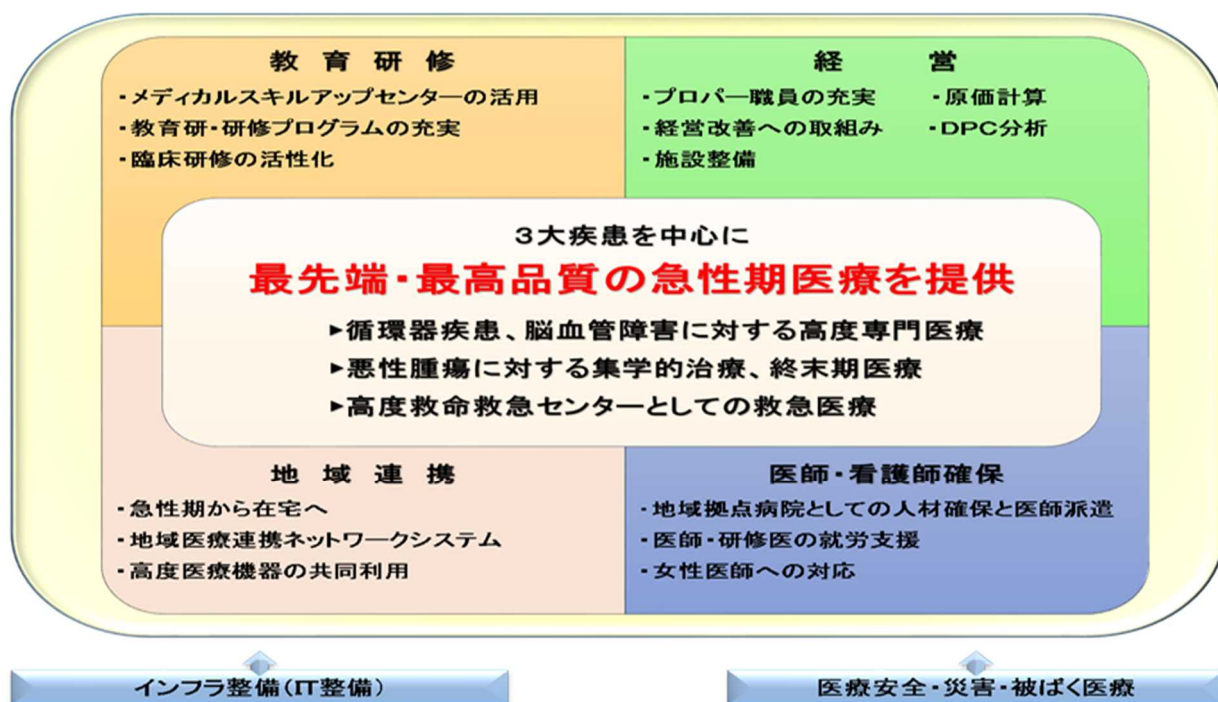
また、地域の中核的病院として、急性期を担当する機能に特化し、機能分担を進めるため、地域の医療機関との連携を強化し、紹介・逆紹介を推進した。

さらに高度な医療機器を地域全体で利用できるように、共同利用の取組みを進めた。

医療内容の高度、手術件数の増加、高額薬剤の使用（オプジーボ、ハーボニー等）に加え、集中系治療病棟の稼働率向上、入院料加算算定件数延べ件数の増加、平成26年4月及び平成28年4月の2回にわたる診療報酬増額改定の効果を最大に享受すべく、施設基準の新規取得、ランクアップおよび維持、DPCデータの分析などに取り組むことにより、診療単価を向上させている。看護師確保対策を実施した結果、必要看護師数を確保し、平成28年5月に6A病棟、6C病棟をフル稼働させ病棟機能の向上に努めた。この結果、入院では、今期の延患者数は中期計画を下回る見込みのものの、単価は中期計画を上回る見込みである。また、外来では、今期の延患者数及び単価が中期計画を上回る見込みである。

今後も、県立総合病院が目指す病院像（次頁(図1)参照）のとおり、病院が所有する各種機能を強化・連携し、県立病院としての機能向上を一層図ることとする。

県立総合病院が目指す病院像（図1）



イ 業務実績を示す各種指標

- ・延患者数については、入院、外来とも中期計画を上回った。また、単価についても、入院、外来とも中期計画を上回った。この結果、期間中の収入は中期計画額を確保する見込みである。

業務実績

区 分			H26	H27	H28	H29	H30 見込
入 院	一 般 病 床	年間入院延患者数 (人)	204,484	204,480	217,351	226,005	230,030
		患者1人1日当たり単価 (円)	71,408	75,433	76,036	76,575	83,908
		平均在院日数 (日)	13.1	11.4	11.6	11.8	11.7
		病床利用率 (%)	90.4	90.3	90.4	93.5	95.2
	結 核 病 床	年間入院延患者数 (人)	7,621	6,588	6,358	6,580	6,358
		患者1人1日当たり単価 (円)	23,346	24,622	24,504	23,713	24,504
		平均在院日数 (日)	68.0	63.5	65.9	74.6	77.4
		病床利用率 (%)	20.9	36.0	34.8	36.1	34.8
外 来		年間外来延患者数 (人)	411,582	426,343	432,762	430,118	434,048
		患者1人1日当たり単価 (円)	17,378	18,547	19,058	19,875	20,299

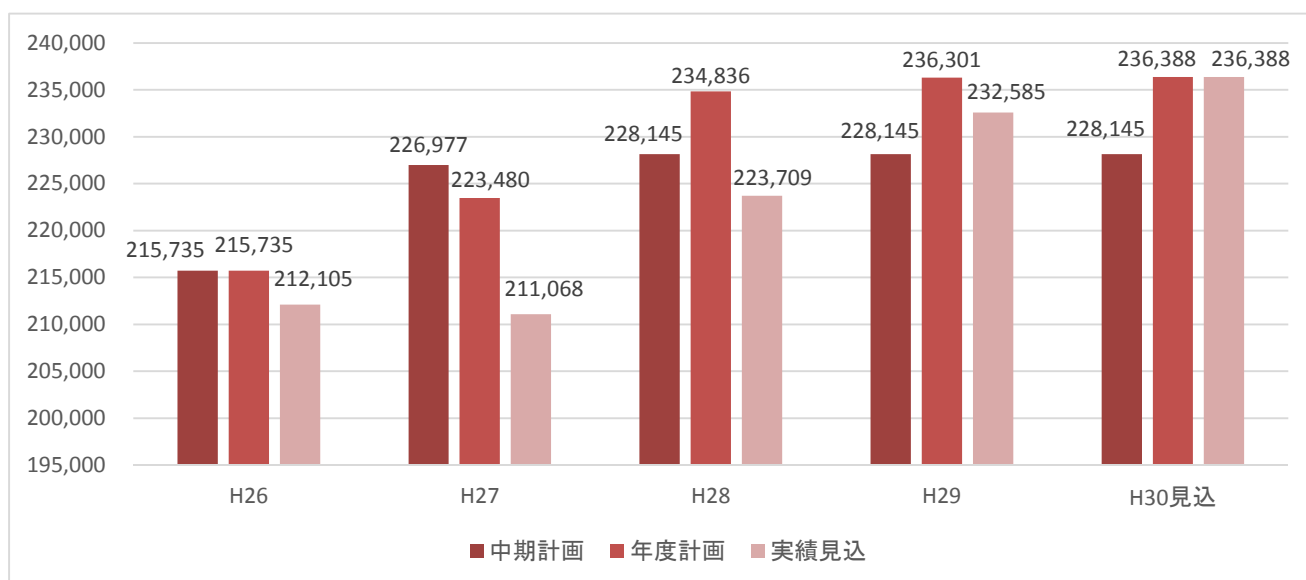
※H26年度 患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。病床利用率は、一般病床620床、結核100床で算定

※H27～30年度 患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。病床利用率は、一般病床662床、結核50床で算定

患者数の推移（26年度実績～30年度見込）

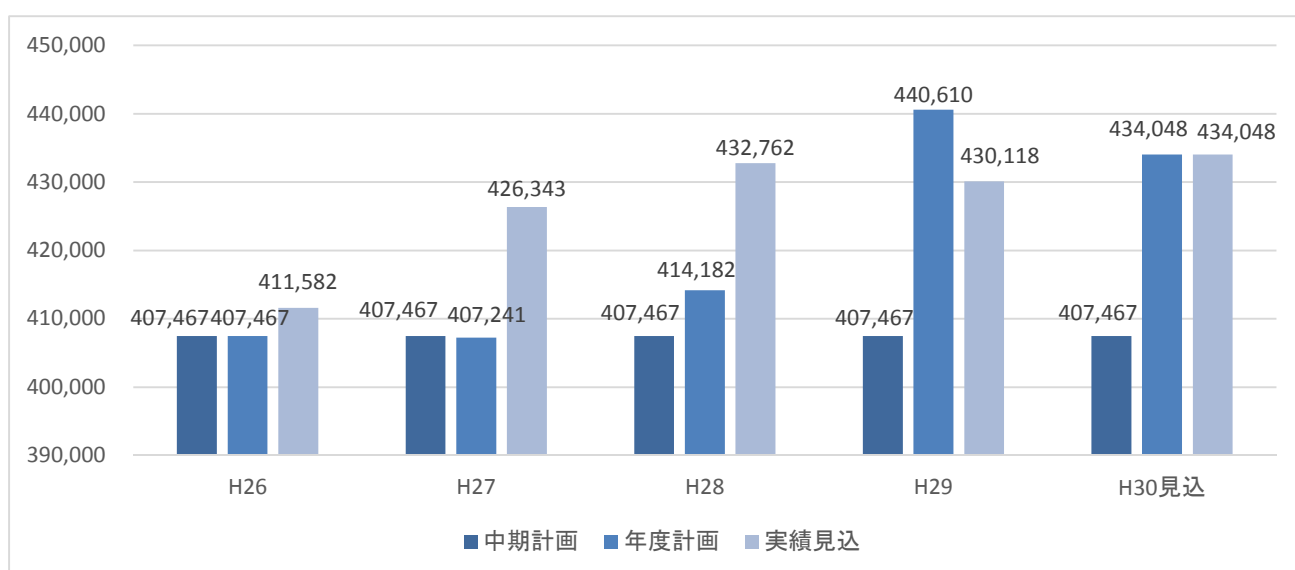
入院延患者数（総合病院）

（単位：人）



外来延患者数（総合病院）

（単位：人）



・紹介率、逆紹介率については、ともに過去最高の水準を実現し、病診・病病連携がいっそう進んでいる。

紹介率・逆紹介率

（単位：%）

区 分	H26	H27	H28	H29	H30 見込	備 考
紹 介 率	85.0	89.1	89.0	89.4	90.6	
逆紹介率	127.5	134.3	161.5	161.8	175.5	

※紹介率・逆紹介率の算定方法については、P71の用語解説を参照。

ウ 特記事項

(ア) 医 療

- 医療の提供については、循環器病、がん医療、救急医療の3本を重点に据えるとともに、地域医療の支援及び医療技術者の研修に重点的に取り組んでいる。厚生労働省告示により、全国1,668のDPC病院（急性期病院）の中で全国140病院（平成29年3月現在）のⅡ群の一つとなり、平成24年3月から平成30年3月まで継続して大学病院本院（Ⅰ群）と同等の高密度診療及び医師研修を行っている病院として選ばれた（県内では当院を含めて5病院）。
- 急性心筋梗塞、脳卒中等の循環器疾患医療については、ハイブリッド手術室を整備し、平成26年10月より運用を開始した。最新の治療器材と鮮明な画像診断を併用し、ステントグラフト治療やTAVI（経カテーテル大動脈弁治療）など、循環器分野における先進的な治療を行った。
- 集中治療病棟の改修を行い、重症度の高い患者の治療体制を整備した。これに伴い施設基準のランクアップが実現して入院収益の増加に貢献した。
- がん医療については、総合相談センターに専従で認定看護師を配置し、相談体制を強化している。放射線治療の充実を目指してリニアックを4台設置し、稼働している。このほか、地域の医療者にも開かれたがん診療連携拠点病院として機能強化に努めている。
- 毎年度、国立がん研究センターから公表される「がん診療連携拠点病院院内がん登録 全国集計報告書」において、最新版2015年の当院のがん登録件数は全国427施設で46番目に多い登録件数であった。平成26年2月から手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を導入し、泌尿器領域の前立腺がん手術、膀胱全摘除術（全額自費診療）、腎部分切除手術婦人科領域の子宮頸がん手術、大腸がん（主に直腸がん）の手術を行った。また、平成28年12月には、全国5番目（大学病院以外では全国初）となる、産婦人科領域のダ・ヴィンチを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術の施行が先進医療で承認された。
- 最新鋭の手術機器や放射線治療装置を取り入れるため、平成27年度より先端医学棟の建設に着手し、平成29年度の7月に竣工を迎え、9月より運用を開始している。先端医学棟では、手術や放射線治療を更に発展させ、高度・先端医療を提供する県内の中核病院として機能の強化、患者サービスの向上を図るため、手術室を県内最多となる22室に拡充し、最新鋭の医療機器を配置してロボット手術やハイブリッド手術などを含む手術件数を伸ばしている。

また、最新鋭の放射線治療機器に対応できる大型の放射線治療室4室を整備し、これまで以上に体への負担が少なく、かつ高精度な放射線治療を実施している。

研究では、医師が診療業務をしながら臨床研究にも取り組むことができる「リサーチサポートセンター」を設置。また、乳幼児期の難聴や、人工内耳の装用による脳の発達のメカニズムなどについて研究する「きこえとことばのセンター」（静岡県乳幼児聴覚支援センター）もリサーチサポートセンター内に整備されている。
- 近年増加する外来患者に対応するため、平成29年3月に大型立体駐車場の工事発注を行った。平成29年5月に周辺工事を開始し、平成30年の8月末のオープンを予定している。
- 救急医療については、平成27年度に高度救命救急センターの指定を受けた。広範囲熱傷、指肢切断、急性中毒等の特殊疾病患者に対する救命医療を行うために必要な診療機能を備えた。また、平成26年6月にドクターカーを導入、運用開始し、静岡市と運用に関する協定を結び、救命救急センターのスタッフが搭乗し、災害や事故の現場に急行する、又は搬送途中の救急車とドッキングして治療を開始することにより、救命率向上に努めた。平成27年度末には、富士市及び富士宮市とも運用に関する協定を結び近隣地域にも活動の範囲を広げた。加えて患者の寄付金を活用して2台目となる救急車を導入した。

- ・ 地域医療の支援については、平成 26 年度から平成 29 年度末まで県立病院医師交流制度に基づき 11 医療機関に対して延べ 2,623 人の医師の派遣を行うとともに、PET や CT・MRI の高度医療機器の共同利用を進めている。また、平成 22 年度総務省委託事業である「地域 ICT 利活用広域連携事業」により始めた「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」は順調に拡大し、平成 30 年 3 月末現在、開示施設は 18 病院、参照機関は 134 施設となっている。各地域の医師会とともに、診療情報共有のためのネットワークを推進している。

平成26年～30年度 県立総合病院の医師派遣

- 24

※()は29年度実績のNo (以下同様)

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
循環器病センター、先端医学棟の機能を生かすべく、循環器疾患患者に対し、24時間を通して高度な専門的治療を提供する体制の整備を図る	【今期の実績】 ・CCU/ICUの24時間365日の運用体制維持し、高度専門医療を提供 ・特定集中治療室管理料2の施設基準を取得し、ランクアップ (増収見込額 128百万円/年) ・心臓リハビリテーションのランクアップ (増収額 4.8百万円/年) ・脳卒中地域連携クリニカルパスの適用患者数は毎年40件～50件で安定的に推移した。 ・MRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室の運用体制を整備し、高度専門医療を提供 ・期間を通じて、ハイブリッド手術室の使用件数、TAVI実施件数、ステントグラフト挿入術は増加している	27～28 (27～28) ・ 30 (30)
	【次期への課題】 ・急性心筋梗塞、脳卒中等の循環器疾患において、更なる体制の充実	
がん疾患患者に対して、地域がん診療連携拠点病院として、最新・最良の診断、ロボット支援手術及び化学療法、放射線治療を組み合わせた高度な就学的治療や予防医療を提供する体制の整備。地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療の提供の高度な集学的治療を提供する体制整備、情報提供・発信する体制の充実を図る	【今期の実績】 ・がん手術、放射線治療、外来化学療法、緩和ケア、がん相談、がん登録の件数は着実に増加している。 ・緩和ケアチーム介入症例数の維持 ・高度ながん治療の提供体制の強化・充実 (放射線治療室4室、ダヴィンチ2台) ・ロボット支援手術の件数増加、加えて適応疾患の拡大	31～35 (31～35)
	【次期への課題】 ・麻酔科医、放射線科医、消化器内科医の確保 ・常勤精神科医の確保 ・外来化学療法センターの円滑な移転	
重篤な救急患者に対応する高度救命救急センターの運営 (救急医療への取組み(救急の体制))	【今期の実績】 ・高度救命救急センターに指定 ・救急車搬送患者の受入体制の確保 ・特殊疾病患者受入れ数の増加 ・ドクターカーの出動回数の増加、出動可能な市町の拡大 (5市2町) ・当直体制、当番体制の整備 ・医師の変則勤務の試行	36～37 (36～37)
	【次期への課題】 ・医師の負担軽減 ・救急専門医の確保	
地域医療支援病院として、情報通信技術を活用した医療連携や遠隔診断のネットワークの構築。高度な専門施設・医療機器の共同利用をより促進する体制の整備を図る	【今期の実績】 ・紹介率85%以上、逆紹介率120%以上 ・CT、MRI、PETなどの高度医療機器の共同利用 ・ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタルの広	11・14～ 15 (11・90～91)

(地域医療支援への取組み(地域医療支援病院の機能))	域ネットワークの構築 (利用料の徴収、サーバー更新) ・関係機関との連携により地域連携クリニカルパスの適用数の増加	(47・48)
	【次期への課題】 ・PET検診の提携拡大、件数の増加	

循環器病センター



救急処置室（1F）



心カテ室（2F）



CCU（3F）

先端医学棟



<先端医学棟>



<病院全景>



<先端医学棟1階 放射線治療室>



<先端医学棟1階 放射線治療待合>



<先端医学棟2階・研修部門 講義室>



<先端医学棟3階 手術ホール>



＜先端医学棟4階 HCU＞



＜先端医学棟5階 ラウンジ＞



＜第1立体駐車場完成イメージ図＞



＜救急車 日産NV400＞

（イ）経営改善

- ・ 必要看護師数が確保できない状況の中、医療秘書や病棟支援を行う看護助手の配置、看護師の離職防止対策などに取組み、一般病棟の7対1看護の維持に努めた。また、看護提供方式を「小チーム共同体型」から「固定チームナースング方式」に平成27年11月に変更を行った。継続的に看護師確保に努めた結果、平成28年5月より病棟をフル稼働させることができ、医業収益の増加に寄与できた。
- ・ 平成25年9月から引続き、自治体共済会MRPベンチマークシステムを用いて、卸・メーカーに対して診療材料の価格交渉や品目の切替えを行った。
- ・ 平成28年4月に入退院センターを開設した。入退院センターでは、患者個々の社会的背景を捉え、入院前から退院後を見据え、一貫したサポート（入院前問診・オリエンテーション等）を行うことで、患者満足度向上と病棟看護師の業務量軽減を図った。また、空床情報の一元管理と、適切なベッドコントロールを行い、病床再編や病床利用率の向上を図った。
- ・ 重症系病棟の稼働率、算定率向上に向けて、医師を中心に効率的な病棟運用に努めている。
- ・ 平成29年9月より、共同購入組織である「一般社団法人日本ホスピタルアライアンス（略称：NHA）」に加盟し、より一層の診療材料費の低減を行った。
- ・ 平成27年2月にSPD（委託）を導入し、物品の一元管理を開始した。発注、払出、搬送、在庫管理、棚卸等を一元管理することにより、業務効率化、不要在庫の削減、期限切れ廃棄物品の削減などを行った。先端医学棟の開棟により、増設された手術室の効率的な運用に努めている。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
診療報酬制度の研修体制、専門的な知識を有する事務職員の養成等、診療報酬の適正な収入確保対策を講じる (施設基準の取得(診療報酬の確保))	【今期の実績】 ・先端医学棟の開棟に伴い、重症病棟の充実化を進めた（I C Uのランクアップ、H C Uの増床） ・7 対 1 看護維持等（看護提供方式の変更） ・新規に取得した施設基準の数 46 件(ランクアップ 11 件含む) ・高度専門医療の提供	108 (108)
	【次期への課題】 ・施設基準の維持・拡大 ・院内に専門的知識を持った職員を養成	
業務内容に応じた多様な契約手法の活用や事務の効率化などによるコスト削減の取組み	【今期の実績】 ・S P D 導入により病棟の薬品、診療材料の在庫額の削減 ・卸・メーカーに対して診療材料の価格交渉や品目の切替えを実施（MR P ベンチマークシステム） ・共同購入組織のNHAに加盟し、より一層の診療材料費の低減を実施	107・109 ～111 (107・109～111)

(ウ) 環境改善

- ・院内保育所を整備するなど就労環境の向上を図っている。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
医師・看護師の就労環境の改善、向上を図る	【今期の実績】 ・医療従事者の事務的業務軽減を図り、医療事務補助、看護助手等の効果的配置を実施した。 ・看護提供方式を変更した。 ・医師宿舍の建築・衛生設備の大規模修繕を実施した。 ・医師確保対策をさらに推進するため、医師宿舍新規建設の準備を進めた。 ・看護師宿舍(軽量鉄骨造2階建 26 部屋)を建設した。 ・院内保育所の土曜保育の運営時間を 18 時から 19 時まで延長した。 ・保育園入所者へのインフルエンザ予防接種の実施	67～70 (68・70)

(3) こころの医療センター

<理 念>

安全・良質・優しいこころの医療を、いつでもどこでも誰にでも

<基本方針>

- 1 患者さんの人権と尊厳を守ります。
- 2 24 時間 365 日、精神科救急医療を提供します。
- 3 最新の知識と技術を取り入れた高度専門医療を提供します。
- 4 手厚いチーム医療によって早期退院を目指します。
- 5 在宅医療とリハビリテーション、社会参加を支援します。
- 6 社会資源を開拓し、連携を強化します。
- 7 司法精神医療、災害医療などの公益医療に主体的に参加します。
- 8 社会人・組織人・医療人としての人材育成に努めます。
- 9 広い視野に立って研鑽を重ね、積極的に社会へ情報発信します。
- 10 健全で透明性の高い病院経営を目指します。

ア 総 括

こころの医療センターでは、日本トップレベルの「精神科救急・急性期医療」を提供するため、「救急・急性期医療の充実」、「在宅医療の拡充」、「先進医療技術の導入」及び「司法精神医療の充実」を重点的に推進し、目標とする精神科医療の体制整備（将来構想(図2)参照）に取り組んでいる。

平成 22 年度より急性期病棟群（救急及び急性期病棟）を中心に救急・急性期患者の受け入れを行い、それを後方的に支援する慢性病棟群（回復期及び慢性重症病棟）との機能分化を進め、平成 25 年度には急性期病棟を救急病棟に移行する等、診療体制を強化した。平成 28 年度には、南 1 病棟の一部個室化運用の開始により、救急病棟、回復期病棟における病棟間の連携強化を図り、効率的な病棟運営に努めた。

一方、精神科における医療は、「入院医療中心から地域生活中心へ」という方針が世界的趨勢であることから、在宅医療支援部門を強化し、地域生活での支援体制の整備と長期入院者の退院促進に取り組んだ。

合わせて、退院後の安定的な生活を維持し、再入院を防止することを目的に、患者に対する心理・社会的治療に積極的に取り組んだ。

また、クロザピンや修正型電気けいれん療法（m-ECT）など、高度な医療の導入に積極的に取り組むとともに、医療観察法指定入院医療機関としての機能拡充を図るなど、県内精神医療の中核病院としての役割を果たすべく取り組んだ。

The flowchart illustrates the medical care system for individuals with mental health issues, showing the progression from initial contact to various treatment and support stages.

Legend:

- ACTチーム ... 在宅医療支援チーム
- DC/OT ... テイクアップ・作業療法

Flowchart Details:

- Initial Contact:** 患者・家族 (Patient/Family) leads to 受診要請 (Request for Consultation).
- Consultation:** 受診要請 leads to 電話相談 (Telephone Consultation).
- Specialized Care:** 電話相談 leads to 救急外来 (Emergency Outpatient) and 専門外来 (Specialized Outpatient).
- Acute Care:** 救急外来 and 専門外来 lead to 急性期病棟群 (2階) (Acute Care Ward Group, 2nd Floor), which includes 救急病棟 (Emergency Ward) and 急性期病棟 (Acute Care Ward).
- Recovery and Support:** 急性期病棟群 leads to 回復期病棟 (Recovery Ward), 司法病棟 (Forensic Ward), and 重症病棟 (Intensive Care Ward), collectively forming the 慢性病棟群 (1階) (Chronic Care Ward Group, 1st Floor).
- Home Medical Support:** 急性期病棟群 leads to 在宅医療支援部 (Home Medical Support Department), which includes the ACTチーム (ACT Team), DC/OT (Therapies), and 居住プログラム (Residence Program).
- Outpatient Care:** 電話相談 and 専門外来 lead to 外来 (在宅医療) (Outpatient (Home Medical)).
- Recovery and Social Integration:** 回復期病棟, 司法病棟, and 重症病棟 lead to 社会復帰 (Social Return).
- Collaboration:** 社会復帰 leads to 連携・協力 (Collaboration) with 社会資源 (福祉施設等) (Social Resources (Welfare Facilities, etc.)).
- Referral:** 社会資源 (福祉施設等) leads to 紹介 (Referral) to 他病院 (Other Hospital).

- ・入院延患者数は、平成 28 年度に南 1 病棟の一部個室化による運用を開始し、救急病棟、回復期病棟における病棟間の連携を強化する等、効率的な病棟運営に努めた。その結果、早期入院早期退院が促進され、入院延患者が大幅に上昇した。
- ・入院単価は、平成 25 年度に北 2 病棟を急性期病棟から救急病棟にランクアップしたことで、入院単価が上昇し、その後、25,000 円前後で推移している。
- ・外来延患者数は、概ね 40,000 人前後で推移している。
- ・外来単価は、概ね 6,000 円前後で推移している。

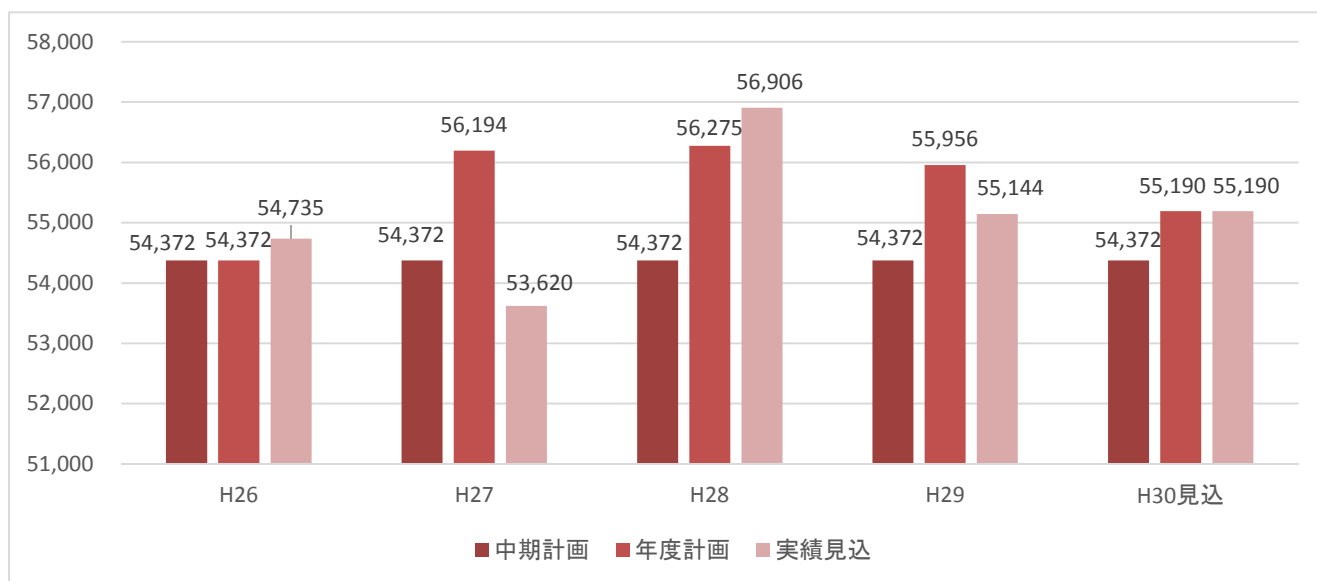
区 分		H26	H27	H28	H29	H30 見込
入院	年 間 入 院 延 患 者 数 (人)	54,735	53,620	56,906	55,144	55,190
	患者 1 人 1 日 当 た り 単 価 (円)	25,009	24,101	25,507	25,137	25,349
	平 均 在 院 日 数 (日)	108.1	112.3	101.0	108.5	105.7
	稼 働 病 床 利 用 率 (%)	83.3	83.9	90.6	87.8	87.9
外来	年 間 外 来 延 患 者 数 (人)	40,366	39,691	40,756	41,140	40,416
	患者 1 人 1 日 当 た り 単 価 (円)	6,001	6,010	5,990	6,149	6,104

31

患者数の推移（26年度実績～30年度見込）

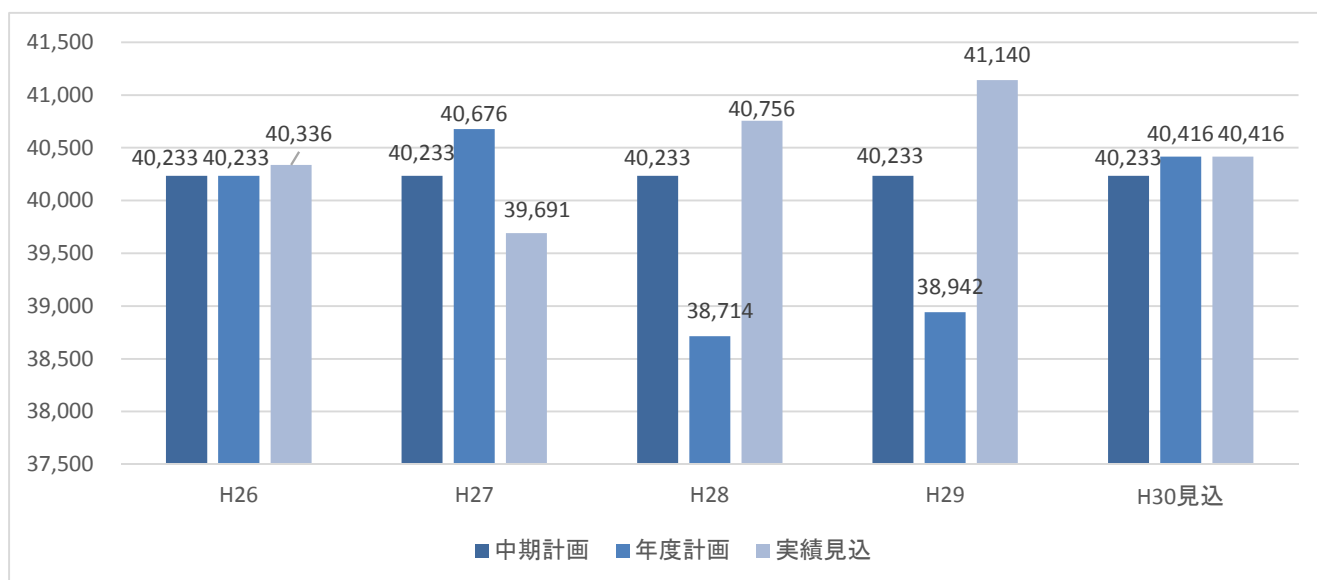
入院延患者数（こころの医療センター）

（単位：人）



外来延患者数（こころの医療センター）

（単位：人）



- ・紹介率は、地域医療機関との連携、予約制の浸透等により、計画値を上回っているが、逆紹介率については、23年度を除いて計画値を下回っている。

紹介率・逆紹介率

（単位：％）

区 分	H26	H27	H28	H29	H30 見込	備 考
紹 介 率	57.9	56.2	55.0	56.3	56.3	
逆紹介率	27.4	30.8	29.6	28.6	28.6	

ウ 特記事項

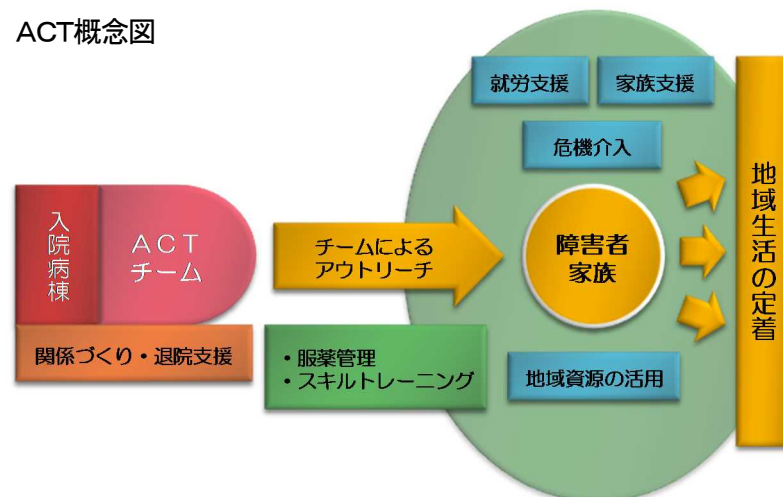
(ア) 医 療

- ・ 救急・急性期を中心とした診療体制の整備を図るとともに、包括的在宅医療支援体制モデルの構築や精神科救急相談体制の整備など、退院後の在宅支援を行うシステムを構築することで、「早期に集中的治療を行い、早期に社会復帰する」という体制づくりを進めている。
- ・ 地域医療の支援については、県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を開設するなど、24 時間体制で救急相談に対応したほか、講演会等への講師派遣、出前講座への認定看護師の派遣などに取り組んだ。
- ・ 先端薬物療法（クロザピン）や先進的な治療法である修正型電気けいれん療法（m-ECT）の実施など、医療水準の向上と重症患者の病状改善に取り組んだ。
- ・ 退院後の安定した地域生活の維持、再入院の防止に向け、心理・社会的治療の一環として、患者に対する心理教育・家族教室に積極的に取り組んだ。
- ・ 包括的在宅ケア（ACT）チームによる退院支援と手厚い 24 時間 365 日サポート体制による退院後の地域生活支援モデルの構築を進めた。
- ・ 県内唯一の医療観察法指定入院医療機関として本県関係の入院処遇対象者を受け入れており、増床により機能を充実し、地域完結型の医療環境の形成を進めている。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
24 時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が 90 日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る (精神科救急・急性期医療の提供体制の整備)	【今期の実績】 ・ 精神科救急、急性期医療に特化した診療体制の強化 ・ 在宅医療支援体制の強化	39
	【次期への課題】 ・ 長期在院患者の退院促進と在宅医療支援の強化 ・ 新規患者比率を高める ・ 新規患者の 90 日以内の退院率を高める	
24 時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が 90 日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る (精神科救急医療相談体制の整備(電話相談部門のワンストップサービス))	【今期の実績】 ・ 県内全域を対象とし、24 時間体制で救急医療相談に対応	38
	【次期への課題】 ・ 相談件数を増加させるため、精神科救急ダイヤルの一層の周知	

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
他の医療機関では対応することが困難な重症患者に対する先進的治療への積極的な取組をする (先端薬物療法等(クロザピン、m-ECT)を積極的に実施する)	【今期の実績】 ・ m-ECT (修正型電気けいれん療法) の実施 ・ クロザピンによる治療の実施	40・41
	【次期への課題】 ・ m-ECT の安定した実施に向けての麻酔医の確保 ・ クロザピンによる副作用に対する安全対策の徹底	
他の医療機関では対応することが困難な重症患者に対する先進的治療への積極的な取組をする (心理・社会的治療についての実施体制を強化・拡大する)	【今期の実績】 ・ 患者に対する心理教育・家族教室を実施	42
	【次期への課題】 ・ 心理教育・家族教室の実践に対する診療報酬算定方法の検討	
多職種チームによる包括的な在宅医療支援体制モデルを構築し、継続実施する (ACTの構築)	【今期の実績】 ・ ガイドラインに沿ったACTによる支援の実施	43
	【課題】 ・ 地域支援を行うための収入の確保	
医療観察法等の司法精神医療への積極的な関与	【今期の実績】 ・ 医療観察法指定入院医療機関としての適正運用と機能拡充に適したプログラムの提供	44
	【次期への課題】 ・ スタッフの一層のレベルアップ	
機構内3病院における連携体制 (精神身体合併症への対応:総合病院との連携体制)	【今期の実績】 ・ 総合病院内科医、皮膚科医等による往診 ・ 総合病院緩和医療チームへの支援 ・ 緊急時の搬送体制の確立 ・ こども病院精神科の入院治療への支援	—
	【次期への課題】 ・ 病院間横断的な検討の実施	

ACT概念図



(イ) 経営改善

- 診療報酬の適正請求や医療観察法の指定病床の増床など、収益の増収に努めている。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
診療報酬制度の研修体制、専門的な知識を有する事務職員の養成等、診療報酬の適正な収入確保対策を講じる (施設基準の取得等(診療報酬の確保))	【今期の実績】 ・診療報酬の適正請求に努めるとともに、医療観察法病棟の増床などによる収益増	108
	【次期への課題】 ・施設基準の維持・拡大 ・救急急性期医療等の拡大(算定外患者を減らす、病床利用率の向上) ・外来患者の増加策の検討	
遊休施設等の有効活用を図る	【今期の実績】 ・北4病棟を医療観察法の作業療法ゾーンとして活用	—
	【次期への課題】 ・北3及び南3病棟のその他空きスペースの活用法の検討 ・グランド等の遊休施設の活用法の検討	

(ウ) 環境改善

- 北1病棟の医療観察法病床整備に合わせて、今までナースステーションの一角にあった北1及び北2病棟看護職員の休憩室を、別棟として新築し独立した空間を確保した。
- 夜勤職員用の休憩室を、3階フロアに4部屋(男女別に2部屋ずつ)確保した。
- 男性看護師の増加に伴い、男性用の休憩室を3階フロアに増設した。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
就労環境の改善	【今期の実績】 ・女性医師の夜勤時における就労環境改善のため、女性医師用当直室を整備	—

女性医師用当直室



女性医師用当直室 (シャワー室)



(4) こども病院

<理 念>

「私たちは、すべての子どもと家族のために、安心と信頼の医療を行います。」

<基本方針>

「患者中心の医療サービスの継続」

「地域の医療機関と連携し、診断・治療が困難なこどもの患者へ
質の高い効果的な医療を提供」

こども病院が目指す方向（図3）

- | | |
|------------|--------------------|
| 1 専 門 病 院 | 安全を重視した質の高い医療 |
| 2 教 育 | 教育内容の充実が最大目標の一つ |
| 3 地 域 連 携 | 相互支援に基づいた地域医療連携 |
| 4 効率的な病院経営 | 独善に陥らない標準的な経営と改善努力 |
| 5 働きやすい病院 | スタッフの満足度が高い労働環境 |



ア 総 括

こども病院は、県内小児医療の中核病院として、高度・専門医療や救急・急性期医療を提供している。平成22年度に、職員公募により病院理念を改定し、病院の目指す医療について職員の意識統一を図った。

外来診療部門における診療需要の増大や設備の老朽化等に対応するため、平成26年度に新たな外来棟を建設し、平成27年3月から診療を開始した。平成27年度には既存外来棟の改修工事を行い、平成28年2月から診療を開始した。

循環器医療分野では、平成26年度にCCU（循環器集中治療室）と外科系病棟の稼動病床を増やし、平成28年度には循環器病棟に準重症患者を受け入れる病室を設置したほか、心臓移植が必要な小児患者の治療を移植直前まで可能とする小児用補助人工心臓を導入し稼動させるなど、小児重症心疾患患者の受入体制の充実を図った。

また、国際交流においては、平成27年8月から10月にかけて、マレーシア国立循環器病センターから複雑先天性心疾患や心臓脱等を併発する患者を受け入れ、2回の手術により治療に成功した。平成28年4月には中国の浙江大学医学院附属儿童医院を訪問したことを始め、同年10月には児童病院からの研修医の受入れ、平成29年11月には当院から児童病院を訪問し、友好協力協定を締結するなど積極的な国際交流を行った。

平成 27 年 9 月には、これまでの救急医療の実績を評価され、救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受けるなど、県内小児医療の中核病院として、循環器疾患医療、小児救急医療、周産期医療、小児がん医療、児童精神科医療を中心にすべての小児の疾患に対応可能な小児専門総合医療施設として、高い評価を得ている。

イ 業務実績を示す各種指標

- ・ 入院延患者数は、期間中平均在院日数が短縮してきているなかで、ほぼ同水準を維持する見込みである。外来延患者数は、期間中順調に増加してきている。
- ・ 入院単価は、平均在院日数が短縮しており、期間中上昇傾向が続く見込みである。外来単価については、H29 年度は高額薬品の使用患者が治験となり薬剤費が製薬会社負担となったことで、単価は減少した。

業務実績

区 分		H26	H27	H28	H29	H30 見込
入 院	年間入院延患者数 (人)	77,777	78,059	77,860	75,586	81,040
	患者 1 人 1 日当たり単価 (円)	88,915	88,371	91,067	92,256	95,696
	平均在院日数 (日)	12.1	11.5	10.9	10.4	10.6
	病床利用率 (%)	79.8	78.7	78.7	76.4	81.9
外 来	年間外来延患者数 (人)	101,770	103,282	104,666	105,763	107,645
	患者 1 人 1 日当たり単価 (円)	15,633	14,160	14,184	13,627	13,482

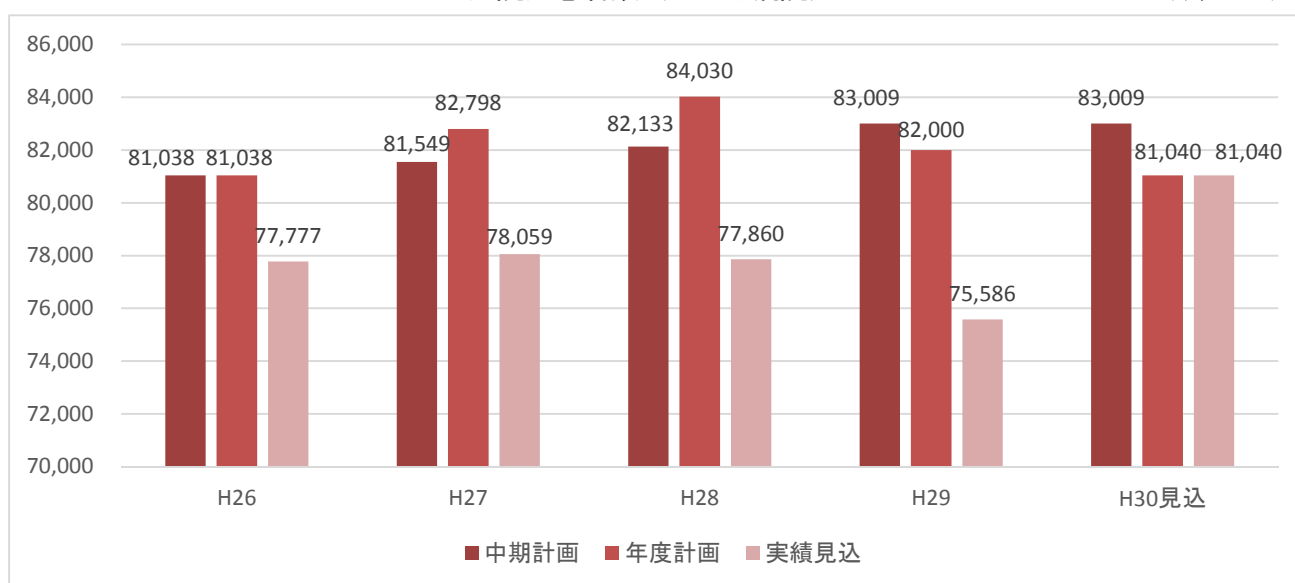
※患者 1 人 1 日当たり単価は、税込金額（調定額ベースで算定）。一般の平均在院日数は、NICU、GCU、MFICU、PICU、精神、短期 3 を除いて算定。病床利用率は、入院は H26 年 5 月までは 264 床、H26 年 6 月から H27 年 7 月までは 269 床、H27 年 8 月から H28 年 5 月までは 272 床、H28 年 6 月以降は 271 床で算定。

※H30 見込は、H30 年 3 月末現在の見込数字。

患者数の推移（26 年度実績～30 年度見込）

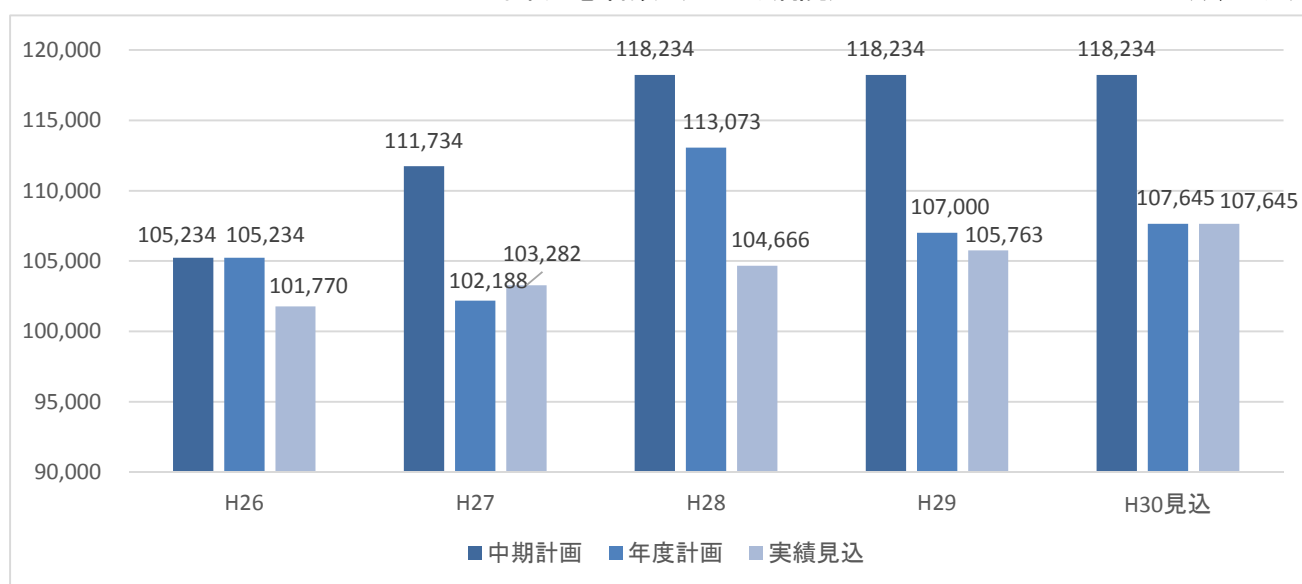
入院延患者数（こども病院）

（単位：人）



外来延患者数（こども病院）

（単位：人）



- ・ 紹介率は、100%に近い実績を維持している。逆紹介率については、年度ごとに上下があるが、今後も他医療機関との連携を強化し、向上に努めていく。

紹介率・逆紹介率

（単位：%）

区 分	H26	H27	H28	H29	H30 見込	備 考
紹 介 率	91.8	93.0	94.7	94.1	93.7	
逆紹介率	53.2	52.0	52.5	46.5	50.8	

ウ 特記事項

（ア）医 療

- ・ 全国初の小児循環器集中治療専門医を配置したCCU、カテーテル治療（アンブラツァー）や遠隔エコー診断等、循環器疾患に対する高度先進的医療の整備・提供をした。
- ・ 自治体立病院では全国初、小児専門病院では全国2番目となる小児用補助人工心臓を導入し、心臓移植が必要な小児患者の治療を移植直前まで可能とする体制を整備した。
- ・ 総合周産期母子医療センターとして周産期医療の中核を担い、妊娠管理から治療までのシステム構築の一環として県内の医師看護師に対する講習会を開催するなど、ハイリスク胎児・妊婦、新生児に対する高度な先進的治療の提供をした。
- ・ 児童精神科病棟（36床）において、外来から入院まで一貫した治療体制を整えとともに、厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に参画しネットワーク構築のため学校・地域との連携強化に努めるなど、児童精神科分野における中核的機能の発揮に取り組んだ。
- ・ 小児集中治療センター（PICU）と小児救急センター（ER）を中心に、24時間365日を通して、初期救急を含めた小児救急患者を受け入れた。また、小児救急医療への対応強化のため、地域の救急医療機関や消防機関との検討会を開催するなど、重篤な小児救急患者の受入体制の強化に努め、平成27年9月には救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受けた。

- ・ 静岡県小児がん拠点病院として、関係診療科の協働連携による共同カンファレンスを開催し、小児がんの高度な集学的治療へ積極的に取り組んだ。
- ・ 地域医療の支援については、医療機関に対して医師を派遣したほか、地域の医療機関等の看護師、保健師への実習研修の受け入れ、講演会やセミナーの開催などに取り組んだ。
- ・ 医療技術者の研修については、研修医の海外研修への派遣や海外研修医の受入、後期研修医の臨床指導のためにオーストラリアから医師を招へいするなど教育機能の充実に努めた。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
小児重症心疾患患者に対し、24 時間を通して高度な先進的治療を提供するためハイブリッド手術室等の先進設備を整備する 加えて小児心疾患治療のリーディング施設として専門医等の育成に努める	【今期の実績】 ・ 循環器集中治療科の運用 ・ 小児循環器疾患治療スタッフの教育研修の充実 ・ 心エコー画像のリアルタイム遠隔診断の実施 ・ 高度な小児心臓手術の実施 ・ ハイブリッド手術室の整備 ・ 小児用補助人工心臓の導入	45
	【次期への課題】 ・ C C U 機能の更なる充実	
地域の医療機関と連携して、ハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの構築に努めるとともに新生児に対して高度な先進的治療を提供するための体制を拡充する	【今期の実績】 ・ 地域の医療機関との連携 ・ 3 病院 1 法人のメリットを活かし、患者の搬送、医師の応援体制の確保等、県立病院間で連携 ・ 周産期医療従事者の技術向上のため講習会、症例検討会を実施	16・46
	【次期への課題】 ・ 医師の確保 ・ 周辺病院の産科閉鎖等による、地域の周産期医療弱体化への対応	
小児がんの拠点機能を有する病院として、高度な集学的機能に積極的に取り組む	【今期の実績】 ・ 院内の各診療科、他職種と連携し高度な集学的治療へ積極的に取り組んでいる ・ 細胞処理室の整備	47
	【次期への課題】 ・ 県立がんセンターとの連携など、診療の更なる充実	
24 時間を通して重篤な小児救急患者の受入体制を維持・強化するとともに、救急医療全般にわたって地域の医療機関と分担して受け入れる体制を整備する	【今期の実績】 ・ 小児救急センター（E R）の運用 ・ 静岡県の小児三次救急を担う ・ 静岡市の二次救急輪番制への継続参加 ・ 救急隊・ドクターヘリの受入れ ・ 全国から注目を集める P I C U（小児集中治療室） ・ 救急医療功労者厚生労働大臣表彰受賞	48
	【次期への課題】 ・ 小児救急医療、支援体制の更なる充実	

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
精神疾患を持つ小児患者やその家族に対して、児童精神分野における中核的機能の発揮に努める	【今期の実績】 こどもの精神保健ネットワークの中核機能を担う拠点病院として連携推進事業の実施	50・51
	【次期への課題】 ネットワーク事業の学校等への周知（認知度の向上）	
医療に関する技術者（医師、看護師等医療従事者）の研修を通じた育成と質の向上	【今期の実績】 - 新専門医制度に対応した専攻医研修医プログラムの実施 - 海外との交流（タイ、オーストラリア、ベトナム等）により、研修医の派遣・受入、指導医の招へいを実施 - 医療従事者向けの講演会・セミナー等の実施	63・72 75・89
	【次期への課題】 - 医師の多忙化を解消し、研修機会を確保 - 専任の教育担当医師の確保	
医療に関する調査及び研究（県民への情報提供の充実）	【今期の実績】 - 定期的な公開講座等の実施 - こどもみらいプロジェクト（静岡新聞社主催）に平成25年度から毎年参加	81・82
	【次期への課題】 より効果的な情報提供の検討	
医療に関する地域への支援	【今期の実績】 医師不足の公的病院に医師を派遣	85・86
	【次期への課題】 医師の確保	
災害等における医療救護（他県等の医療救護への協力）	【今期の実績】 小児医療総合施設協議会の広域災害時相互支援に関する協定を締結し、災害時における小児の拠点病院としての役割を果たせるよう体制整備	102
	【次期への課題】 災害発生に備えた病院の機能の充実	

救急の体制



ドクターヘリ



ドクターカー



小児救急センター

(イ) 経営改善

- ・小児特定集中治療室管理料、小児補助人工心臓等の施設基準の取得。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
効率的な業務運営の実現 (診療報酬など収入の適正な確保を図るとともに、業務の内容に応じた多様な契約手法の活用や事務の効率化などによるコスト縮減に取り組み、効率的な業務運営に努める)	【今期の実績】 ・小児特定集中治療室管理料の施設基準の取得 ・小児補助人工心臓の施設基準の取得	
	【次期への課題】 ・施設基準の維持・拡大	

(ウ) 環境改善

- ・既存医師宿舎の改装工事を実施した（平成 28 年度）。
- ・院内保育所の建替計画を進めた。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
医療に関する技術者（医師、看護師等医療従事者）の研修を通じた育成と質の向上 (就労環境の向上)	【今期の実績】 ・既存医師宿舎の改装工事を実施 ・院内保育所のリニューアル計画の設計、建設着工	70・71
	【次期への課題】 ・老朽化した医師宿舎の取扱いの検討	

＜評価凡例＞
A 計画に対し十分に取組み、成果も得られている。 A- 計画に対し十分に取組み、一定の成果が得られている。
B 計画に対し十分に取組んでいる。 C 計画に対する取組みは十分ではない。

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置					
中期計画					
中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)
第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療の提供 医療機関として求められる基本的な診療理念や県立病院が担う医療を明確にし、他の医療機関との機能分担や連携のもと、医療の質の向上に努め、患者や家族、地域から信頼される医療を提供すること。	第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 医療の提供 県立病院機構の全職員は、県立病院が担う役割と責任を認識するとともに、医療機関に求められる基本的な診療理念を理解し、医療の提供に当たってはそれを実践する。	I 1 (1) 各県立病院は、患者が選択し納得できる最良の医療を提供するため、次の事項等に取り組む。 ① 患者への十分な説明と同意の徹底 ② 医療技術の向上 ③ チーム医療の推進 ④ 医療安全対策の充実 ⑤ 患者満足の向上		患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施する。 1	セカンドオピニオン数 (単位：件) 区分 25年度 26年度 27年度 28年度 29年度 30年度見込 総合 98 107 112 114 115 120 ところ - - - - - - こども 44 45 63 39 46 47 セカンドオピニオン情報提供認定件数 (総合) (単位：件) 区分 25年度 26年度 27年度 28年度 29年度 30年度見込 診療情報提供料(Ⅱ) 125 104 125 121 145 150
(1) 基本的な診療理念 診療に当たっては、患者が最良の治療効果を得られるよう、患者との信頼関係の構築に努め、科学的根拠に基づく最適な医療を患者への十分な説明と同意のもとに安全に提供すること。	(1) 基本的な診療理念 診療に当たっては、患者が自らが選択し納得できるよう、患者への十分な説明など、患者との信頼関係の構築に努めるとともに、科学的根拠に基づく医療を安全に提供するため、医療技術の向上、チーム医療の推進、医療安全対策の充実などに取り組む。			•H29 クリニカルパス管理委員会を毎月1回開催し、以下の新規作成、修正の審議・承認を行った。 ・第2期中期目標期間 (H26～30) クリニカルパス管理委員会を毎月1回開催し、以下の新規作成、修正の審議・承認を行った。 ・H28年度 電子カルテシステムの變更に伴う、クリニカルパスの修正を実施した。	既存のクリニカルパスの見直しを随時行うことで適切なクリニカルパスを患者に提供することができ、より良い医療の提供へ貢献している。 A
	2 運用実績などのエビデンスに基づくクリニカルパスの新規作成や見直しを行い、クリニカルパスの適用率を高める。			総合 クリニカルパスの新規作成、適用率等実績 区分 25年度 26年度 27年度 28年度 29年度 30年度見込 新規作成 (件) 23 34 18 16 15 15 修正 (件) 71 68 51 224 130 130 適用率(%) 68.2 73.8 75.8 66.3 62.6 62.6	

中期計画				第2期(H26～30)自己評価			
中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)		
			3	看護提供方式見直し(固定チームナースニングの導入)により、安心を高める看護の提供に努める。	「患者様の声」の推移 (単位:件) 区分 25年度 26年度 27年度 28年度 29年度 30年度見込 意見 117 82 72 57 92 90 原案 60 49 32 37 28 30 患者満足度調査 (単位:%) 区分 25年度 26年度 27年度 28年度 29年度 30年度見込 入院 96.4 95.8 95.6 97.8 98.2 98.2	総 合	A H28年度以降、患者満足度が増加し、看護提供方式の見直し効果と言える。年々患者の要求が高くなり、H29年度はご意見が増加し、感謝の声が減少した。
			4	先端医学棟建設の工事進捗管理を徹底する。先端医学棟の円滑な運用を行うための体制を整備する。	・H29 ・6月末に先端医学棟の建設工事が完了した。 ・7月以降、機器・什器等の購入手続きや既存棟からの移転作業を進めた。 ・8月中旬以降、一部の部門で運用を開始し、9月から本格運用を開始した。 ・第2期中期目標期間(H26～30) 建設工事は概ね順調に進み、先端医学棟は当初計画どおり、H29年6月末に建設工事が完了した。 手術件数 (単位:件) 区分 25年度 26年度 27年度 28年度 29年度 30年度見込 手術件数 7,409 7,860 8,375 8,536 9,115 10,000 HCU延床者数 (単位:人) 区分 25年度 26年度 27年度 28年度 29年度 30年度見込 人数 2,847 2,927 3,308 3,372 3,875 7,005	総 合	A ・先端医学棟及び関連工事について、充分なコスト削減を図った上で、当初計画どおり完了することができた。 ・機器や什器等の購入手続き、先端医学棟への移転手続きについて充分なコスト削減を図った上で遅滞なく作業を進め、当初計画どおり先端医学棟の運用を開始することができた。
			5	立体駐車場建設の工事進捗管理を徹底する。	・H29 ・着工前に近隣住民向け工事説明会を開催(4/6)した。 ・周辺整備工事(北側退場路及び車椅子利用者用駐車場の整備)を先行して実施した。 ・第2期中期目標期間(H26～30) H28年度 市、警察等の関係機関と協議し、建築許可に向けた各種手続きを進め、H28年12月28日付けで静岡市より建築許可を受けた。 設計完了後に速やかに工事発注手続きを進め、3月上旬に施工業者を決定した。 H29年度 ・着工前に近隣住民向け工事説明会を開催(4/6)した。 ・周辺整備工事(北側退場路及び車椅子利用者用駐車場の整備)を4月から先行して実施した。	総 合	A ・市、警察等の関係機関と協議し、建築許可に向けた各種手続きを進め、H28.12月に静岡市より建築許可を受けることができた。 ・設計完了後に速やかに工事発注手続きを進め、H29.3月に施工業者を決定しきを進め、当初計画より完成予定時期を約4か月間、前倒しできる見込みである。

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績（H29・中期期間）	説明																																																																								
			9	医療安全室及び感染対策委員会等を中心に、マニュアルの見直しや研修会を通じて院内感染防止対策・医療安全対策を実施する。	・H29 3病院で、29回の院内感染対策研修、42回の医療安全対策研修を行い、安全・安心な医療の提供に対する職員への意識づけと、体制整備を行っている。 ・医療安全全国共同行動の参加登録病院としてレベルの向上を目指す。 <table><tr><th colspan="2">集訓研修数（件）</th><th colspan="10">院内感染対策研修・医療安全対策研修</th></tr><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>31年度</th><th>32年度</th><th>33年度</th><th>34年度</th><th>35年度</th></tr><tr><td>総合</td><td>4</td><td>1</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>4</td><td>1,058</td><td>12</td><td>1,638</td><td>12</td></tr><tr><td>ところ</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td><td>283</td><td>3</td><td>273</td><td>3</td></tr><tr><td>子ども</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>16</td><td>981</td><td>22</td><td>2,481</td><td>22</td></tr><tr><td>計</td><td>4</td><td>1</td><td>3</td><td>2</td><td>3</td><td>0</td><td>23</td><td>2,471</td><td>37</td><td>4,392</td><td>37</td></tr></table> ※院内感染対策研修・医療安全対策研修ともに指定回数は2回	集訓研修数（件）		院内感染対策研修・医療安全対策研修										区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	総合	4	1	0	2	0	0	4	1,058	12	1,638	12	ところ	0	0	0	0	0	0	3	283	3	273	3	子ども	0	0	0	3	0	0	16	981	22	2,481	22	計	4	1	3	2	3	0	23	2,471	37	4,392	37	A 職員への意識づけのための研修会について、実施体制が整い出来るだけでなく多くの職員が参加できるように、運用や開催時間等を考えて実施している。
集訓研修数（件）		院内感染対策研修・医療安全対策研修																																																																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度																																																																			
総合	4	1	0	2	0	0	4	1,058	12	1,638	12																																																																			
ところ	0	0	0	0	0	0	3	283	3	273	3																																																																			
子ども	0	0	0	3	0	0	16	981	22	2,481	22																																																																			
計	4	1	3	2	3	0	23	2,471	37	4,392	37																																																																			
			10	患者の視点に立った質の高い医療の提供を目指し、患者満足度調査を行い、患者満足度の改善につなげる。	H25から調査実施時期を統一し、実施している。 患者満足度調査 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">区分</th><th colspan="7">29年度</th></tr><tr><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>31年度</th></tr><tr><td>総合</td><td>入院 96.4</td><td>95.8</td><td>95.6</td><td>97.8</td><td>98.2</td><td>98.2</td><td>98.2</td></tr><tr><td></td><td>外来 91.9</td><td>88.2</td><td>89.6</td><td>93.2</td><td>94.0</td><td>94.0</td><td>94.0</td></tr><tr><td>ところ</td><td>入院 —</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td></td><td>外来 88.8</td><td>88.2</td><td>89.8</td><td>88.5</td><td>94.4</td><td>94.4</td><td>94.4</td></tr><tr><td>子ども</td><td>入院 92.5</td><td>91.3</td><td>91.9</td><td>98.4</td><td>97.5</td><td>97.5</td><td>97.5</td></tr><tr><td></td><td>外来 89.4</td><td>91.2</td><td>90.9</td><td>98.1</td><td>99.3</td><td>99.3</td><td>99.3</td></tr></table>	区分	29年度							25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	総合	入院 96.4	95.8	95.6	97.8	98.2	98.2	98.2		外来 91.9	88.2	89.6	93.2	94.0	94.0	94.0	ところ	入院 —	—	—	—	—	—	—		外来 88.8	88.2	89.8	88.5	94.4	94.4	94.4	子ども	入院 92.5	91.3	91.9	98.4	97.5	97.5	97.5		外来 89.4	91.2	90.9	98.1	99.3	99.3	99.3	A 期間を通じて、全体の評価は高い満足度を得ている。また、質問事項の共通化を進め、調査の質を向上させることができた。									
区分	29年度																																																																													
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度																																																																							
総合	入院 96.4	95.8	95.6	97.8	98.2	98.2	98.2																																																																							
	外来 91.9	88.2	89.6	93.2	94.0	94.0	94.0																																																																							
ところ	入院 —	—	—	—	—	—	—																																																																							
	外来 88.8	88.2	89.8	88.5	94.4	94.4	94.4																																																																							
子ども	入院 92.5	91.3	91.9	98.4	97.5	97.5	97.5																																																																							
	外来 89.4	91.2	90.9	98.1	99.3	99.3	99.3																																																																							
		I 1 (2)	11	県内の中核的病院として高度・専門・特殊医療を提供するため、地域の医療機関との機能分担を推進し、地域の医療機関との連携を強化する。 ① 紹介・逆紹介の推進 ② 地域連携クリニックカルパスの推進 ③ かかりつけ医との診療情報の共有化の推進 ④ ふじのくにパトナール・メガ・ホスピタル（ふじのくにねっと）の推進	かかりつけ医との連携により、機能分担体制を推進する。	紹介率、逆紹介率ともに目標を上回っている。H25年度と比較しても向上し、かかりつけ医との連携、機能分化は着実に推進している。																																																																								
	(2) 県立病院が担う役割 県立病院が担う高度・専門・特殊医療が確実に提供できるよう、地域の医療機関との相互連携や機能分担を進める。併せて、情報通信技術を活用した医療連携や疾患ごとの地域連携ネットワークづくりを進める。また、先進的技術・治療法の導入についても積極的に取り組む。		12	地域の医療機関との連携を強化し、医療支援体制や救急・急性期、重症患者の受入など連携・機能分担体制を推進する。	紹介率・逆紹介率実績 (単位：％) <table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>31年度</th></tr><tr><td>紹介率</td><td>49.6</td><td>51.9</td><td>56.2</td><td>55.0</td><td>56.0</td><td>56.3</td><td>56.3</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>29.8</td><td>27.1</td><td>30.8</td><td>29.6</td><td>30.0</td><td>29.0</td><td>29.0</td></tr></table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	紹介率	49.6	51.9	56.2	55.0	56.0	56.3	56.3	逆紹介率	29.8	27.1	30.8	29.6	30.0	29.0	29.0	B 県立病院が担う専門医療が確実に提供するため、地域の医療機関との相互連携や機能分担を進めている。今後も「よろず相談・地域連携スタッフ」を中心に、引き続き地域連携を図る必要がある。																																																
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度																																																																							
紹介率	49.6	51.9	56.2	55.0	56.0	56.3	56.3																																																																							
逆紹介率	29.8	27.1	30.8	29.6	30.0	29.0	29.0																																																																							
			13	地域の医療機関との機能分担を推進するため、紹介予約制を維持するとともに、積極的に逆紹介を行う。	紹介率・逆紹介率実績 (単位：％) <table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>31年度</th></tr><tr><td>紹介率</td><td>94.8</td><td>91.8</td><td>93.0</td><td>94.7</td><td>92.0</td><td>93.7</td><td>93.7</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>49.9</td><td>53.2</td><td>52.0</td><td>52.5</td><td>32.0</td><td>46.5</td><td>50.8</td></tr></table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	紹介率	94.8	91.8	93.0	94.7	92.0	93.7	93.7	逆紹介率	49.9	53.2	52.0	52.5	32.0	46.5	50.8	A 他の医療機関と連携を図ることにより、期間を通じて目標値を上回っている。																																																
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度																																																																							
紹介率	94.8	91.8	93.0	94.7	92.0	93.7	93.7																																																																							
逆紹介率	49.9	53.2	52.0	52.5	32.0	46.5	50.8																																																																							

中期目標		中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)		第2期(H26～30)自己評価 説明
				14	心疾患、脳卒中、がん、慢性腎臓病、大腿骨頭部骨折等の地域連携クリニカルパスを活用し、かかりつけ医やリハビリテーション病院との機能分担を推進する。	地域連携クリニカルパス 区分 25年度 26年度 27年度 28年度 29年度 30年度 脳卒中 42 38 42 68 52 42 50 大腿骨頭部骨折 10 10 67 65 103 82 90 胃がん 94 86 77 80 86 81 90 大腸がん 133 131 133 151 114 109 110 乳がん 102 95 95 118 131 191 200 前立腺がん 7 2 0 0 0 9 10 虚血性心疾患 0 0 96 188 142 150 慢性腎臓病 40 28 54 37 25 30 肺がん 0 0 0 0 0 0 0 計 526 444 632 709 681 730 (単位：件)	A	関係機関との連携により地域連携クリニカルパスの適用が進んでいる。 虚血性心疾患については、医師が積極的に取り組むことにより、適用件数が大幅に伸びている。
				15	地域医療ネットワークシステムを整備・活用する。	ネットワーク実績 区分 25年度 26年度 27年度 28年度 29年度 30年度 開示施設数 14 14 15 18 18 18 開示件数(累計) 9,848 12,424 15,814 19,395 23,818 23,818 参加施設数 175 208 194 141 134 134 病院 14 17 17 13 14 14 診療所 99 123 104 76 78 78 保険薬局 53 57 39 40 31 31 調剤薬局・ドラッグストア 8 11 12 10 9 9 介護福祉施設 1 1 2 2 2 2 (単位：件)	A	第2期中期計画期間中にも順調に開示施設を増やすことができた。今後も地域医療連携推進事業費補助金等を活用し参加施設数を拡大していく。 また、今まで静岡県立病院機構が全額負担していたネットワークシステムのデータセンターの運営経費について、適正な経費負担を図った。(H28年度から利用料を徴収開始)

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期 (H26～30) 自己評価
(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 県立総合病院においては、3大疾患(がん、脳血管疾患、心疾患)を中心に高度・専門医療や急性期医療等を提供するほか、救命救急センターにおいては、広域的な救急医療への対応を図るとともに、広範囲熱傷等の特殊疾病患者に対する高度な救命医療を提供する高度救命救急センターの指定を目指し、救急医療体制の充実・強化を図ること。県立こころの医療センターにおいては、精神科救急・急性期医療の提供や他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図ること。県立こども病院においては、小児重症心疾患患者やハイレベル胎児・妊婦新生児に対する高度・先進的医療の提供や小児がん拠点病院としての機能強化、高度な小児救急医療の充実及び児童精神分野の医療の充実を図ることなど、小児全般の高度医療を推進すること。	(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 1 県が掲げる7疾病5事業を念頭に、各県立病院が専門性を活かしつつ、県立病院間や地域の医療機関との連携を強化して、病態に即した的確な医療を提供する。特に、全国的な課題とされている救急医療や急性期医療の充実に重点的に取り組む。	1 (3)	各県立病院は、県が求める政策医療を念頭に、それぞれの特性を生かし、以下の医療に重点的に取り組む。	—	—	説明
	ア 循環器疾患・がん疾患については、小児は県立こども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。	1 (3) ア	循環器疾患・がん疾患については、小児は県立こども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。	県立総合病院について24～32に記載 県立こども病院について42及び44に記載	—	—
	イ 周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。	1 (3) イ	周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。	周産期医療、精神科患者の身体合併症、認知症に対して、機構内3病院が連携し、より適切な医療の提供を行う。	・児童の措置入院等 こども病院での受入れが困難な場合はこころの医療センターにて受入れている。 A 周産期医療における搬送実績 (単位：件) 区 分 25年度 26年度 27年度 28年度 29年度 30年度見込 こどもー総合 4 9 8 14 11 15 総合ーこども 10 8 8 14 11 15	第2期中期計画の期間を通じて、症例の発生状況により期間中の搬送実績に増減はあるが、3病院1法人のメトリックを活かし、患者の搬送、医師の応援体制の確保等、病院間の連携・協力体制を密にしている。
	ウ 結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療に着実に取り組む。	1 (3) ウ	結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療に着実に取り組む。また各種感染症や難病は県内医療機関との連携・協力関係を進める。	結核病棟を維持する。また各種感染症や難病は県内医療機関との連携・協力関係を進める。 総合 入院患者数 (単位：人) 区 分 25年度 26年度 27年度 28年度 29年度 30年度見込 エイズ 非公開 結核 134 14 98 119 108 108	結核病棟50床について運用している。 エイズ拠点病院としてエイズ患者の受入体制を整えている。 難病医療の法律改正にあわせて、難病指定医療機関の申請を行い、H27年5月に指定を受けた。 難病指定医についても、これまでに21診療科80名の医師が申請を行い、順次指定を受けた。	
	エ 先進的医療である移植医療に取り組む。	1 (3) エ	先進的医療である移植医療に取り組む。	腎臓移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成 (総合病院のみ) 等への取組みを継続する。 18 造血幹細胞移植実績 (単位：件) 区 分 25年度 26年度 27年度 28年度 29年度 30年度見込 腎臓移植 9 9 4 4 2 6 強角膜片移植 1 1 0 2 1 1 自家末梢血 2 2 8 5 7 5 同種末梢血 1 1 1 0 0 1 計 13 13 13 11 10 13	期間を通じて、生体移植も含めた腎移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成を継続して実施できている。 A 期間を通じて、造血幹細胞移植を着実に継続して実施した。 A	

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置																																																																																																										
中期計画		中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績（H29・中期期間）	第2期（H26～30）自己評価																																																																																																			
		オ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。	I 1 (3) オ	19	リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に行う。	・ H29 リハビリテーション、相談援助を積極的に支援した。 ・ 第2期中期期間（H26～30） 地域医療ネットワークセンター看護師、MSW、理学療法士等が積極的に支援している。 地域医療ネットワークセンター退院調整件数（単位：件） <table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>件数</td><td>1,377</td><td>1,554</td><td>1,754</td><td>2,204</td><td>3,217</td><td>3,500</td></tr></table> 退院支援関係診療報酬査定件数実績（単位：件） <table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>退院調整加算（旧）</td><td>603</td><td>710</td><td>770</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>退院支援加算1（新）</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>1,054</td><td>1,879</td><td>1,879</td></tr><tr><td>退院調整加算2（新）</td><td>1,281</td><td>1,279</td><td>980</td><td>601</td><td>705</td><td>705</td></tr><tr><td>計</td><td>1,884</td><td>1,989</td><td>1,750</td><td>1,655</td><td>2,584</td><td>2,584</td></tr></table> 総合	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	件数	1,377	1,554	1,754	2,204	3,217	3,500	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	退院調整加算（旧）	603	710	770	—	—	—	退院支援加算1（新）	—	—	—	1,054	1,879	1,879	退院調整加算2（新）	1,281	1,279	980	601	705	705	計	1,884	1,989	1,750	1,655	2,584	2,584	・ H29 リハビリテーション活動及び訪問看護を通じて、患者の社会復帰を支援した。 ・ 第2期中期目標期間（H26～30） 早期退院の促進と退院後も安定的な生活を維持するためには、入院中から地域生活を見据えた「精神科急性期ケアマネジメント」を本年度も継続実施している。 また、在宅において、よりの確かな支援を行うため、訪問看護の充実を図り、看護師に加え、精神保健福祉士や作業療法士などを含めた複数訪問を積極的に実施した。 リハビリテーション活動実績（単位：件） <table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>精神科作業療法</td><td>8,500</td><td>8,187</td><td>7,790</td><td>7,604</td><td>5,992</td><td>5,992</td></tr><tr><td>デイケア</td><td>4,553</td><td>4,100</td><td>4,239</td><td>4,448</td><td>5,955</td><td>5,955</td></tr><tr><td>計</td><td>13,053</td><td>12,287</td><td>11,448</td><td>12,052</td><td>11,947</td><td>11,947</td></tr></table> 訪問看護実施件数（単位：件） <table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>訪問看護実施件数</td><td>2,098</td><td>2,751</td><td>2,883</td><td>3,322</td><td>4,068</td><td>4,068</td></tr><tr><td>（うち巡回訪問）</td><td>389</td><td>394</td><td>370</td><td>471</td><td>78</td><td>78</td></tr></table> 総合	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	精神科作業療法	8,500	8,187	7,790	7,604	5,992	5,992	デイケア	4,553	4,100	4,239	4,448	5,955	5,955	計	13,053	12,287	11,448	12,052	11,947	11,947	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	訪問看護実施件数	2,098	2,751	2,883	3,322	4,068	4,068	（うち巡回訪問）	389	394	370	471	78	78	・ H29 リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に支援した。退院支援加算の算定件数が着実に増加しており、支援の効果が収益面にも現れている。 A
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																				
件数	1,377	1,554	1,754	2,204	3,217	3,500																																																																																																				
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																				
退院調整加算（旧）	603	710	770	—	—	—																																																																																																				
退院支援加算1（新）	—	—	—	1,054	1,879	1,879																																																																																																				
退院調整加算2（新）	1,281	1,279	980	601	705	705																																																																																																				
計	1,884	1,989	1,750	1,655	2,584	2,584																																																																																																				
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																				
精神科作業療法	8,500	8,187	7,790	7,604	5,992	5,992																																																																																																				
デイケア	4,553	4,100	4,239	4,448	5,955	5,955																																																																																																				
計	13,053	12,287	11,448	12,052	11,947	11,947																																																																																																				
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																				
訪問看護実施件数	2,098	2,751	2,883	3,322	4,068	4,068																																																																																																				
（うち巡回訪問）	389	394	370	471	78	78																																																																																																				
		リ 患者の社会復帰に向け、リハビリテーション活動を充実させる。 ・ 患者の地域での生活を支援するため、訪問看護を充実させる。	こ こ も	20			・ H29 リハビリテーションや訪問看護等の相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、就学・就労につながる支援等に積極的に取り組んだ。 A また訪問看護については、25年度13,000件ほどの水準を維持している。また訪問看護については、25年度2,698件から4,000件を超え、大幅に増加している。																																																																																																			
				21	言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他への充実を図る。	・ H29 リハビリテーションからリハビリテーション医1名を採用し、対応する予定である。漸増状況にあるリハビリ需要に対応した。 A																																																																																																				
		カ 遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。	I 1 (3) カ	22	遺伝子診療に関し、体制の整備・充実を図る。	・ H29 遺伝診療科の受診患者数は順調に増加している。 ・ 第2期中期目標期間（H26～30） H27年度に院内の閑居する部署間の調整を経て遺伝診療科を立ち上げた。当該科の存在を県民や診療所等の医師等に広報するため、ホームページへの掲載や講演会の開催等を行った。 遺伝診療科受診患者数（単位：人） <table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>受診患者数</td><td>—</td><td>—</td><td>21</td><td>39</td><td>86</td><td>90</td></tr></table> 総合	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	受診患者数	—	—	21	39	86	90	・ H29 遺伝診療科を開設した。開始時から年々患者数が増加傾向にある。世間の関心の高さから今後も患者数の増加が期待される。 A																																																																																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																				
受診患者数	—	—	21	39	86	90																																																																																																				

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績（H29・中期期間）	第2期（H28～30）自己評価																																																																																																																								
	ギ 認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組む。また、発達障害については、鑑別に、地域保健福祉関係者への助言等の医学的支援や、医療従事者や教育関係者に対する研修の実施に取り組む。	1 1 (3) ギ	23	鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、認知症ケアチームの介入、専門医療相談等を推進する。	総合 鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施については現状では困難な状況にある。 脳FDG-PET <table><tr><td colspan="2"></td><td colspan="6">(単位:件)</td></tr><tr><td>区</td><td>分</td><td>25年度</td><td>26年度</td><td>27年度</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度見込</td></tr><tr><td>実施件数</td><td></td><td>137</td><td>144</td><td>131</td><td>136</td><td>147</td><td>147</td></tr></table> 認知症ケア加算 <table><tr><td colspan="2"></td><td colspan="6">(単位:件)</td></tr><tr><td>区</td><td>分</td><td>25年度</td><td>26年度</td><td>27年度</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度見込</td></tr><tr><td>算定件数</td><td></td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>803</td><td>10,494</td><td>10,494</td></tr></table> 認知症医療費加算 <table><tr><td colspan="2"></td><td colspan="6">(単位:件)</td></tr><tr><td>区</td><td>分</td><td>25年度</td><td>26年度</td><td>27年度</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度見込</td></tr><tr><td>認知症医療費加算</td><td></td><td>20</td><td>16</td><td>6</td><td>12</td><td>11</td><td>11</td></tr></table> 若狭こころとからだ発達支援センター <table><tr><td colspan="2"></td><td colspan="6">(単位:件)</td></tr><tr><td>区</td><td>分</td><td>25年度</td><td>26年度</td><td>27年度</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度見込</td></tr><tr><td>特筆に功績を挙げた事例</td><td></td><td>790</td><td>655</td><td>797</td><td>533</td><td>411</td><td>411</td></tr></table> 発達小児科診療実績 <table><tr><td colspan="2"></td><td colspan="6">(単位:人)</td></tr><tr><td>区</td><td>分</td><td>25年度</td><td>26年度</td><td>27年度</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度見込</td></tr><tr><td>外来延患者数</td><td></td><td>2,755</td><td>2,960</td><td>3,210</td><td>3,563</td><td>3,871</td><td>3,663</td></tr></table>			(単位:件)						区	分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	実施件数		137	144	131	136	147	147			(単位:件)						区	分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	算定件数		—	—	—	803	10,494	10,494			(単位:件)						区	分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	認知症医療費加算		20	16	6	12	11	11			(単位:件)						区	分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	特筆に功績を挙げた事例		790	655	797	533	411	411			(単位:人)						区	分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	外来延患者数		2,755	2,960	3,210	3,563	3,871	3,663	社会的ニーズの高まりに対応し、ケアチームの整備に努めた結果H29年1月Aの認知症ケア加算施設基準取得以降、算定件数は順調に推移しており、今後とも増加が見込まれる。
		(単位:件)																																																																																																																												
区	分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																							
実施件数		137	144	131	136	147	147																																																																																																																							
		(単位:件)																																																																																																																												
区	分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																							
算定件数		—	—	—	803	10,494	10,494																																																																																																																							
		(単位:件)																																																																																																																												
区	分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																							
認知症医療費加算		20	16	6	12	11	11																																																																																																																							
		(単位:件)																																																																																																																												
区	分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																							
特筆に功績を挙げた事例		790	655	797	533	411	411																																																																																																																							
		(単位:人)																																																																																																																												
区	分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																							
外来延患者数		2,755	2,960	3,210	3,563	3,871	3,663																																																																																																																							
			24	・症状が重篤な認知症患者を受入れるための、精神科救急・急性期医療体制を確保する。 ・老年期特有の専門外来（老年期こころと物忘れ外来）により専門的な医療相談を実施する。	認知症については、精神科救急・急性期医療体制を確保し急性期治療を実施するとともに、老年期特有の専門医療相談等の実施に取り組んだ。																																																																																																																									
			25	発達障害については、従来からの新生児退院診療や、新生児包括外来における低体重出生児の発達フォローを継続し、保護者向けのペアレントトレーニングについても継続して取り組む。	期間中（H27年度）に専門医師を探用し、診療体制を強化した。																																																																																																																									

中期目標		中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績（H29・中期期間）	第2期（H26～30）自己評価 説明
		ク 県民に提供する第一級の病院 であり続けるために、低侵襲治 療や高度な治療への対応の強 化（ハイブリット手術室の整 備、ロボット支援手術・放射線 治療等の拡充）など、医療を取 り巻く環境変化に応じて、先進 的な施設及び機器等の充実に 取り組む。	I 1 (3) ク	26	中期計画に記載した施設及び 機器等の整備を計画的に実施 する。	・第2期中期計画期間に合わせて策定された施設整備計画に基づい て施設及び機器等の整備を実施した。 ・計画的に実施する一方で、策定時から情勢の変化があった場合に は計画の見直しを図った。 ・総合病院本館の既存不適格に対応するため、防排煙設備の一部に ついて、H28年度からH29年度にかけて改修を行った。 ・H27から進めていた先端医学棟（5階建 延床面積約20,569.6㎡）の 建設工事が、H29年6月末に完了した。H29年7月に竣工式を挙行し て、H29年9月に稼働した。 ・第1立体駐車場がH29年3月に着工し、H30年10月末の工事完了に 向けて施工中である。 ・こども病院本館の老朽化に対応するため、本館リニューアル工事の 実施設計を行っている。H30年度末の工事完了を目指して、今後速 やかに着工する予定。 ・院内保育所の建替えは、平成30年度上半期に建設を着工し、平成 30年度末に竣工予定である。 ・先端医学棟の閉棟に伴い、必要な機器等を整備した。 ・第1期リニューアル工事の施工業者が決定し、準備期間を経て工事 を開始した。年度末に医事課の移転が完了し、その他の工事も施工 中、又は順次施工予定である。 ・北安東2丁目の医師宿舍建設工事に係る設計作業が完了し、工事 を発注した。H29年10月に着工し、H30年10月の工事完了に向けて施 工中である	・総合病院では、先端医学棟の建設や電 子カルデラの更新を完了し、本館耐震改修 及び立体駐車場建設に着手するなど、 大規模事業に積極的に取り組んだ。 こどもの医療センターでは、初めて電子 カルデラを導入するとともに、空調設備など 各種設備の改修を行った。 こども病院では、新外来棟の増築や既存 棟改修、電子カルデラの更新を完了し、H30 年度には本館リニューアル工事や院内保 育所の建替え等に取り組む予定である。 機器類についても、総合病院の先端医 学棟関係を中心に、各病院において情勢 に応じて必要な整備を図った。 全体として、計画の適切な見直しを図り つつ、着実に施設及び機器等の整備を行 うことができた。 ・医療を取り巻く環境変化に応じて、先進 的な施設及び機器等を充分に充実させる ことができた。

施設及び機器等の整備状況
(単位：百万円)

区 分		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込
総合		16,479	31	1,141	5,136	5,783	2,555
こども		1,205	32	119	623	194	3
こども		2,260	95	625	436	494	265
合計		19,944	158	1,785	2,922	5,824	3,346

医療機器等

区 分		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込
総合		10,101	1,292	890	587	566	4,322
こども		179	21	71	46	5	10
こども		2,098	289	439	314	279	506
合計		12,378	1,602	1,400	947	850	4,838

[illegible]

中期計画				
中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画

中期計画		年度計画		No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期 (H26～30)自己評価
				28	脳卒中発症患者に対する急性期医療の提供体制を整備するとともに、在宅医療への情報提供等、在宅復帰に向けた取り組みを推進する。	総合 ・ H29 ・ 先端医学棟にMR1、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を整備し、急性期医療に対応する体制を整備された。 ・ 超急性期脳卒中加算は前年度比1.8倍に増加している。 ・ 第2期中期目標期間 (H26～30) ・ 脳卒中の地域連携クリニックパスを運用している。 ・ 脳血管内治療のできる医師を確保した。(脳神経外科)	先端医学棟にMRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を整備し、急性期医療に対応する体制が大幅に充実した。 脳卒中の地域連携クリニックパスの適用患者数は毎年40～50件前後で安定的に推移している。
				29	生活習慣病を心血管疾患の発症危険因子としてとらえ、循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療の推進を図る。	総合 ・ H29 ・ 糖尿病透析予防指導管理料については、専門外来を開設し活動している。件数増加を目指し、新たに糖尿病透析予防指導を行う「そらまめ外来」の午後の診療枠を追加する予定である。 ・ 指導に必要な検査 (尿アルブミン値) の実施率が低い ・ 検査実施率の向上を検討する。 ・ 末梢動脈疾患検査は着実に件数が増加している。 ・ 第2期中期目標期間 (H26～30) ・ 関係科の医師及びコメディカルによる合同検討会 (下肢救済チーム) を開催し、スタッフが協力して患者の治療にあたるチーム医療の連携を推進している。	循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療を推進している。末梢動脈疾患検査は着実に件数が増加している。糖尿病透析予防管理料については、28年度までは着実に件数が増加している。29年度は、30年度に向けて他科や「そらまめ外来」などでも指導できるように体制整備を行った。

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置					
中期計画		第2期 (H26～30) 自己評価			
中期目標	中期計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	説明

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期 (H26～30) 自己評価 説明																																																								
					・ H29 胃がん、ロボット支援手術の適用を拡大した。 ・ ロボット支援手術（消化器外科領域）大腸・胃）30件 ・ 10月から先端医学棟手術室にダヴィンチを1台追加し、2台体制となり並行稼動が可能な運用体制を整備した。 ・ 第2期中期期間 (H26～30) ・ 手術支援ロボット(ダヴィンチ)を導入し、泌尿器科領域、産婦人科領域、消化器外科領域において運用している。 ・ 臨床研究 ・ H28 ロボット支援手術（消化器外科領域）9件実施 ・ H29 ロボット支援手術（消化器外科領域）30件実施 ・ 適応疾患の拡大 ・ H26 前立腺がん、子宮頸がん、ダヴィンチを用いた手術を開始 ・ H27 膀胱がん、前立腺がん、子宮頸がん、ダヴィンチを用いた手術を開始 ・ H28 大腸がん、前立腺がん、子宮頸がん、ダヴィンチを用いた手術を開始 ・ H28.10 ダヴィンチを用いた腹腔鏡下膀胱全摘術の自由診療開始 ・ H28.12 ダヴィンチを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術の先進医療開始（全国5番目、大学病院以外では全国初、県内初）	H26年度から前立腺がん、子宮頸がん、ダヴィンチを用いた手術を開始した。平成27年度は更に膀胱がん、子宮頸がん、ダヴィンチを用いた手術を開始した。H28年度は100件を超える手術を実施し、着実に増加している。 また、自由診療、先進医療についても随時拡大を行った。H28年10月にはダヴィンチを用いた腹腔鏡下膀胱全摘術の自由診療を開始した。加えて12月にはダヴィンチを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術を全国5番目（大学病院以外では全国初）に先進医療として実施している。H29年度は胃がん、子宮頸がん、前立腺がん、ダヴィンチ支援手術は150件を超えて増加している。																																																								
			35	ロボット支援手術の件数増加に努める 総 合	ダヴィンチ使用手術件数 (単位：件) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>診療科</td><td>-</td><td>31</td><td>77</td><td>102</td><td>122</td><td>122</td></tr> <tr> <td>泌尿器科</td><td>-</td><td>5</td><td>4</td><td>1</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr> <td>婦人科</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>9</td><td>30</td><td>30</td></tr> <tr> <td>消化器外科</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>9</td><td>30</td><td>30</td></tr> <tr> <td>計</td><td>0</td><td>36</td><td>81</td><td>112</td><td>152</td><td>152</td></tr> </tbody> </table> ダヴィンチ使用術者数 (単位：人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td><td>-</td><td>5</td><td>6</td><td>6</td><td>6</td><td>6</td></tr> </tbody> </table>		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	診療科	-	31	77	102	122	122	泌尿器科	-	5	4	1	-	-	婦人科	-	-	-	9	30	30	消化器外科	-	-	-	9	30	30	計	0	36	81	112	152	152	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	人数	-	5	6	6	6	6	救命救急センターとして一層の充実を図るとともに、広範囲熱傷等の特殊疾病患者に対応するため、高度救命救急センターを旨とした整備を図る。
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																								
診療科	-	31	77	102	122	122																																																								
泌尿器科	-	5	4	1	-	-																																																								
婦人科	-	-	-	9	30	30																																																								
消化器外科	-	-	-	9	30	30																																																								
計	0	36	81	112	152	152																																																								
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																								
人数	-	5	6	6	6	6																																																								
			36	医師の増員を図るとともに、働きやすさに配慮した変則勤務が可能な体制を維持する。 総 合	・ H29 医師の増員を図るとともに、働きやすさに配慮した変則勤務が可能な体制を維持する。 ・ H29年度は救急科医師7名体制で稼動 ・ 第2期中期目標期間 (H26～30) ・ 医師の変則勤務の試行を継続し、当直明けに休める制度を整えた。 ・ H25年7月から、救急科医師5名体制（うち専門医2名）により、救命救急センターが稼動した。 ・ H27年3月から高度救命救急センターに指定 ・ H28年度は救急科医師8名、H29年度は救急科医師7名体制で稼動 医師の変則勤務試行状況 (単位：%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>該当者（人）</td><td>1,553</td><td>1,547</td><td>1,444</td><td>1,444</td><td>1,722</td><td>1,722</td></tr> <tr> <td>利用者（人）</td><td>858</td><td>924</td><td>935</td><td>961</td><td>889</td><td>889</td></tr> <tr> <td>利用率（%）</td><td>55.2</td><td>59.7</td><td>64.7</td><td>66.8</td><td>51.6</td><td>51.6</td></tr> </tbody> </table> ※該当者：変則勤務を行うことが可能な延べ医師数 ※利用者：変則勤務を行った延べ医師数	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	該当者（人）	1,553	1,547	1,444	1,444	1,722	1,722	利用者（人）	858	924	935	961	889	889	利用率（%）	55.2	59.7	64.7	66.8	51.6	51.6	救命救急センターとして一層の充実を図るため、救急委員会を中心に効果的な制度設計を検討し救急患者の受入体制を維持しており、中期目標が十分達成されている。																												
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																								
該当者（人）	1,553	1,547	1,444	1,444	1,722	1,722																																																								
利用者（人）	858	924	935	961	889	889																																																								
利用率（%）	55.2	59.7	64.7	66.8	51.6	51.6																																																								

中期計画		年度計画		No.	行動計画	業務の実績（H29・中期期間）	第2期（H26～30）自己評価
	</						

中期目標		中期計画		年度計画	No.	行動計画	業務の実績（H29・中期期間）	第2期（H26～30）自己評価																																																								
					39	新たな入院患者が90日以内に退院できるよう促進し、精神科救急入院料の施設基準を維持する。	早期治療、早期退院の実践により、救急病棟（南2）、急性期治療病棟（北2）における「新規患者率」、「新規患者3ヶ月以内在院移行率」はそれぞれの施設基準を満たしている。 <table><tr><th colspan="2">新規患者数</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td rowspan="2">区 分</td><td>期別基準</td><td>71.4</td><td>71.4</td><td>71.4</td><td>71.3</td><td>70.7</td><td>71.4</td></tr><tr><td>実績</td><td>74.2</td><td>68.0</td><td>70.9</td><td>68.4</td><td>76.1</td><td>71.1</td></tr><tr><td colspan="2">新規患者が1ヶ月以内退院率</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">区 分</td><td>期別基準</td><td>25年度</td><td>26年度</td><td>27年度</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度見込</td></tr><tr><td>実績</td><td>62.0</td><td>60.0</td><td>68.9</td><td>68.4</td><td>81.2</td><td>72.9</td></tr><tr><td colspan="2">期別</td><td>4.2</td><td>60.0</td><td>76.0</td><td>82.4</td><td>85.3</td><td>87.4</td></tr></table>	新規患者数		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	区 分	期別基準	71.4	71.4	71.4	71.3	70.7	71.4	実績	74.2	68.0	70.9	68.4	76.1	71.1	新規患者が1ヶ月以内退院率								区 分	期別基準	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	実績	62.0	60.0	68.9	68.4	81.2	72.9	期別		4.2	60.0	76.0	82.4	85.3	87.4	A 期間を通じて、24時間を通して救急患者を受け入れ、新たな入院患者が早期に退院し社会復帰できるよう精神科救急・急性期医療の提供に努めた。今後も、在宅医療支援の充実など退院促進の一層の取組が必要となる。		
新規患者数		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																									
区 分	期別基準	71.4	71.4	71.4	71.3	70.7	71.4																																																									
	実績	74.2	68.0	70.9	68.4	76.1	71.1																																																									
新規患者が1ヶ月以内退院率																																																																
区 分	期別基準	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																									
	実績	62.0	60.0	68.9	68.4	81.2	72.9																																																									
期別		4.2	60.0	76.0	82.4	85.3	87.4																																																									
					40	薬物療法による治療効果が低い重症患者に対する治療法として、m-ECT（修正型電気けいれん療法）を積極的に実施する。	m-ECT実績表 <table><tr><th>区 分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>急性期(北)</td><td>578</td><td>836</td><td>596</td><td>665</td><td>681</td><td>692</td></tr><tr><td>実患者数</td><td>56</td><td>68</td><td>53</td><td>54</td><td>64</td><td>60</td></tr><tr><td>中部地区</td><td>33</td><td>61</td><td>47</td><td>51</td><td>54</td><td>54</td></tr><tr><td>(静岡市)</td><td>36</td><td>50</td><td>32</td><td>43</td><td>40</td><td>40</td></tr><tr><td>東部地区</td><td>1</td><td>3</td><td>4</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>西部地区</td><td>1</td><td>3</td><td>1</td><td>1</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>その他</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr></table>	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	急性期(北)	578	836	596	665	681	692	実患者数	56	68	53	54	64	60	中部地区	33	61	47	51	54	54	(静岡市)	36	50	32	43	40	40	東部地区	1	3	4	2	3	3	西部地区	1	3	1	1	3	3	その他	1	1	1	0	0	0	A 他の医療機関では対応困難な精神疾患患者への先進的治療であるm-ECTの治療に積極的に取り組んだ。
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																										
急性期(北)	578	836	596	665	681	692																																																										
実患者数	56	68	53	54	64	60																																																										
中部地区	33	61	47	51	54	54																																																										
(静岡市)	36	50	32	43	40	40																																																										
東部地区	1	3	4	2	3	3																																																										
西部地区	1	3	1	1	3	3																																																										
その他	1	1	1	0	0	0																																																										
					41	先端薬物療法（クロザピンなど）を積極的に実施する。	クロザピン実績表 <table><tr><th>区 分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>急性期(北)</td><td>578</td><td>836</td><td>596</td><td>665</td><td>681</td><td>692</td></tr><tr><td>実患者数</td><td>56</td><td>68</td><td>53</td><td>54</td><td>64</td><td>60</td></tr><tr><td>中部地区</td><td>33</td><td>61</td><td>47</td><td>51</td><td>54</td><td>54</td></tr><tr><td>(静岡市)</td><td>36</td><td>50</td><td>32</td><td>43</td><td>40</td><td>40</td></tr><tr><td>東部地区</td><td>1</td><td>3</td><td>4</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>西部地区</td><td>1</td><td>3</td><td>1</td><td>1</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>その他</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr></table>	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	急性期(北)	578	836	596	665	681	692	実患者数	56	68	53	54	64	60	中部地区	33	61	47	51	54	54	(静岡市)	36	50	32	43	40	40	東部地区	1	3	4	2	3	3	西部地区	1	3	1	1	3	3	その他	1	1	1	0	0	0	A 他の医療機関では対応困難な精神疾患患者への先進的治療である先端薬物療法（クロザピン投与）に積極的に取り組んだ。 クロザピンによる治療は、重篤な副作用も懸念されることから、治療にあたっては副作用回避マニュアルに基づき、十分な安全対策を今後も継続する必要がある。
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																										
急性期(北)	578	836	596	665	681	692																																																										
実患者数	56	68	53	54	64	60																																																										
中部地区	33	61	47	51	54	54																																																										
(静岡市)	36	50	32	43	40	40																																																										
東部地区	1	3	4	2	3	3																																																										
西部地区	1	3	1	1	3	3																																																										
その他	1	1	1	0	0	0																																																										

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期 (H28～30) 自己評価 説明																												
					・ H29 入院・外来患者心理教室 8 クール開催 参加者延230名 (H30. 3. 31現在) ・ 第2 期中期目標期間 (H26～30) H22年度から取組を始めた認知行動療法プロジェクトを、心理・社会的治療プロジェクトに発展し、認知行動療法に加え、新たに心理教育・家族教室への取り組みを実施した。 心理教育に関する院内外研修会を開催し、スタッフのレベルアップに努めた。 A 他の医療機関では対応困難な精神疾患患者に対して、薬物療法に頼らない有効な治療の一環として、心理教育に積極的に取り組んだ。																													
			42	心理・社会的治療についての取組を積極的に実施する。	心理教育参加者数 (単位:人) <table border="1"> <tr> <th>項目</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr> <tr> <td>参加者数</td><td>34</td><td>51</td><td>172</td><td>206</td><td>200</td><td>200</td></tr> </table> 心理教育研修会参加者数 (単位:人) <table border="1"> <tr> <th>項目</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr> <tr> <td>参加者数</td><td>41</td><td>162</td><td>66</td><td>142</td><td>135</td><td>135</td></tr> </table>	項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	参加者数	34	51	172	206	200	200	項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	参加者数	41	162	66	142	135	135	
項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																												
参加者数	34	51	172	206	200	200																												
項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																												
参加者数	41	162	66	142	135	135																												
			43	在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア (ACT) チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活を支援する。	・ H21年度に作成したガイドラインに沿って、ACTによる支援を実施した。 H22年2月の支援開始以来延べ21名の支援活動を実施し、うち9名は安定した在宅生活に移行したため支援終了、1名は転院により支援終了、2名は死亡により終了、H29は、外来患者9名への支援を継続している。 A 期間を通じ、入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるように、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築に努めた。 当センターが目指す24時間365日のサポート体制による地域支援を行うには、収益を確保することが重要であり、診療報酬での評価につながるような働きかけが必要である。																													
			44	医療観察法による入院処遇対象者を受け入れ、指定医療機関としての機能を最大限に発揮する。	・ H21年8月より指定入院医療機関として2床で運用を開始、H23年3月末には12床への増床が完了した。 ・ 増床完了後対象患者の受入が進んだ結果、H23年8月以降はほぼ満床の状態が1年以上続く等高い利用率で推移している。 A 「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療について、指定医療機関としての役割を積極的果たした。 今後、よりよい医療を提供するため、スタッフの一層のレベルアップが必要となる。																													

中期目標		中期計画		年度計画		No.	行動計画	業務の実績（H29・中期期間）		第2期（H26～30）自己評価	
									</		

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績（H29・中期期間）	第2期（H26～30）自己評価																																																																																																																																																																																																																																														
	・地域の医療機関と連携して、ハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの構築に努めるとともに、新生児に対して、高度な先進的治療を提供するための体制を拡充する。	地域の医療機関と連携したハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの維持・充実と新生児に対しての高度な専門的治療を提供する体制の拡充 ①すべてのハイリスク出産に対応できるシステム作り ②先天異常の出生前超音波診断や、出生後の管理・処置のための機器整備 ③新生児集中治療室(NICU)における低侵襲手術の実施	46	①地域の産科医療機関との前・後方連携を更に強化、症例検討会・研修会を通じて産科医の診断能力向上を図る。 ②最新式の超音波診断装置を導入する。 ③必要に応じNICU内での手術を継続実施する。	地域医療機関向け研修会等開催実績 <table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>研修会回回数</td><td>7</td><td>17</td><td>14</td><td>10</td><td>9</td><td>11</td></tr><tr><td>参加者数</td><td>331</td><td>961</td><td>743</td><td>637</td><td>439</td><td>622</td></tr></table> NICU診療実績 (単位：人、%) <table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>入院症例数</td><td>5,444</td><td>5,410</td><td>5,927</td><td>6,411</td><td>6,311</td><td>5,901</td></tr></table> 剖宮産実績 (単位：人、%) <table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>入院症例数</td><td>5,014</td><td>4,863</td><td>4,679</td><td>4,855</td><td>4,536</td><td>4,789</td></tr><tr><td>剖宮産率</td><td>76.3</td><td>74.0</td><td>71.0</td><td>73.9</td><td>69.0</td><td>72.8</td></tr></table> NICU診療実績 (単位：人、%) <table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>入院症例数</td><td>2,095</td><td>2,087</td><td>2,098</td><td>2,007</td><td>2,068</td><td>2,071</td></tr><tr><td>入院延滞率</td><td>95.7</td><td>95.3</td><td>95.5</td><td>91.6</td><td>94.4</td><td>94.5</td></tr></table> 新生児出生体重別入院患者実績 (単位：人) <table><tr><th>体重(g)</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>500未満</td><td>3</td><td>2</td><td>3</td><td>7</td><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>500~1,000</td><td>33</td><td>48</td><td>26</td><td>36</td><td>28</td><td>34</td></tr><tr><td>1,000~1,500</td><td>48</td><td>44</td><td>36</td><td>22</td><td>28</td><td>36</td></tr><tr><td>1,500以上</td><td>166</td><td>148</td><td>160</td><td>144</td><td>143</td><td>152</td></tr><tr><td>合計</td><td>250</td><td>242</td><td>225</td><td>209</td><td>202</td><td>226</td></tr></table> ・NICU内の手術は、H25年度に3件、H26年度に3件を行った。	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	研修会回回数	7	17	14	10	9	11	参加者数	331	961	743	637	439	622	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	入院症例数	5,444	5,410	5,927	6,411	6,311	5,901	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	入院症例数	5,014	4,863	4,679	4,855	4,536	4,789	剖宮産率	76.3	74.0	71.0	73.9	69.0	72.8	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	入院症例数	2,095	2,087	2,098	2,007	2,068	2,071	入院延滞率	95.7	95.3	95.5	91.6	94.4	94.5	体重(g)	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	500未満	3	2	3	7	3	4	500~1,000	33	48	26	36	28	34	1,000~1,500	48	44	36	22	28	36	1,500以上	166	148	160	144	143	152	合計	250	242	225	209	202	226	地域医療機関向け研修会等開催実績 <table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>研修会回回数</td><td>7</td><td>17</td><td>14</td><td>10</td><td>9</td><td>11</td></tr><tr><td>参加者数</td><td>331</td><td>961</td><td>743</td><td>637</td><td>439</td><td>622</td></tr></table> NICU診療実績 (単位：人、%) <table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>入院症例数</td><td>5,444</td><td>5,410</td><td>5,927</td><td>6,411</td><td>6,311</td><td>5,901</td></tr></table> 剖宮産実績 (単位：人、%) <table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>入院症例数</td><td>5,014</td><td>4,863</td><td>4,679</td><td>4,855</td><td>4,536</td><td>4,789</td></tr><tr><td>剖宮産率</td><td>76.3</td><td>74.0</td><td>71.0</td><td>73.9</td><td>69.0</td><td>72.8</td></tr></table> NICU診療実績 (単位：人、%) <table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>入院症例数</td><td>2,095</td><td>2,087</td><td>2,098</td><td>2,007</td><td>2,068</td><td>2,071</td></tr><tr><td>入院延滞率</td><td>95.7</td><td>95.3</td><td>95.5</td><td>91.6</td><td>94.4</td><td>94.5</td></tr></table> 新生児出生体重別入院患者実績 (単位：人) <table><tr><th>体重(g)</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>500未満</td><td>3</td><td>2</td><td>3</td><td>7</td><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>500~1,000</td><td>33</td><td>48</td><td>26</td><td>36</td><td>28</td><td>34</td></tr><tr><td>1,000~1,500</td><td>48</td><td>44</td><td>36</td><td>22</td><td>28</td><td>36</td></tr><tr><td>1,500以上</td><td>166</td><td>148</td><td>160</td><td>144</td><td>143</td><td>152</td></tr><tr><td>合計</td><td>250</td><td>242</td><td>225</td><td>209</td><td>202</td><td>226</td></tr></table> ・NICU内の手術は、H25年度に3件、H26年度に3件を行った。	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	研修会回回数	7	17	14	10	9	11	参加者数	331	961	743	637	439	622	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	入院症例数	5,444	5,410	5,927	6,411	6,311	5,901	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	入院症例数	5,014	4,863	4,679	4,855	4,536	4,789	剖宮産率	76.3	74.0	71.0	73.9	69.0	72.8	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	入院症例数	2,095	2,087	2,098	2,007	2,068	2,071	入院延滞率	95.7	95.3	95.5	91.6	94.4	94.5	体重(g)	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	500未満	3	2	3	7	3	4	500~1,000	33	48	26	36	28	34	1,000~1,500	48	44	36	22	28	36	1,500以上	166	148	160	144	143	152	合計	250	242	225	209	202	226
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																																																																																																																																														
研修会回回数	7	17	14	10	9	11																																																																																																																																																																																																																																														
参加者数	331	961	743	637	439	622																																																																																																																																																																																																																																														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																																																																																																																																														
入院症例数	5,444	5,410	5,927	6,411	6,311	5,901																																																																																																																																																																																																																																														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																																																																																																																																														
入院症例数	5,014	4,863	4,679	4,855	4,536	4,789																																																																																																																																																																																																																																														
剖宮産率	76.3	74.0	71.0	73.9	69.0	72.8																																																																																																																																																																																																																																														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																																																																																																																																														
入院症例数	2,095	2,087	2,098	2,007	2,068	2,071																																																																																																																																																																																																																																														
入院延滞率	95.7	95.3	95.5	91.6	94.4	94.5																																																																																																																																																																																																																																														
体重(g)	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																																																																																																																																														
500未満	3	2	3	7	3	4																																																																																																																																																																																																																																														
500~1,000	33	48	26	36	28	34																																																																																																																																																																																																																																														
1,000~1,500	48	44	36	22	28	36																																																																																																																																																																																																																																														
1,500以上	166	148	160	144	143	152																																																																																																																																																																																																																																														
合計	250	242	225	209	202	226																																																																																																																																																																																																																																														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																																																																																																																																														
研修会回回数	7	17	14	10	9	11																																																																																																																																																																																																																																														
参加者数	331	961	743	637	439	622																																																																																																																																																																																																																																														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																																																																																																																																														
入院症例数	5,444	5,410	5,927	6,411	6,311	5,901																																																																																																																																																																																																																																														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																																																																																																																																														
入院症例数	5,014	4,863	4,679	4,855	4,536	4,789																																																																																																																																																																																																																																														
剖宮産率	76.3	74.0	71.0	73.9	69.0	72.8																																																																																																																																																																																																																																														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																																																																																																																																														
入院症例数	2,095	2,087	2,098	2,007	2,068	2,071																																																																																																																																																																																																																																														
入院延滞率	95.7	95.3	95.5	91.6	94.4	94.5																																																																																																																																																																																																																																														
体重(g)	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																																																																																																																																														
500未満	3	2	3	7	3	4																																																																																																																																																																																																																																														
500~1,000	33	48	26	36	28	34																																																																																																																																																																																																																																														
1,000~1,500	48	44	36	22	28	36																																																																																																																																																																																																																																														
1,500以上	166	148	160	144	143	152																																																																																																																																																																																																																																														
合計	250	242	225	209	202	226																																																																																																																																																																																																																																														
	・本県における小児がんの拠点機能を有する病院として、高度な集学的治療に積極的に取り組む。	小児がん診療の連携拠点病院として、高度な集学的治療への積極的な取組 ①小児がんの集学的治療推進、セカントオプティオンの受入れなど、静岡県小児がん拠点病院としての機能強化 ②院内がん登録の推進 ③県立静岡がんセンターとの連携強化	47	①②静岡県小児がん拠点病院として血液腫瘍に対しては、骨髓・末梢血幹細胞・臍帯血移植などの治療法を利用して対応する。 ①②小児がん連携拠点病院の指定を念頭に置き、診療の更なる充実を図る。 ③県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを実施する。	血液腫瘍科延患患者数実績 (単位：人) <table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>入院</td><td>7,032</td><td>6,947</td><td>9,613</td><td>8,301</td><td>7,977</td><td>8,539</td></tr><tr><td>外来</td><td>3,645</td><td>3,396</td><td>3,533</td><td>3,691</td><td>3,711</td><td>3,676</td></tr></table> 造血幹細胞移植実績 (単位：件) <table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>骨髄移植</td><td>9</td><td>9</td><td>4</td><td>4</td><td>2</td><td>6</td></tr><tr><td>臍帯血</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>自家末梢血</td><td>2</td><td>2</td><td>8</td><td>5</td><td>7</td><td>5</td></tr><tr><td>同種末梢血</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr><tr><td>計</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>11</td><td>10</td><td>13</td></tr></table> 小児がん登録件数 (単位：件) <table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>登録件数</td><td>12</td><td>57</td><td>46</td><td>61</td><td>58</td><td>58</td></tr></table> ・H28年度から、概ね2ヶ月に1回、県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを実施している。	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	入院	7,032	6,947	9,613	8,301	7,977	8,539	外来	3,645	3,396	3,533	3,691	3,711	3,676	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	骨髄移植	9	9	4	4	2	6	臍帯血	1	1	0	2	1	1	自家末梢血	2	2	8	5	7	5	同種末梢血	1	1	1	0	0	1	計	13	13	13	11	10	13	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	登録件数	12	57	46	61	58	58																																																																																																																																																																		
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																																																																																																																																														
入院	7,032	6,947	9,613	8,301	7,977	8,539																																																																																																																																																																																																																																														
外来	3,645	3,396	3,533	3,691	3,711	3,676																																																																																																																																																																																																																																														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																																																																																																																																														
骨髄移植	9	9	4	4	2	6																																																																																																																																																																																																																																														
臍帯血	1	1	0	2	1	1																																																																																																																																																																																																																																														
自家末梢血	2	2	8	5	7	5																																																																																																																																																																																																																																														
同種末梢血	1	1	1	0	0	1																																																																																																																																																																																																																																														
計	13	13	13	11	10	13																																																																																																																																																																																																																																														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																																																																																																																																														
登録件数	12	57	46	61	58	58																																																																																																																																																																																																																																														

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置				
中期計画				
中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画
	・24時間を通して重篤な小児救命救急患者の受入体制を維持・強化するとともに、救急医療全般にわたって地域の医療機関と分担して受け入れる体制を整備する。	24時間を通して重篤な小児救命救急患者を受け入れる体制の維持及び地域で不足する小児救命救急医療体制の充実等、小児救急医療のモデルとなる体制整備 ①院内各専門領域のバックアップによる、小児救急センター・小児集中治療センターを中心とした小児救急医療全般にわたる受入体制の強化、拡充 ②小児救命救急センターとしてメディカルコントロール体制整備への協力 ③小児救急専門スタッフの教育の充実	48	①PICU（小児集中治療センター）・救急総合診療科を中心として小児救急医療体制の強化を図る。 ①小児救急センター・小児集中治療センターを中心とし、365日24時間小児救急患者の受入可能な体制を維持、充実させる。 ③院内の小児救急専門スタッフ（医師、看護師）育成に努める。
			49	②地域の医療・消防機関で構成されるメディカルコントロール協議会に参加するとともに、PICUの主権により、救急医療・救急（消防）業務従事者向けの研究会、実習講習を行う。
	・精神疾患を持つ小児患者やその家族に対して、児童精神科分野における中核的機能の発揮に努める。	子どもたちの診療分野の県内における中核的機能の発揮 ①子どもたちの精神科専門病棟を有することも病院としての強みを発揮 ②「子どもたちの心の診療ネットワーク事業」の拠点病院として、教育・福祉・医療機関の連携ネットワークの更なる拡大、充実 ③臨床研修の充実による児童精神科医の継続的育成	50	①県内の児童精神科医療の中核機関としての治療の充実と、必要に応じ、身体疾患を有する患者に対し当該担当科と連携して治療する。
業務の実績（H29・中期期間）				
第2期（H26～30）自己評価				
				説明
				H25年6月に小児救命救急センター（ER）を開設し、小児救命救急センターとともにあらゆる救急患者を受け入れる体制を確立するとともに、地域で即している救急医療体制の補完にも寄与できた。
				継続的に救急隊員への研修などを実施し、小児救命救急センターとしてメディカルコントロール体制整備への協力をし、小児救急医療の質の向上を図った。
				県内児童精神の中核病院として、診療を行うとともに関係機関との連携、支援を行った。 発達障害の受診が増大し、外来診療の負担増となっているため、発達小児科や神経科とともに、今後の診療体制を検討する必要がある。

中期計画		年度計画	No.	行動計画	業務の実績（H29・中期期間）	第2期（H26～30）自己評価						
第2 2 医療に関する技術者(医師、看護師及びその他の医療従事者)の研修を通じて質の向上			51	厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県県の拠点病院として参加する。	事業を行っている全国18都府県23拠点病院の一つとして参加した。	A 子どもの心の診療ネットワークには全国18都府県の拠点病院の一つとして厚生労働省の事業開始当初から参画し、継続して中核的役割を果たした。						
第2 2 医療に関する技術者(医師、看護師及びその他の医療従事者)の研修を通じて質の向上	第2 2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じて質の向上	1 2	52	児童精神科医の育成に努める	静岡県立総合医療センター (単位:人)	A 期間中継続して、児童精神科臨床研修として有期職員医師を採用し、児童精神科医の育成を行っている。						
					区 分		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込
					採用人数		1	1	1	1	1	1
					区 分		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定
					看護士		646	654	678	748	804	806
第2 2 医療に関する技術者(医師、看護師及びその他の医療従事者)の研修を通じて質の向上	第2 2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じて質の向上	1 2	53	業務運営に必要な人材の確保に努める。	総合病院正職員数(医師除く) (単位:人)	A H25 年より看護師の紹介業者を通じた採用を行い、H27年度より人材確保対策本部を設置し、キャリアパス隊による県外養成校の訪問や広報活動の強化、看護師就学資金貸与制度の拡充等の多岐にわたる新たな取組を導入し、積極的な人材確保に努めた結果、看護師必要数はほぼ確保された。						
					区 分		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定
					看護士		184	196	215	211	208	214
					医師技術者		38	41	49	51	52	54
					事務							
第2 2 医療に関する技術者(医師、看護師及びその他の医療従事者)の研修を通じて質の向上	第2 2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じて質の向上	1 2	54	研修医の確保に努める。	初期臨床研修医数 (単位:人)	A 初期臨床研修医の確保については、年度ごとの計画の人数を確保できている。今後は、専攻医の確保を行っている。						
					初期臨床研修医		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定
					1年生		19 (2)	22 (2)	21 (2)	22 (2)	24 (3)	
					2年生		18 (3)	18 (2)	22 (2)	19 (2)	21 (2)	20 (2)
					計		37 (5)	40 (4)	42 (4)	40 (4)	43 (4)	44 (5)
第2 2 医療に関する技術者(医師、看護師及びその他の医療従事者)の研修を通じて質の向上	第2 2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じて質の向上	1 2	54	研修医の確保に努める。	※ () うち自治体大学出身者 後期臨床研修医数 (単位:人)	A 研修による育成を通じ、後期研修医の確保ができた。H30年度開始し、H30年度開始に向けて、H29年度にプログラムを作成した。						
					後期臨床研修医		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定
					人数		42	50	54	58	50	45
					区 分		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定
					人数		3	2	2	4	4	3

中期目標	中期計画	No.	行動計画	業務の実績（H29・中期期間）	第2期（H26～30）自己評価																																																																																																																																																																																																										
				後期研修医数 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度予定</th></tr><tr><td>人数</td><td>14</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>16</td><td>14</td></tr></table>	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定	人数	14	14	15	16	16	14	後期研修医は30年度を除き期間中定員どおり受け入れた。 新専門医制度へも対応し、H29年度から新プログラムで研修を行っている。																																																																																																																																																																																												
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定																																																																																																																																																																																																									
人数	14	14	15	16	16	14																																																																																																																																																																																																									
				こと も	A																																																																																																																																																																																																										
		55	即時的で効果的な人材を確保 するため、採用試験を適宜実施する。	・H29 看護師については、定時募集に加えて随時募集を実施し、切れ目のない採用試験を実施している。また、総合病院においては紹介業者を通じて採用も合わせて行った。さらに優秀な人材確保のためコマディカルにおいてアソシエイトの公募試験を開始した。 ・第2期中期目標期間（H26～30） 正規職員の確保状況 (単位：人)	A																																																																																																																																																																																																										
				<table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度予定</th></tr><tr><td rowspan="5">医 師</td><td>226</td><td>230</td><td>241</td><td>245</td><td>260</td><td>269</td></tr><tr><td>2</td><td>5</td><td>4</td><td>5</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>1,179</td><td>1,221</td><td>1,251</td><td>1,317</td><td>1,370</td><td>1,370</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>289</td><td>304</td><td>327</td><td>320</td><td>315</td><td>319</td></tr><tr><td>事 務</td><td>105</td><td>109</td><td>118</td><td>119</td><td>118</td><td>126</td></tr><tr><td>計</td><td>1,801</td><td>1,869</td><td>1,941</td><td>2,006</td><td>2,067</td><td>2,088</td></tr><tr><td rowspan="5">看護 師</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>事 務</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>27</td><td>25</td><td>32</td></tr><tr><td>計</td><td>28</td><td>29</td><td>31</td><td>29</td><td>27</td><td>34</td></tr><tr><td>医 師</td><td>123</td><td>127</td><td>135</td><td>144</td><td>157</td><td>165</td></tr><tr><td rowspan="5">歯科医師</td><td>1</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>646</td><td>654</td><td>678</td><td>748</td><td>804</td><td>806</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>184</td><td>196</td><td>215</td><td>211</td><td>208</td><td>214</td></tr><tr><td>事 務</td><td>38</td><td>41</td><td>49</td><td>51</td><td>52</td><td>54</td></tr><tr><td>計</td><td>992</td><td>1,021</td><td>1,080</td><td>1,188</td><td>1,224</td><td>1,242</td></tr><tr><td rowspan="5">医 師</td><td>12</td><td>13</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>14</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>113</td><td>114</td><td>110</td><td>114</td><td>115</td><td>118</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>24</td><td>26</td><td>26</td><td>26</td><td>26</td><td>25</td></tr><tr><td>事 務</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td></tr><tr><td>計</td><td>162</td><td>167</td><td>161</td><td>165</td><td>166</td><td>170</td></tr><tr><td rowspan="5">医 師</td><td>91</td><td>90</td><td>94</td><td>89</td><td>91</td><td>90</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>419</td><td>452</td><td>461</td><td>453</td><td>449</td><td>444</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>80</td><td>81</td><td>85</td><td>83</td><td>81</td><td>80</td></tr><tr><td>事 務</td><td>28</td><td>28</td><td>28</td><td>28</td><td>28</td><td>27</td></tr><tr><td>計</td><td>619</td><td>652</td><td>669</td><td>654</td><td>650</td><td>642</td></tr></table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定	医 師	226	230	241	245	260	269	2	5	4	5	4	4	看護 師	1,179	1,221	1,251	1,317	1,370	1,370	医療技術	289	304	327	320	315	319	事 務	105	109	118	119	118	126	計	1,801	1,869	1,941	2,006	2,067	2,088	看護 師	1	1	2	2	2	2	医療技術	1	1	1	1	1	1	事 務	26	27	28	27	25	32	計	28	29	31	29	27	34	医 師	123	127	135	144	157	165	歯科医師	1	3	3	4	3	3	看護 師	646	654	678	748	804	806	医療技術	184	196	215	211	208	214	事 務	38	41	49	51	52	54	計	992	1,021	1,080	1,188	1,224	1,242	医 師	12	13	12	12	12	14	歯科医師	1	1	1	1	1	1	看護 師	113	114	110	114	115	118	医療技術	24	26	26	26	26	25	事 務	13	13	13	13	13	13	計	162	167	161	165	166	170	医 師	91	90	94	89	91	90	歯科医師	1	1	1	1	1	1	看護 師	419	452	461	453	449	444	医療技術	80	81	85	83	81	80	事 務	28	28	28	28	28	27	計	619	652	669	654	650	642	医師、看護師をはじめ必要な人材を確保することができおり、特に看護師については確保対策を進めた結果、25年度と比較し約200名の増員を達成し、稼働病床の増加につながることができた。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定																																																																																																																																																																																																									
医 師	226	230	241	245	260	269																																																																																																																																																																																																									
	2	5	4	5	4	4																																																																																																																																																																																																									
	看護 師	1,179	1,221	1,251	1,317	1,370	1,370																																																																																																																																																																																																								
	医療技術	289	304	327	320	315	319																																																																																																																																																																																																								
	事 務	105	109	118	119	118	126																																																																																																																																																																																																								
計	1,801	1,869	1,941	2,006	2,067	2,088																																																																																																																																																																																																									
看護 師	1	1	2	2	2	2																																																																																																																																																																																																									
	医療技術	1	1	1	1	1	1																																																																																																																																																																																																								
	事 務	26	27	28	27	25	32																																																																																																																																																																																																								
	計	28	29	31	29	27	34																																																																																																																																																																																																								
	医 師	123	127	135	144	157	165																																																																																																																																																																																																								
歯科医師	1	3	3	4	3	3																																																																																																																																																																																																									
	看護 師	646	654	678	748	804	806																																																																																																																																																																																																								
	医療技術	184	196	215	211	208	214																																																																																																																																																																																																								
	事 務	38	41	49	51	52	54																																																																																																																																																																																																								
	計	992	1,021	1,080	1,188	1,224	1,242																																																																																																																																																																																																								
医 師	12	13	12	12	12	14																																																																																																																																																																																																									
	歯科医師	1	1	1	1	1	1																																																																																																																																																																																																								
	看護 師	113	114	110	114	115	118																																																																																																																																																																																																								
	医療技術	24	26	26	26	26	25																																																																																																																																																																																																								
	事 務	13	13	13	13	13	13																																																																																																																																																																																																								
計	162	167	161	165	166	170																																																																																																																																																																																																									
医 師	91	90	94	89	91	90																																																																																																																																																																																																									
	歯科医師	1	1	1	1	1	1																																																																																																																																																																																																								
	看護 師	419	452	461	453	449	444																																																																																																																																																																																																								
	医療技術	80	81	85	83	81	80																																																																																																																																																																																																								
	事 務	28	28	28	28	28	27																																																																																																																																																																																																								
計	619	652	669	654	650	642																																																																																																																																																																																																									

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績（H29・中期期間）	第2期（H26～30）自己評価 説明
			56	就職説明会への参加や多角的な広報の実施などにより、必要な職員の確保を目指す。	・H29 合同就職説明会に参加し、機構受験者の確保に努めた。 新卒看護師向け求人誌への看護師募集記事の掲載を行った。 看護学生向け就職説明会 区分 来場者数 訪問者数 受験者数 ナース専科（静岡） 200 157 47 ナースナビ（浜松） 204 45 0 （新居） 296 29 0 （静岡） 272 18 0 キャリアタス看護（東京） 319 32 0 マイナビ（浜松） 22 22 7 （静岡） 25 25 1 （沼津） 40 32 3 業者計 1,378 360 58 静岡県立大学 132 83 41 常葉大学 266 78 22 聖隷クリスティーア大学 50 16 10 順天堂大学 120 46 2 静岡市立看護専門学校 34 34 0 東部看護専門学校 240 109 11 養成校計 842 366 86 計 2,220 726 144 ・第2期中期目標期間（H26～30） 看護学生向け就職説明会 区分 来場者数 受験者数 来場者数 25年度 26年度 27年度 28年度 29年度 業者 970 810 949 1,012 1,378 養成校 550 569 639 764 842 訪問者数 236 257 254 200 360 業者 198 198 293 286 366 養成校 不明 不明 不明 3 58 受験者数 16 17 17 48 86	県内・県外会場の合同就職説明会、養成校主催説明会の参加回数を増やし、より多くの看護学生と面談をすることで、必要な職員の確保が出来た。 A
			57	看護師修学資金制度の積極的広報をし、活用推進により、更なる看護師確保を目指す。	看護師修学資金の状況 区分 25年度 26年度 27年度 28年度 29年度 30年度見込 計 決定 73 74 123 88 114 60 532 継続 52 80 99 126 163 178 698 取崩 ▲6 ▲12 ▲11 ▲5 ▲9 ▲8 ▲51 貸与計 119 142 211 209 268 230 1,179 採用 38 33 76 40 63 - 250	一定数の募集が集まり、安定的な看護師確保がなされた。 A

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置																																																																																																													
中期計画																																																																																																													
中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画																																																																																																									
中期目標			58	看護部幹部や事務部幹部による養成校の訪問を実施する。																																																																																																									
中期目標			59	看護師・その他医療従事者等の実習・アルバイト研修等の受入れを推進する。																																																																																																									
業務の実績 (H29・中期期間)	・ H29 看護師確保キャラバン隊が県外42校を訪問した。 ・ 第2期中期目標期間 (H26～H30) 看護師確保担当を本部事務部に設置し、H26年度県内19校、県外93校、27年度県内21校、県外220校の看護師養成校の訪問を行い、募集活動を行うとともに、情報収集を行った。看護師確保H27年度からは、看護師人材確保会議において、看護師確保キャラバンを創設し、機構幹部 (院長代理、副院長兼看護部長、副看護部長等) が、県外養成校を訪問した。 看護師確保キャラバン隊の状況 (単位：校) <table><thead><tr><th></th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>計</th></tr></thead><tbody><tr><td>山形県</td><td>10</td><td>0</td><td>0</td><td>10</td></tr><tr><td>新潟県</td><td>0</td><td>10</td><td>0</td><td>10</td></tr><tr><td>石川県</td><td>11</td><td>0</td><td>8</td><td>19</td></tr><tr><td>福井県</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>山梨県</td><td>4</td><td>2</td><td>5</td><td>11</td></tr><tr><td>長野県</td><td>6</td><td>4</td><td>1</td><td>11</td></tr><tr><td>岐阜県</td><td>10</td><td>7</td><td>9</td><td>26</td></tr><tr><td>三重県</td><td>10</td><td>5</td><td>4</td><td>19</td></tr><tr><td>徳島県</td><td>0</td><td>0</td><td>7</td><td>7</td></tr><tr><td>佐賀県</td><td>7</td><td>0</td><td>0</td><td>7</td></tr><tr><td>鹿児島県</td><td>0</td><td>11</td><td>0</td><td>11</td></tr><tr><td>沖縄県</td><td>5</td><td>8</td><td>7</td><td>20</td></tr><tr><td>計</td><td>63</td><td>47</td><td>42</td><td>152</td></tr></tbody></table> 実習・アルバイト研修等の受入れ (平成29年度) (単位：人) <table><thead><tr><th>区分</th><th>医師</th><th>医学生</th><th>看護師</th><th>看護学生</th><th>コメディカル</th><th>計</th></tr></thead><tbody><tr><td>総合</td><td>18</td><td>218</td><td>20</td><td>498</td><td>229</td><td>983</td></tr><tr><td>こころ</td><td>14</td><td>3</td><td>4</td><td>230</td><td>18</td><td>269</td></tr><tr><td>こども</td><td>44</td><td>17</td><td>156</td><td>102</td><td>40</td><td>359</td></tr><tr><td>計</td><td>76</td><td>238</td><td>180</td><td>830</td><td>287</td><td>1,611</td></tr></tbody></table> ・ H29 ・ 総合では、学生用電子カルテ、デスク等実習環境を整備し、「急性期だからこそ」の看護、実習を通して、学生が魅力を感じる医療現場となるよう対応した。 ・ こころでは、昨年度に引き続き、多くの実習生を受け入れ、精神科病院における看護のやりがい等を伝えた。 ・ こども病院では、看護師確保用DVDをリニューアルした。					27年度	28年度	29年度	計	山形県	10	0	0	10	新潟県	0	10	0	10	石川県	11	0	8	19	福井県	0	0	1	1	山梨県	4	2	5	11	長野県	6	4	1	11	岐阜県	10	7	9	26	三重県	10	5	4	19	徳島県	0	0	7	7	佐賀県	7	0	0	7	鹿児島県	0	11	0	11	沖縄県	5	8	7	20	計	63	47	42	152	区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計	総合	18	218	20	498	229	983	こころ	14	3	4	230	18	269	こども	44	17	156	102	40	359	計	76	238	180	830	287	1,611
	27年度	28年度	29年度	計																																																																																																									
山形県	10	0	0	10																																																																																																									
新潟県	0	10	0	10																																																																																																									
石川県	11	0	8	19																																																																																																									
福井県	0	0	1	1																																																																																																									
山梨県	4	2	5	11																																																																																																									
長野県	6	4	1	11																																																																																																									
岐阜県	10	7	9	26																																																																																																									
三重県	10	5	4	19																																																																																																									
徳島県	0	0	7	7																																																																																																									
佐賀県	7	0	0	7																																																																																																									
鹿児島県	0	11	0	11																																																																																																									
沖縄県	5	8	7	20																																																																																																									
計	63	47	42	152																																																																																																									
区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計																																																																																																							
総合	18	218	20	498	229	983																																																																																																							
こころ	14	3	4	230	18	269																																																																																																							
こども	44	17	156	102	40	359																																																																																																							
計	76	238	180	830	287	1,611																																																																																																							
説明	第2期 (H26～30) 自己評価																																																																																																												
	期間を通じ、看護師確保担当看護部長や看護師確保キャラバン隊が看護師養成校を訪問することで大きな成果を上げ看護師が充足した。 A 研修の受入について、門戸を広げた受入に努め、より多くの実習受入を実現するための戦略を図っている。 A																																																																																																												

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画

中期計画		年度計画		No.	行動計画	業務の実績（H29・中期期間）	第2期（H26～30）自己評価																																																																						
				65	臨床現場に即した、より実践的な研修を提供する。	実習・アルバイト研修等の受入れ（平成29年度）（単位：人） <table><tr><th>区分</th><th>医師</th><th>医学生</th><th>看護生</th><th>看護師</th><th>看護学生</th><th>コメディカル</th><th>計</th></tr><tr><td>総合</td><td>18</td><td>218</td><td>3</td><td>20</td><td>498</td><td>229</td><td>983</td></tr><tr><td>こども</td><td>14</td><td>3</td><td>4</td><td>230</td><td>18</td><td>269</td><td></td></tr><tr><td>こども</td><td>44</td><td>17</td><td>156</td><td>102</td><td>40</td><td>359</td><td></td></tr><tr><td>計</td><td>76</td><td>238</td><td>180</td><td>830</td><td>287</td><td>1,611</td><td></td></tr></table> A 先端医学棟2階に教育研修部を設置し、メディカルスキルアップセンターを整備した。臨床現場に即した、より実践的な研修が提供できた。	区分	医師	医学生	看護生	看護師	看護学生	コメディカル	計	総合	18	218	3	20	498	229	983	こども	14	3	4	230	18	269		こども	44	17	156	102	40	359		計	76	238	180	830	287	1,611																																
区分	医師	医学生	看護生	看護師	看護学生	コメディカル	計																																																																						
総合	18	218	3	20	498	229	983																																																																						
こども	14	3	4	230	18	269																																																																							
こども	44	17	156	102	40	359																																																																							
計	76	238	180	830	287	1,611																																																																							
				66	研修体系プログラムの整備と研修内容の充実を図る。	職員研修参加者数（単位：人） <table><tr><th></th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>新規採用職員研修</td><td>147</td><td>144</td><td>145</td><td>136</td><td>126</td><td>127</td></tr><tr><td>新規採用職員研修</td><td>24</td><td>26</td><td>15</td><td>10</td><td>4</td><td>6</td></tr><tr><td>新規医師研修</td><td>14</td><td>14</td><td>28</td><td>25</td><td>18</td><td>22</td></tr><tr><td>新任管理者・新任監督者研修</td><td>6</td><td>17</td><td>-</td><td>34</td><td>28</td><td>25</td></tr><tr><td>コミュニケーション講座</td><td>17</td><td>23</td><td>21</td><td>20</td><td>24</td><td>30</td></tr><tr><td>プレゼンテーション講座</td><td>40</td><td>29</td><td>31</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>フシリテーション講座</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>23</td><td>20</td><td>20</td></tr><tr><td>コーピング講座</td><td>32</td><td>32</td><td>28</td><td>32</td><td>18</td><td>32</td></tr><tr><td>メンタルサポート講座</td><td>23</td><td>20</td><td>21</td><td>25</td><td>25</td><td>25</td></tr></table> A 階層別、業務に必要なスキル等身につける専門研修について毎年研修内容の見直しを行ない、研修体制プログラムを整備した。		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	新規採用職員研修	147	144	145	136	126	127	新規採用職員研修	24	26	15	10	4	6	新規医師研修	14	14	28	25	18	22	新任管理者・新任監督者研修	6	17	-	34	28	25	コミュニケーション講座	17	23	21	20	24	30	プレゼンテーション講座	40	29	31	-	-	-	フシリテーション講座	-	-	-	23	20	20	コーピング講座	32	32	28	32	18	32	メンタルサポート講座	23	20	21	25	25	25	
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																							
新規採用職員研修	147	144	145	136	126	127																																																																							
新規採用職員研修	24	26	15	10	4	6																																																																							
新規医師研修	14	14	28	25	18	22																																																																							
新任管理者・新任監督者研修	6	17	-	34	28	25																																																																							
コミュニケーション講座	17	23	21	20	24	30																																																																							
プレゼンテーション講座	40	29	31	-	-	-																																																																							
フシリテーション講座	-	-	-	23	20	20																																																																							
コーピング講座	32	32	28	32	18	32																																																																							
メンタルサポート講座	23	20	21	25	25	25																																																																							
(2)就労環境の向上	優秀な医療従事者を確保するため、一働きやすく、また、働きがいのある病院となるよう、ワークライフ・バランスの確保や職員の精神面を含めた健康保持に配慮し、就労環境の向上を図ること。	(2)就労環境の向上 仕事と生活の調和に配慮した雇用形態や勤務時間の設定、時間外勤務の削減、職員の健康保持への配慮や院内保育所の活用など職員が働きやすく、また、働きがいを実感できるよう環境づくりを進める。	1 2 (2)	67	柔軟な職員採用や多様な雇用形態・勤務条件の設定を図る。	・H29看護師の2交代制勤務については、H29年度10月末で総合病院16病棟、こころの医療センター3病棟、こども病院9病棟となっている。 ・看護師の夜勤専従について、3病院で試行を行っている。 ・看護師、事務、コメディカルの優秀な有期職員をアソシエイトに登用し人材確保を図った。 ・H29年度から新たに採用した医師を対象に、初任給調整手当を廃止し、その原資を活用して、期間内の手術や外来等の診療実績を評価して支給する診療賞与を導入した。 ・第2期中期目標期間（H26～30）法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮し、患者に必要な医療を適切に提供するとともに、経営改善及び職員の勤務条件の改善に取り組んだ。 ・看護師の2交代制勤務については、労働組合との合意により試行を経て制度化し、H26年度以降も実施病棟を拡大した。 ・看護師の夜勤専従については、労働組合との合意により試行を実施している。 ・H28年度から新たにアソシエイト制度を創設し、優秀な有期職員の登用を進めている。 アソシエイト採用実績（単位：人） <table><tr><th>区分</th><th>分</th><th>28年度</th><th>29年度</th></tr><tr><td>看護師</td><td></td><td>5</td><td>1</td></tr><tr><td>事務</td><td></td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td></td><td>-</td><td>3</td></tr><tr><td>計</td><td></td><td>7</td><td>6</td></tr></table>	区分	分	28年度	29年度	看護師		5	1	事務		2	2	コメディカル		-	3	計		7	6	法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮し、期間を通じて看護師の2交代制病棟は拡大し、夜勤専従の試行を行うことで、多様な雇用形態への取組を進めた。アソシエイト制度の創設により、職員採用において柔軟な登用が可能となり、人材確保が図られている。																																																		
区分	分	28年度	29年度																																																																										
看護師		5	1																																																																										
事務		2	2																																																																										
コメディカル		-	3																																																																										
計		7	6																																																																										

[illegible]

第2期(H26～30)自己評価

説明

業務の実績(H29・中期期間)

行動計画

No.

年度計画

中期計画

中期目標

看護師、コメディカル、事務が業務を実施するうえで、有用な資格等の取得を支援し、職員のレベルアップを図る。

第2期中期目標期間(H26～30)

資格等取得助成制度利用者

(単位:人)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込
看護師	10	10	7	27	8	8
コメディカル	4	13	4	11	12	12
事務	0	1	0	0	0	0
計	14	24	11	38	20	20

看護師	1	0	0	0	0	0
コメディカル	0	0	1	0	0	0
事務	0	0	1	0	0	0
計	1	0	1	0	0	0

看護師	19	27	9	30	3	3
コメディカル	1	3	0	0	0	0
事務	0	0	0	0	1	1
計	20	30	9	30	4	4

看護師	29	37	16	57	11	11
コメディカル	6	16	4	11	12	12
事務	2	1	1	0	1	1
計	37	54	21	68	24	24

看護師、コメディカル、事務職員のレベルアップを促し、機構全体の医療の質の向上に貢献している。

こども

実習研修受入れ実績

(単位:人)

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込
区	304	309	391	434	499	387

期間中、継続的に実習研修を行った。

総合

公開講演会開催実績(医療機関向け)

(単位:回)

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込
区	20	26	13	29	27	27

主に医療関係者向けの開催件数は年20回前後で毎年度安定的に推移しており、医療関係者の知識向上や技術の普及に貢献している。

こども

公開講演会開催実績(医療機関向け)

(単位:回)

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込
区	17	19	23	15	12	17

さまざまな分野の講演会を定期的に実施し、また、多くの医療従事者が受講できるよう工夫(ビデオ研修など)をし、医療従事者の資質向上に寄与した。

第2

3 医療に関する調査及び研究

医療に関する調査及び研究を行ない、県立病院が提供する医療の高度化や本県の医療水準の向上を図ること。

第2

3 医療に関する調査及び研究

県内医療水準の向上に寄与するため、病院が有する医療資源の活用、院外への情報発信、他の機関との連携を図りながら、調査及び研究に取り組む。また、それらを円滑に進めるため、診療録の電子化等の医療情報基盤の整備・充実強化に努める。

1

3

-

-

-

-

-

-

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置																																																																																																																																																																																																																										
中期計画	中期計画	年度計画	No.	行動計画																																																																																																																																																																																																																						
(1)研究機能の強化 臨床研究機能の強化に取り組むこと。また、富士山麓先端健康産業集積(フアルマバレー)プロジェクトなど、治験や産学官との連携による研究開発に取り組むこと。	(1)研究機能の強化 生活習慣病や遺伝子診療、脳科学等の臨床研究を行うことのできる環境の整備及び研究支援体制の充実 ②治験や調査研究事業に積極的に参画できるよう引き続き体制を整備する。さらに、県立大学等の研究機関との共同研究にも取り組む。	研究機能の強化 ①リサーチサポーターセンターの設置による臨床研究を行う環境整備及び研究支援体制の充実 ②治験や調査研究事業に積極的に参画できる体制の整備・充実による受託件数の増加 ③県立大学等の研究機関との共同研究	76	・研究員を確保し、円滑な運用を行う。 ・研究資金となる奨学金附金を受入れる。 ・臨床試験管理センターによる臨床研究の支援を行う。 ・県立大学との共同研究を行う。																																																																																																																																																																																																																						
総合																																																																																																																																																																																																																										
<table><tr><td colspan="2">臨床研究数</td><td colspan="5">(単位：件、%)</td></tr><tr><td>区分</td><td>25年度</td><td>26年度</td><td>27年度</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度予定</td></tr><tr><td>研究数</td><td>195</td><td>213</td><td>232</td><td>266</td><td>279</td><td>279</td></tr><tr><td>支援研究数</td><td>36</td><td>53</td><td>46</td><td>46</td><td>43</td><td>43</td></tr><tr><td>支援率</td><td>18.5</td><td>24.9</td><td>19.7</td><td>17.3</td><td>15.4</td><td>15.4</td></tr></table> <table><tr><td colspan="2">客員研究員受入状況</td><td colspan="5">(単位：人)</td></tr><tr><td>区分</td><td>25年度</td><td>26年度</td><td>27年度</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度予定</td></tr><tr><td>静岡県立大学</td><td>8</td><td>7</td><td>14</td><td>14</td><td>14</td><td>14</td></tr><tr><td>外部</td><td>-</td><td>-</td><td>4</td><td>7</td><td>9</td><td>11</td></tr></table> <table><tr><td colspan="2">奨学金附金受入件数・金額</td><td colspan="5">目的</td></tr><tr><td>区分</td><td>寄附者</td><td colspan="4"></td><td>金額(千円)</td></tr><tr><td rowspan="5">25年度</td><td>アストラゼネカ財団</td><td colspan="4">腎臓病疾患・本部における研究推進のための研究</td><td>100</td></tr><tr><td>第一三共薬品工業株式会社</td><td colspan="4">腎臓病の予防と早期発見に関する研究</td><td>500</td></tr><tr><td>田辺三共薬品工業株式会社</td><td colspan="4">心臓病の予防と早期発見に関する研究</td><td>3,000</td></tr><tr><td>大日本住友製薬株式会社</td><td colspan="4">糖尿病治療薬の有効性に関する研究</td><td>500</td></tr><tr><td>モルテン薬品工業株式会社</td><td colspan="4">がん治療薬の有効性に関する研究</td><td>300</td></tr><tr><td rowspan="5">26年度</td><td>協和発酵キリン株式会社</td><td colspan="4">腎臓病疾患の治療に関する研究</td><td>300</td></tr><tr><td>協和発酵キリン株式会社</td><td colspan="4">腎臓病の管理に関する研究</td><td>1,800</td></tr><tr><td>力野薬品工業株式会社</td><td colspan="4">腎臓病治療薬の有効性に関する研究</td><td>200</td></tr><tr><td>第一三共薬品工業株式会社</td><td colspan="4">腎臓病治療薬の有効性に関する研究</td><td>1,000</td></tr><tr><td>アストラゼネカ財団</td><td colspan="4">腎臓病疾患における研究</td><td>500</td></tr><tr><td rowspan="5">27年度</td><td>大正薬品工業株式会社</td><td colspan="4">腎臓病疾患の治療に関する研究</td><td>4,600</td></tr><tr><td>協和発酵キリン株式会社</td><td colspan="4">腎臓病治療薬の有効性に関する研究</td><td>200</td></tr><tr><td>第一三共株式会社</td><td colspan="4">腎臓病治療薬の有効性に関する研究</td><td>500</td></tr><tr><td>田辺三共薬品工業株式会社</td><td colspan="4">腎臓病治療薬の有効性に関する研究</td><td>200</td></tr><tr><td>合計</td><td colspan="4">腎臓病疾患の治療に関する研究</td><td>1,400</td></tr><tr><td rowspan="5">28年度</td><td>興和創薬株式会社</td><td colspan="4">腎臓病疾患の治療に関する研究</td><td>500</td></tr><tr><td>力野薬品工業株式会社</td><td colspan="4">腎臓病・内分分泌疾患の治療に関する研究</td><td>500</td></tr><tr><td>小野薬品工業株式会社</td><td colspan="4">腎臓病の及ぼす影響に関する研究</td><td>500</td></tr><tr><td>第一三共株式会社</td><td colspan="4">腎臓病治療薬の有効性に関する研究</td><td>500</td></tr><tr><td>合計</td><td colspan="4">腎臓病疾患の治療に関する研究</td><td>1,500</td></tr><tr><td rowspan="2">29年度</td><td>日本・アメリカ・中国・韓国・台湾の5か国4社</td><td colspan="4">がん治療薬の有効性に関する研究</td><td>300</td></tr><tr><td>日本・アメリカ・中国・韓国・台湾の5か国4社</td><td colspan="4">がん治療薬の有効性に関する研究</td><td>800</td></tr></table>					臨床研究数		(単位：件、%)					区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定	研究数	195	213	232	266	279	279	支援研究数	36	53	46	46	43	43	支援率	18.5	24.9	19.7	17.3	15.4	15.4	客員研究員受入状況		(単位：人)					区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定	静岡県立大学	8	7	14	14	14	14	外部	-	-	4	7	9	11	奨学金附金受入件数・金額		目的					区分	寄附者					金額(千円)	25年度	アストラゼネカ財団	腎臓病疾患・本部における研究推進のための研究				100	第一三共薬品工業株式会社	腎臓病の予防と早期発見に関する研究				500	田辺三共薬品工業株式会社	心臓病の予防と早期発見に関する研究				3,000	大日本住友製薬株式会社	糖尿病治療薬の有効性に関する研究				500	モルテン薬品工業株式会社	がん治療薬の有効性に関する研究				300	26年度	協和発酵キリン株式会社	腎臓病疾患の治療に関する研究				300	協和発酵キリン株式会社	腎臓病の管理に関する研究				1,800	力野薬品工業株式会社	腎臓病治療薬の有効性に関する研究				200	第一三共薬品工業株式会社	腎臓病治療薬の有効性に関する研究				1,000	アストラゼネカ財団	腎臓病疾患における研究				500	27年度	大正薬品工業株式会社	腎臓病疾患の治療に関する研究				4,600	協和発酵キリン株式会社	腎臓病治療薬の有効性に関する研究				200	第一三共株式会社	腎臓病治療薬の有効性に関する研究				500	田辺三共薬品工業株式会社	腎臓病治療薬の有効性に関する研究				200	合計	腎臓病疾患の治療に関する研究				1,400	28年度	興和創薬株式会社	腎臓病疾患の治療に関する研究				500	力野薬品工業株式会社	腎臓病・内分分泌疾患の治療に関する研究				500	小野薬品工業株式会社	腎臓病の及ぼす影響に関する研究				500	第一三共株式会社	腎臓病治療薬の有効性に関する研究				500	合計	腎臓病疾患の治療に関する研究				1,500	29年度	日本・アメリカ・中国・韓国・台湾の5か国4社	がん治療薬の有効性に関する研究				300	日本・アメリカ・中国・韓国・台湾の5か国4社	がん治療薬の有効性に関する研究				800
臨床研究数		(単位：件、%)																																																																																																																																																																																																																								
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定																																																																																																																																																																																																																				
研究数	195	213	232	266	279	279																																																																																																																																																																																																																				
支援研究数	36	53	46	46	43	43																																																																																																																																																																																																																				
支援率	18.5	24.9	19.7	17.3	15.4	15.4																																																																																																																																																																																																																				
客員研究員受入状況		(単位：人)																																																																																																																																																																																																																								
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定																																																																																																																																																																																																																				
静岡県立大学	8	7	14	14	14	14																																																																																																																																																																																																																				
外部	-	-	4	7	9	11																																																																																																																																																																																																																				
奨学金附金受入件数・金額		目的																																																																																																																																																																																																																								
区分	寄附者					金額(千円)																																																																																																																																																																																																																				
25年度	アストラゼネカ財団	腎臓病疾患・本部における研究推進のための研究				100																																																																																																																																																																																																																				
	第一三共薬品工業株式会社	腎臓病の予防と早期発見に関する研究				500																																																																																																																																																																																																																				
	田辺三共薬品工業株式会社	心臓病の予防と早期発見に関する研究				3,000																																																																																																																																																																																																																				
	大日本住友製薬株式会社	糖尿病治療薬の有効性に関する研究				500																																																																																																																																																																																																																				
	モルテン薬品工業株式会社	がん治療薬の有効性に関する研究				300																																																																																																																																																																																																																				
26年度	協和発酵キリン株式会社	腎臓病疾患の治療に関する研究				300																																																																																																																																																																																																																				
	協和発酵キリン株式会社	腎臓病の管理に関する研究				1,800																																																																																																																																																																																																																				
	力野薬品工業株式会社	腎臓病治療薬の有効性に関する研究				200																																																																																																																																																																																																																				
	第一三共薬品工業株式会社	腎臓病治療薬の有効性に関する研究				1,000																																																																																																																																																																																																																				
	アストラゼネカ財団	腎臓病疾患における研究				500																																																																																																																																																																																																																				
27年度	大正薬品工業株式会社	腎臓病疾患の治療に関する研究				4,600																																																																																																																																																																																																																				
	協和発酵キリン株式会社	腎臓病治療薬の有効性に関する研究				200																																																																																																																																																																																																																				
	第一三共株式会社	腎臓病治療薬の有効性に関する研究				500																																																																																																																																																																																																																				
	田辺三共薬品工業株式会社	腎臓病治療薬の有効性に関する研究				200																																																																																																																																																																																																																				
	合計	腎臓病疾患の治療に関する研究				1,400																																																																																																																																																																																																																				
28年度	興和創薬株式会社	腎臓病疾患の治療に関する研究				500																																																																																																																																																																																																																				
	力野薬品工業株式会社	腎臓病・内分分泌疾患の治療に関する研究				500																																																																																																																																																																																																																				
	小野薬品工業株式会社	腎臓病の及ぼす影響に関する研究				500																																																																																																																																																																																																																				
	第一三共株式会社	腎臓病治療薬の有効性に関する研究				500																																																																																																																																																																																																																				
	合計	腎臓病疾患の治療に関する研究				1,500																																																																																																																																																																																																																				
29年度	日本・アメリカ・中国・韓国・台湾の5か国4社	がん治療薬の有効性に関する研究				300																																																																																																																																																																																																																				
	日本・アメリカ・中国・韓国・台湾の5か国4社	がん治療薬の有効性に関する研究				800																																																																																																																																																																																																																				
医薬品受託研究事業費・製剤件数 (単位：千円、件)																																																																																																																																																																																																																										
<table><tr><td>区分</td><td>25年度</td><td>26年度</td><td>27年度</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度予定</td></tr><tr><td>件数</td><td>29</td><td>29</td><td>29</td><td>30</td><td>29</td><td>29</td></tr><tr><td>契約額</td><td>71,394</td><td>86,565</td><td>90,519</td><td>78,259</td><td>64,062</td><td>64,062</td></tr><tr><td>件数</td><td>2</td><td>1</td><td>5</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td></tr><tr><td>契約額</td><td>537</td><td>185</td><td>1,139</td><td>0</td><td>0</td><td>350</td></tr><tr><td>件数</td><td>14</td><td>22</td><td>29</td><td>26</td><td>15</td><td>42</td></tr><tr><td>契約額</td><td>8,539</td><td>7,610</td><td>10,858</td><td>19,656</td><td>5,087</td><td>13,867</td></tr></table>					区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定	件数	29	29	29	30	29	29	契約額	71,394	86,565	90,519	78,259	64,062	64,062	件数	2	1	5	0	0	2	契約額	537	185	1,139	0	0	350	件数	14	22	29	26	15	42	契約額	8,539	7,610	10,858	19,656	5,087	13,867																																																																																																																																																																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定																																																																																																																																																																																																																				
件数	29	29	29	30	29	29																																																																																																																																																																																																																				
契約額	71,394	86,565	90,519	78,259	64,062	64,062																																																																																																																																																																																																																				
件数	2	1	5	0	0	2																																																																																																																																																																																																																				
契約額	537	185	1,139	0	0	350																																																																																																																																																																																																																				
件数	14	22	29	26	15	42																																																																																																																																																																																																																				
契約額	8,539	7,610	10,858	19,656	5,087	13,867																																																																																																																																																																																																																				
77																																																																																																																																																																																																																										
・医療水準の向上と院内における医療の質の高度化に資するため、新薬開発や臨床研究などへ参画する。																																																																																																																																																																																																																										

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置																										
中期計画																										
中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)																					
(2) 診療等の情報の活用 診療等を通じて得られる情報の向上のために活用するとともに、他の医療機関へ情報提供すること。	(2) 診療等の情報の活用 診療録等医療情報の電子化や管理機能の充実を図るなど、エビデンスを重視し、カンファレンス、臨床研修、臨床研究等において活用し医療の質の向上を図る。また、学会、講習会、研究会等へ情報発信しやすい体制を整備する。	I 3 (2)		診療等の情報の活用 ①診療情報等の分析 ②収支実績を部門別に随時把握できるシステムの利用	業務の実績 (H29・中期期間) ・ H29 度内に合計で4回開催する予定。 ・ 3月からDPC分析ソフトを変更しベンチマークデータの活用を行えるよう環境整備を行った。 ・ 第2期中期目標期間 (H26～30) ・ DPC分析ソフトを用いて、特定の症例について分析を行い、分析結果をもとに薬剤の積極的な切替を行った結果、後発品使用率が86.6% (H27年度) から92.3% (H28年度)、90.4% (H29年度) となった。 ・ アナライザー、ダッシュボードを用いて、後発医薬品の使用率の算出を実現した。 DPC部会兼コード検討委員会開催実績 (単位：回、人) <table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>開催回数</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>4</td><td>6</td></tr><tr><td>出席者数</td><td>22</td><td>26</td><td>17</td><td>32</td><td>55</td><td>35</td></tr></table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	開催回数	2	2	2	2	4	6	出席者数	22	26	17	32	55	35
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																				
開催回数	2	2	2	2	4	6																				
出席者数	22	26	17	32	55	35																				
			78	DPCの診療情報に基づく症例分析を行う。	総合 ・ H29 度内に合計で4回開催する予定。 ・ 3月からDPC分析ソフトを変更しベンチマークデータの活用を行えるよう環境整備を行った。 ・ 第2期中期目標期間 (H26～30) ・ DPC分析ソフトを用いて、特定の症例について分析を行い、分析結果をもとに薬剤の積極的な切替を行った結果、後発品使用率が86.6% (H27年度) から92.3% (H28年度)、90.4% (H29年度) となった。 ・ アナライザー、ダッシュボードを用いて、後発医薬品の使用率の算出を実現した。 DPC部会兼コード検討委員会開催実績 (単位：回、人) <table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>開催回数</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>4</td><td>6</td></tr><tr><td>出席者数</td><td>22</td><td>26</td><td>17</td><td>32</td><td>55</td><td>35</td></tr></table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	開催回数	2	2	2	2	4	6	出席者数	22	26	17	32	55	35
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																				
開催回数	2	2	2	2	4	6																				
出席者数	22	26	17	32	55	35																				
			79	DPCの診療情報を分析し、診療へフィードバックを行う。また、職員の分析にかかわるスキルアップに努める。	こと DPC部会兼コード検討委員会開催実績 (単位：回、人) <table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>開催回数</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>出席者数</td><td>37</td><td>19</td><td>23</td><td>51</td><td>53</td><td>53</td></tr></table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	開催回数	2	2	2	2	4	4	出席者数	37	19	23	51	53	53
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																				
開催回数	2	2	2	2	4	4																				
出席者数	37	19	23	51	53	53																				
			80	公立病院としての説明責任・透明性の確保に努める。(不採算疾患例の明示、原価計算) 部門別、診療科別原価計算に取り組む。	B H28年1月に原価計算システムを導入し、システム事業者と本格稼働に向けて調整中。 H27年度に原価計算システムを導入しH26年度からH28年度分の原価計算を行った。 計算結果を経営改善に役立てる活用方法の整備、原価計算に精通した職員の養成及び、このデータの活用を図っていく。																					

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置																																																																																																						
中期計画																																																																																																						
中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画																																																																																																		
(3) 県民への情報提供の充実 公開講座や医療相談などを通じて調査及び研究の成果を県民へ情報発信し、県民の健康意識の高揚に努めること。	(3) 県民への情報提供の充実 定期的に公開講座、医療相談等を開催するとともに、ホームページ等で健康管理・増進などに関する情報を提供すること。様々な方法で県民への情報提供を進める。	I 3 (3)	81	県民向け・医療機関向けの公開講座等を開催する。																																																																																																		
				各病院、特色を活かした公開講座等を企画、開催した。 <table><tr><th>病院</th><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td rowspan="2">総合</td><td>県民向け</td><td>35</td><td>6</td><td>6</td><td>4</td><td>4</td><td>10</td></tr><tr><td>参加者</td><td>494</td><td>416</td><td>682</td><td>495</td><td>712</td><td>712</td></tr><tr><td rowspan="2">医療機関</td><td>医療機関</td><td>20</td><td>23</td><td>13</td><td>29</td><td>27</td><td>27</td></tr><tr><td>参加者</td><td>1,075</td><td>628</td><td>755</td><td>1,765</td><td>1,691</td><td>1,691</td></tr><tr><td rowspan="2">こころ</td><td>県民向け</td><td>3</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>参加者</td><td>357</td><td>15</td><td>9</td><td>6</td><td>8</td><td>8</td></tr><tr><td rowspan="2">医療機関</td><td>医療機関</td><td>0</td><td>4</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>参加者</td><td>0</td><td>96</td><td>104</td><td>81</td><td>485</td><td>485</td></tr><tr><td rowspan="2">こども</td><td>県民向け</td><td>52</td><td>131</td><td>124</td><td>116</td><td>144</td><td>144</td></tr><tr><td>参加者</td><td>17</td><td>19</td><td>23</td><td>15</td><td>12</td><td>12</td></tr><tr><td rowspan="2">医療機関</td><td>医療機関</td><td>17</td><td>19</td><td>23</td><td>15</td><td>12</td><td>12</td></tr><tr><td>参加者</td><td>738</td><td>1,111</td><td>1,228</td><td>906</td><td>525</td><td>525</td></tr></table>	病院	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	総合	県民向け	35	6	6	4	4	10	参加者	494	416	682	495	712	712	医療機関	医療機関	20	23	13	29	27	27	参加者	1,075	628	755	1,765	1,691	1,691	こころ	県民向け	3	1	1	2	2	2	参加者	357	15	9	6	8	8	医療機関	医療機関	0	4	2	3	3	3	参加者	0	96	104	81	485	485	こども	県民向け	52	131	124	116	144	144	参加者	17	19	23	15	12	12	医療機関	医療機関	17	19	23	15	12	12	参加者	738	1,111	1,228	906	525	525
病院	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																															
総合	県民向け	35	6	6	4	4	10																																																																																															
	参加者	494	416	682	495	712	712																																																																																															
医療機関	医療機関	20	23	13	29	27	27																																																																																															
	参加者	1,075	628	755	1,765	1,691	1,691																																																																																															
こころ	県民向け	3	1	1	2	2	2																																																																																															
	参加者	357	15	9	6	8	8																																																																																															
医療機関	医療機関	0	4	2	3	3	3																																																																																															
	参加者	0	96	104	81	485	485																																																																																															
こども	県民向け	52	131	124	116	144	144																																																																																															
	参加者	17	19	23	15	12	12																																																																																															
医療機関	医療機関	17	19	23	15	12	12																																																																																															
	参加者	738	1,111	1,228	906	525	525																																																																																															
				・H29 ・静岡県立総合病院内の機能、設備、職員の姿を知ってもらうことによって、県民に開かれた病院であることを示しながら、本院の存在意義をより理解してもらうことを目的として、県民向け病院開放イベント「オープンホスピタル」を開催した。 H29年8月5日 来場者約1,400名 ・県民の日に合わせて、「県民の日講演会」を8/20に開催した。 ・第2期中期目標期間(H26～30) オープンホスピタル来場者数 (単位：人) <table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>来場者数</td><td>900</td><td>—</td><td>1,000</td><td>1,200</td><td>1,400</td><td>1,500</td></tr></table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	来場者数	900	—	1,000	1,200	1,400	1,500																																																																																				
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																
来場者数	900	—	1,000	1,200	1,400	1,500																																																																																																
			82	県民向けイベントへの開催や参加に努める。																																																																																																		
				(株)静岡新聞社、静岡放送(株)が主催の「こどもみらいプロジェクト秋まつり in ツインメッセ」に2日間参加し、健康相談及びこどもの医師・ナース服の着用体験のブースを出展した。 こどもみらいプロジェクト来場者数 (単位：組、人) <table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>健康相談</td><td>28</td><td>6</td><td>10</td><td>17</td><td>22</td><td>22</td></tr><tr><td>写真撮影</td><td>1,052</td><td>875</td><td>859</td><td>1,288</td><td>957</td><td>957</td></tr></table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	健康相談	28	6	10	17	22	22	写真撮影	1,052	875	859	1,288	957	957																																																																													
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																
健康相談	28	6	10	17	22	22																																																																																																
写真撮影	1,052	875	859	1,288	957	957																																																																																																
				・H29 機構全体のトビックスなどメインとなるページの見直しや、先端医学棟についての最新情報を適時更新するなど、積極的に情報発信を行った。 ・第2期中期目標期間(H26～30) 各病院の医療情報やトビックス、入札情報や採用情報等を適時更新するなど、ホームページの活用を図った。 H27年1月には、機構及び3病院のホームページをリニューアルした結果アクセス数も伸び、機構のアピールにつながった。(H28からの実績は、アクセス数を管理するサイトの仕様変更があった。)																																																																																																		
			83	県民及び他の医療機関従事者に、県立病院機種の有する医療情報等を積極的に提供するため、機構ホームページを適時、的確に更新する。																																																																																																		
				セクション別アクセス件数 (単位：件) <table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>本部</td><td>291,958</td><td>316,047</td><td>271,467</td><td>214,412</td><td>218,435</td><td>222,600</td></tr><tr><td>総合病院</td><td>1,582,445</td><td>1,742,978</td><td>1,935,315</td><td>1,864,780</td><td>2,017,729</td><td>2,183,300</td></tr><tr><td>こころ</td><td>275,237</td><td>285,800</td><td>279,546</td><td>269,084</td><td>275,298</td><td>281,700</td></tr><tr><td>こども</td><td>1,518,204</td><td>1,510,609</td><td>1,519,362</td><td>1,452,729</td><td>1,551,263</td><td>1,656,500</td></tr><tr><td>合計</td><td>3,667,844</td><td>3,855,434</td><td>4,005,690</td><td>3,801,005</td><td>4,062,725</td><td>4,343,900</td></tr></table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	本部	291,958	316,047	271,467	214,412	218,435	222,600	総合病院	1,582,445	1,742,978	1,935,315	1,864,780	2,017,729	2,183,300	こころ	275,237	285,800	279,546	269,084	275,298	281,700	こども	1,518,204	1,510,609	1,519,362	1,452,729	1,551,263	1,656,500	合計	3,667,844	3,855,434	4,005,690	3,801,005	4,062,725	4,343,900																																																								
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																
本部	291,958	316,047	271,467	214,412	218,435	222,600																																																																																																
総合病院	1,582,445	1,742,978	1,935,315	1,864,780	2,017,729	2,183,300																																																																																																
こころ	275,237	285,800	279,546	269,084	275,298	281,700																																																																																																
こども	1,518,204	1,510,609	1,519,362	1,452,729	1,551,263	1,656,500																																																																																																
合計	3,667,844	3,855,434	4,005,690	3,801,005	4,062,725	4,343,900																																																																																																
				第2期(H26～30)自己評価 説明 期間を通じ、参加者数は年々増加傾向にあり、引き続き、病院の特色を活かした公開講座を行う。 A オープンホスピタルのイベント数は、H25年度37件からH29年度は42件と1.15倍となり、毎年度工夫を凝らした出展が行われている。来場者数も、H25年度900人から毎年度100人程度の安定的な増加数を推移している。H29年度以降は先端医学棟の機能や設備の紹介を積極的に行っていく。 A 期間中、県民向けイベントへ継続して参加し、こども病院のPRに努め、情報提供も着実に推進した。 A 機構及び3病院のホームページのリニューアルや、トビックスの更新など、積極的にホームページの活用を図った。機構全体で、アクセス数は増加傾向にあり、情報提供は着実に推進している。																																																																																																		

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期 (H26～30) 自己評価																																													
			84	県民に病院の運営にかかわる情報を戦略的に広報するため、報道機関向けの情報発信の推進を図る。	最先端医療への取組や各病院で開催する県民向けの公開講座、各種イベントなどについて、積極的に情報提供を行い、情報発信の推進を図った。 H28年度から各病院でのプレスリリース実績を共有ファイナルで管理するようにし、各病院の実績の把握及び機構全体での情報共有を図った。 <table><tr><th colspan="2">記者情報提供件数</th><th colspan="6">(単位：件)</th></tr><tr><th>区 分</th><th></th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>提供件数</td><td></td><td>46</td><td>40</td><td>41</td><td>48</td><td>47</td><td>47</td></tr><tr><td>掲載件数</td><td></td><td>27</td><td>25</td><td>27</td><td>31</td><td>35</td><td>35</td></tr></table>	記者情報提供件数		(単位：件)						区 分		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	提供件数		46	40	41	48	47	47	掲載件数		27	25	27	31	35	35	A 記者情報提供件数は増加しており、情報提供は着実に推進している。機構全体の実績の把握及び情報共有を図ることができた。													
記者情報提供件数		(単位：件)																																																	
区 分		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																												
提供件数		46	40	41	48	47	47																																												
掲載件数		27	25	27	31	35	35																																												
第2 4 医療に関する地域への支援 本県の地域医療の確保のため、県立病院がその支援に大きな役割を果たし、信頼され、必要とされる病院となるよう努めること。	第2 4 医療に関する地域への支援 地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、県立病院が有する医療資源を積極的に活用するなど、積極的な支援を進める。	I 4 (1)	-	-	-	-																																													
(1) 本県の医師確保対策における役割 県立病院として、より多くの医師を確保し、医師不足の公的医療機関への派遣を行うこと。また、県との協働により、本県の医師確保対策に取り組むこと。	(1) 本県の医師確保対策への取組 県との協働による本県の医師確保対策に取り組むとともに、県立病院の医師の増員及び育成を図り、地域医療を支える県内医療機関への医師派遣の充実に取り組む。	I 4 (1)	-	地域医療支援病院としての使命を果たすため、医師を確保したうえで、医師不足が顕著な公的病院に医師を派遣する。 こども	・H29 富士宮市立、静岡厚生病院、静岡市立清水病院、静岡市立清水病院、佐久間病院、JA厚生連清水厚生病院、志太篠原地域救急医療センター、桜ヶ丘病院に医師を派遣した。また、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣した。 <table><tr><th colspan="2">医師派遣実績</th><th colspan="7">(単位：機関、科、人)</th></tr><tr><th>区 分</th><th></th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th><th></th></tr><tr><td>医師機関</td><td></td><td>10</td><td>11</td><td>11</td><td>10</td><td>9</td><td>8</td><td>8</td></tr><tr><td>診療科</td><td></td><td>11</td><td>12</td><td>12</td><td>9</td><td>6</td><td>9</td><td>9</td></tr><tr><td>延べ人数</td><td></td><td>616</td><td>621</td><td>701</td><td>773</td><td>570</td><td>577</td><td>577</td></tr></table>	医師派遣実績		(単位：機関、科、人)							区 分		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込		医師機関		10	11	11	10	9	8	8	診療科		11	12	12	9	6	9	9	延べ人数		616	621	701	773	570	577	577	A 派遣医療機関、診療科等減少傾向にあるが、要望のあった病院に対しては、適切に医師派遣を行っている。
医師派遣実績		(単位：機関、科、人)																																																	
区 分		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																												
医師機関		10	11	11	10	9	8	8																																											
診療科		11	12	12	9	6	9	9																																											
延べ人数		616	621	701	773	570	577	577																																											
			85	地域医療支援病院としての使命を果たすため、医師を確保したうえで、医師不足が顕著な公的病院に医師を派遣する。	・H29 静岡市立静岡病院、静岡済生会総合病院、焼津市立総合病院、藤枝市立総合病院、島田市立病院、富士宮市立病院に医師を派遣した。また、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣した。 <table><tr><th colspan="2">医師派遣実績 (公的病院等)</th><th colspan="7">(単位：機関、科、人)</th></tr><tr><th>区 分</th><th></th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th><th></th></tr><tr><td>医療機関等</td><td></td><td>6</td><td>4</td><td>7</td><td>6</td><td>7</td><td>6</td><td>6</td></tr><tr><td>診療科</td><td></td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>延べ人数</td><td></td><td>662</td><td>662</td><td>958</td><td>1078</td><td>803</td><td>832</td><td>832</td></tr></table>	医師派遣実績 (公的病院等)		(単位：機関、科、人)							区 分		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込		医療機関等		6	4	7	6	7	6	6	診療科		2	1	2	2	2	2	2	延べ人数		662	662	958	1078	803	832	832	A 期間中、医師不足が顕著な公的医療機関へ医師を派遣することにより地域医療の支援を継続して行った。
医師派遣実績 (公的病院等)		(単位：機関、科、人)																																																	
区 分		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																												
医療機関等		6	4	7	6	7	6	6																																											
診療科		2	1	2	2	2	2	2																																											
延べ人数		662	662	958	1078	803	832	832																																											

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績（H29・中期期間）	第2期（H26～30）自己評価																																																	
			86	小児1次救急医療への応援を行う。	こども ・ H29 静岡県急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣した。 ・ 第2期中期目標期間（H26～30） 期間中、2つの急病センターへの医師派遣を行った。 <table><tr><th colspan="2">医師派遣実績（急病センター）</th><th colspan="4">（単位：機関・科・人）</th></tr><tr><th>区 分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>医療機関</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>診療科</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>延人員数</td><td>304</td><td>313</td><td>292</td><td>295</td><td>294</td><td>299</td></tr></table>	医師派遣実績（急病センター）		（単位：機関・科・人）				区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	医療機関	2	2	2	2	2	2	診療科	2	2	2	2	2	2	延人員数	304	313	292	295	294	299	A 期間中、継続して静岡県急病センターへ医師を派遣し、地域の小児1次救急医療を支援した。															
医師派遣実績（急病センター）		（単位：機関・科・人）																																																					
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																	
医療機関	2	2	2	2	2	2																																																	
診療科	2	2	2	2	2	2																																																	
延人員数	304	313	292	295	294	299																																																	
			87	・ 各科医師定数を見直す ・ 静岡県の地域医療を支援していくために必要な医師数の検討を進める。	総合 医師現員数（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>H25.4.1</th><th>H26.4.1</th><th>H27.4.1</th><th>H28.4.1</th><th>H29.4.1</th><th>H30.4.1</th></tr><tr><td>正規</td><td>117</td><td>123</td><td>130</td><td>139</td><td>152</td><td>165</td></tr><tr><td>有期</td><td>106</td><td>108</td><td>117</td><td>111</td><td>111</td><td>109</td></tr></table> 医師派遣実績（単位：機関・科・人） <table><tr><th>区 分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>医療機関</td><td>10</td><td>11</td><td>10</td><td>9</td><td>8</td><td>8</td></tr><tr><td>診療科</td><td>11</td><td>12</td><td>9</td><td>6</td><td>9</td><td>9</td></tr><tr><td>延人員数</td><td>616</td><td>701</td><td>775</td><td>570</td><td>571</td><td>577</td></tr></table>	区 分	H25.4.1	H26.4.1	H27.4.1	H28.4.1	H29.4.1	H30.4.1	正規	117	123	130	139	152	165	有期	106	108	117	111	111	109	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	医療機関	10	11	10	9	8	8	診療科	11	12	9	6	9	9	延人員数	616	701	775	570	571	577	A 着実に医師を確保できている。期間中、継続して地域の公的病院に医師を派遣し、県内各地の地域医療を支援した。
区 分	H25.4.1	H26.4.1	H27.4.1	H28.4.1	H29.4.1	H30.4.1																																																	
正規	117	123	130	139	152	165																																																	
有期	106	108	117	111	111	109																																																	
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																	
医療機関	10	11	10	9	8	8																																																	
診療科	11	12	9	6	9	9																																																	
延人員数	616	701	775	570	571	577																																																	
			88	・ ふじのくに地域医療支援センター機能の一部である業務を受託、運営する。	・ H29 『ふじのくに地域医療支援センター』の機能の一部業務である「県内での勤務を希望する医師および研修医の就業・キャリア形成等の相談」、「静岡県医学修学研修資金貸与者の勤務先病院の決定支援」や「女性医師支援」などの業務を受託し、県内医師確保のための役割の一部を担っている。 ・ 第2期中期期間（H26～30） 主な業務である静岡県医学修学研修資金貸与者の配置調整においては、H25年の受託開始からこれまで、当機構が配置調整を担当する医師数は着実に増加しており、うち県内に勤務を開始する医師数も年々増加している。 <table><tr><th colspan="2">配置調整医師数及び県内勤務開始者数（機構担当分）</th><th colspan="4">（単位：名）</th></tr><tr><th>勤務開始年度</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>配置調整医師数</td><td>6</td><td>12</td><td>14</td><td>34</td><td>64</td><td>63</td></tr><tr><td>うち県内勤務医師数</td><td>4</td><td>6</td><td>10</td><td>22</td><td>41</td><td>39</td></tr></table> ※配置調整は各前年度となる。	配置調整医師数及び県内勤務開始者数（機構担当分）		（単位：名）				勤務開始年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	配置調整医師数	6	12	14	34	64	63	うち県内勤務医師数	4	6	10	22	41	39	A 県内医療機関に勤める奨学金利用者が着実に増加しており、県の医師確保施策に寄与できている。																						
配置調整医師数及び県内勤務開始者数（機構担当分）		（単位：名）																																																					
勤務開始年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																	
配置調整医師数	6	12	14	34	64	63																																																	
うち県内勤務医師数	4	6	10	22	41	39																																																	

中期目標			中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績（H29・中期期間）	第2期（H26～30）自己評価
	(2)地域医療への支援 高度医療機器の共同利用の促進、他の医療機関等との医療情報のネットワーク化など、地域医療との連携を進め、地域医療の確保への支援を行うこと。	(2)地域医療への支援 情報通信技術を活用した医療連携や遠隔診断のネットワークづくりを進める。また、高度医療機器などの共同利用など、県立病院の施設や設備について地域への開放を進める。	I 4 (2)	地域医療への支援 ①PETイメージング・センタ－、CT、MRI等の共同利用の推進 ②IT技術を活用した地域医療機関等との連携及び支援	89	専攻医を受け入れる体制を整備し、専攻医の募集を行う。	総合 	

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期 (H26～30) 自己評価																																			
(3) 社会的な要請への協力 県立病院が有する人材や知見を提供し、鑑定、調査、講師派遣など社会的な要請に積極的に協力すること。	(3) 社会的な要請への協力 ・公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請に対し、引き続き柔軟に対応していく。	I 4 (3)																																							
			92	・ふじのくにねっとを活用し、地域の病院・診療所・調剤薬局・訪問看護ステーションとの連携を強化する。 ・ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会の運営を維持する。 総 合	「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」について、情報の開示施設である各地域の中核病院、自治体病院、診療所・医師会等とともに「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワーク基盤を構築して運用している。 ・第2期中期期間 (H26～30) H27年度末の理事会において利用料相定を決定し、ネットワークシステムの運営経費の適正な負担を図った。 ・H28 地域医療連携推進事業費補助金を活用し、データセンター及び県立総合病院連携サーバーの更新を行った。また、静岡県県立子ども病院、静岡県立こころの医療センター、医療法人社団アール・アンド・オーにてシステム整備を行った。 ・H29 地域医療連携推進事業費補助金を活用し、藤枝市立総合病院のシステム更新を実施した。	ネットワークへの参加施設は順調に拡大を続け、地域の医療機関等での連携が強化されている。 システム機器の更新時期を迎えることを契機に、費用負担のあり方等を含めた事業の利用規程を理事会で決定し、ネットワークシステムの運営経費の適正な負担を図った。(H28年度から利用料の徴収を開始) 補助金を活用し、システム機器の更新と新規開示施設でのシステム整備を行った。																																			
			93	国内外の医療機関との映像情報を通じて研修や診断を実施すること こ じ ち も	・小児医療ネットワークを通じて、浜松医科大学との合同カンファレンスやマレーシア国立循環器病センターとの接続試験を兼ねた症例検討会を定期的に実施している。 ・他医療機関と連携し、心エコー画像遠隔診断を実施している。 心エコー画像遠隔診断実績 (単位: 件) <table><tr><th>区 分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>回数</td><td>5</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>施設数</td><td>15</td><td>9</td><td>7</td><td>5</td><td>7</td><td>9</td></tr><tr><td>症例数</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	回数	5	4	4	4	4	4	施設数	15	9	7	5	7	9	症例数							期間中、国内外の医療機関と連携し、映像情報を通じてカンファレンスや診断を継続的に実施した。							
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																			
回数	5	4	4	4	4	4																																			
施設数	15	9	7	5	7	9																																			
症例数																																									
			94	社会的な要請への協力 ・公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請への対応 院内外の研修会等を定期的に開催し、地域の医療機関へ情報提供する。 総 合	拡大キャンサーボード実施 <table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>回数</td><td>5</td><td>回</td><td>6</td><td>6</td><td>6</td><td>6</td></tr><tr><td>院内</td><td>—</td><td>—</td><td>161</td><td>160</td><td>153</td><td>160</td></tr><tr><td>院外</td><td>—</td><td>—</td><td>261</td><td>172</td><td>128</td><td>130</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>227</td><td>228</td><td>422</td><td>332</td><td>281</td><td>290</td></tr></table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	回数	5	回	6	6	6	6	院内	—	—	161	160	153	160	院外	—	—	261	172	128	130	参加人数	227	228	422	332	281	290	拡大キャンサーボードは、H25に年5回開催だったものを、H27から年6回開催に増やし、参加人数の増加に努めている。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																			
回数	5	回	6	6	6	6																																			
院内	—	—	161	160	153	160																																			
院外	—	—	261	172	128	130																																			
参加人数	227	228	422	332	281	290																																			
			95	他団体の講師派遣依頼に協力する。 総 合	講師派遣実績 (単位: 件) <table><tr><th>区 分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr><tr><td>回数</td><td>5</td><td>回</td><td>6</td><td>6</td><td>6</td><td>6</td></tr><tr><td>院内</td><td>—</td><td>—</td><td>161</td><td>160</td><td>153</td><td>160</td></tr><tr><td>院外</td><td>—</td><td>—</td><td>261</td><td>172</td><td>128</td><td>130</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>227</td><td>228</td><td>422</td><td>332</td><td>281</td><td>290</td></tr></table>	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	回数	5	回	6	6	6	6	院内	—	—	161	160	153	160	院外	—	—	261	172	128	130	参加人数	227	228	422	332	281	290	期間を通じて、その他の職種についてはやや減少傾向であるが、医師については例年同件数である。引き続き積極的な地域支援を行っていく。
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																			
回数	5	回	6	6	6	6																																			
院内	—	—	161	160	153	160																																			
院外	—	—	261	172	128	130																																			
参加人数	227	228	422	332	281	290																																			

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期 (H28～30) 自己評価																										
(2) 他県等の医療救護への協力 他県等の大規模災害等においても、災害医療チームを派遣するなど、積極的に医療救護に協力すること。	(2) 他県等の医療救護への協力 災害時医療救護派遣マニュアルに基づき、速やかに医療チームを派遣できるよう定期的な要員訓練やマニュアルの点検を行う。	1 5 (2)	103	災害医療救護に援班の訓練を実施する。	・ H29 災害医療救護に援班の訓練を実施した。 H29実績 <table><tr><td>H29.7.13</td><td>県と連携し、有償に訓練に参加。(医療従事者5名参加)</td></tr><tr><td>H29.7.29</td><td>大宮市消防局に災害時訓練(救急訓練)においてDMATチーム(4人)を派遣した。</td></tr><tr><td>H29.8.31</td><td>災害時対応訓練(大宮市消防局)に消防員4名を派遣した。</td></tr><tr><td>H29.9.3</td><td>災害時対応訓練(大宮市消防局)に消防員4名を派遣した。</td></tr><tr><td>H29.9.3</td><td>災害時対応訓練(大宮市消防局)に消防員4名を派遣した。</td></tr><tr><td>H30.2.8</td><td>災害時対応訓練(大宮市消防局)に消防員4名を派遣した。</td></tr></table> 総合 DMAT 訓練回数 (単位:回) <table><tr><td>区分</td><td>25年度</td><td>26年度</td><td>27年度</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度(予定)</td></tr><tr><td>訓練</td><td>-</td><td>7</td><td>6</td><td>8</td><td>8</td><td>8</td></tr></table>	H29.7.13	県と連携し、有償に訓練に参加。(医療従事者5名参加)	H29.7.29	大宮市消防局に災害時訓練(救急訓練)においてDMATチーム(4人)を派遣した。	H29.8.31	災害時対応訓練(大宮市消防局)に消防員4名を派遣した。	H29.9.3	災害時対応訓練(大宮市消防局)に消防員4名を派遣した。	H29.9.3	災害時対応訓練(大宮市消防局)に消防員4名を派遣した。	H30.2.8	災害時対応訓練(大宮市消防局)に消防員4名を派遣した。	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度(予定)	訓練	-	7	6	8	8	8	積極的かつ継続的に訓練に参加することで、H28.4.23～27 熊本地震に県医療救護班として医療救護活動(1チーム(5人))を行った際も現地でスムーズな救護活動を行えた。
H29.7.13	県と連携し、有償に訓練に参加。(医療従事者5名参加)																															
H29.7.29	大宮市消防局に災害時訓練(救急訓練)においてDMATチーム(4人)を派遣した。																															
H29.8.31	災害時対応訓練(大宮市消防局)に消防員4名を派遣した。																															
H29.9.3	災害時対応訓練(大宮市消防局)に消防員4名を派遣した。																															
H29.9.3	災害時対応訓練(大宮市消防局)に消防員4名を派遣した。																															
H30.2.8	災害時対応訓練(大宮市消防局)に消防員4名を派遣した。																															
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度(予定)																										
訓練	-	7	6	8	8	8																										

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画					第2期(H26～30)自己評価	
中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	説明
第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項 医療の質の向上を目指して、地方独立行政法人制度の特徴を最大限に活かし、業務運営の改善及び効率化に努め、生産性の向上を図ること。	第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 業務運営に関しては、医療の質の向上のため、適切な職員配置や組織づくりに努めるとともに、業務改善への職員の意欲を高め、効率的な業務運営の実現を図る。	II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置		・組織の効率化、各種権限の病院長への委任により事務のスピード化を図る。 ・理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を毎月開催(8月を除く)し、法人の運営情報に、予算の補正等の緊急な課題に対する即時的な対応を行う。 ・看護師、コメディカル、事務職員に対する勤務成績評価制度の試行を円滑に実施する。	業務の実績	
1. 簡素で効率的な組織づくり 医療を取り巻く環境の変化とそのスピードに迅速かつ的確に対応するため、簡素で効率的な組織体制を確立すること。	1 簡素で効率的な組織づくり 医療環境の変化や県民の医療ニーズに的確に応じられるよう簡素で効率的な組織づくりに努めるとともに、適時適切な意思決定ができる組織運営に努める。	II 1 簡素で効率的な組織づくり ①意思決定の迅速化・情報の共有化等、機動的な法人運営 ②医療ニーズや業務量の適切な把握と組織体制等への反映 ③人事評価の制度化に向けた取組み	104	・組織の効率化、各種権限の病院長への委任により事務のスピード化を図る。 ・理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を毎月開催(8月を除く)し、法人の運営情報に、予算の補正等の緊急な課題に対する即時的な対応を行う。 ・看護師、コメディカル、事務職員に対する勤務成績評価制度の試行を円滑に実施する。	業務の実績	期間を通じて、意思決定の迅速化や情報の共有化を進め、緊急案件について即時的な対応が適切に行われた。 A 勤務成績評価制度の試行を順次行い、県に準拠した人事評価制度の導入に向けて職員組合と合意し、H30から実施予定。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	第2期(H26～30)自己評価
2 効率的な業務運営の実現 ・各職員が専門性を十分に発揮できるような体制を整備するとともに、業務量に応じた柔軟な職員配置に努める。	II 2 2 効率的な業務運営の実現 ・効率的な業務運営の実現 ・効果的な職員採用 ・柔軟な採用試験の実施等、業務の質と量に応じた人材の適時採用 ・看護師確保のため、看護師修学資金の活用推進や広報活動など多岐かつ多角的な確保対策の実施	105	- 優秀な職員を確保する仕組みを設け、効果的な採用を実施する。 - 職員の採用に対し、広報等様々な取組みを行うことで、必要な職員数の確保に努める。 - 柔軟な採用試験の実施により、必要な人材の確保に努める。 - パシフィック制作、ホームページへの情報掲載、就職セミナー等での周知を行う。 - 看護師修学資金制度の活用推進により、更なる看護師確保を目指す。	- H29経営等に精通した事務職員1人を採用した。また、診療放射線技師（医学物理士）1人を採用した。 - 初めてアソシエイトの公募を医療技術職で実施し、栄養アソシエイト1名、言語聴覚アソシエイト2名の採用を決定した。 - 第2期中期期間（H26～30）法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮した採用を実施した。 - H28年度からアソシエイトの制度を導入した。	アソシエイト制度の導入、経験者選考採用など多様な採用方法により、必要な人材を確保することができた。看護師修学資金については、一定数の募集が集まり、安定的な看護師確保がなされた。 A	第2期(H26～30)自己評価
2 効率的な業務運営の実現 ・診療報酬など収入の適正な確保を図るとともに、業務の内容に応じた多様な契約手法の活用や事務の効率化などによるコスト削減に取り組み、効率的な業務運営に努める。	106	- 診療報酬など収入の適正な確保 - 業務の質を担保しつつ、多様な契約手法の活用や事務の効率化などによるコスト削減	24年度から弁護士法人へ委託先を変更した結果、回収率の改善が図られている。	24年度から弁護士法人へ委託先を変更した結果、回収率の改善が図られている。	24年度から、医療費未収金の回収業務を弁護士法人に委託した。この結果、第1期中期計画期間の最終年度から第2期中期計画期間を通じて、未収金の回収率は右肩上がりに上昇（45.4％→72.6％）し、中期目標に掲げる効率的な収入の確保を図られている。	24年度から、医療費未収金の回収業務を弁護士法人に委託した。この結果、第1期中期計画期間の最終年度から第2期中期計画期間を通じて、未収金の回収率は右肩上がりに上昇（45.4％→72.6％）し、中期目標に掲げる効率的な収入の確保を図られている。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置																													
中期計画	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績																								
中期目標					第2期(H26～30)自己評価																								
			107	SPD導入により、薬品・診療材料の期限切れ、病棟の在庫額減少に努める。	・H29 薬品、診療材料在庫額 薬品については、年2回の棚卸に薬品担当者が介入することで、精度の高い棚卸を実施。 診療材料は、パッキングする品目を増やし最小単位で定数を設定することや、SPDがこまめに病棟の棚をチェックして棚差を減らすことに努めた。また年2回の定数変更時に、定数在庫へ実在庫を合わせることで、過剰在庫の抑制を図った。 ・診療材料は手術室増加に伴い、前年度より増加している。 ・第2期中期期間(H26～30) 診材期限切れによる廃棄額は、H29年度675千円で、昨年と比較して58%減である。これはSPDを導入し物流倉庫で一元管理したことにより、不要ものの発注が少なくなったこと、適正在庫を先入れ先出しで運用できていること、不動在庫の使用促進の効果が出ているためと考える。診材在庫は新棟の影響により手術室在庫が増えているが、病棟▲1,224千円、検査▲1,488千円と削減できている。 <table border="1"> <caption>薬品・診療材料在庫額 (単位：千円)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬品</td><td>162,823</td><td>179,830</td><td>114,860</td><td>101,066</td><td>102,777</td></tr> <tr> <td>診療材料</td><td>180,834</td><td>169,947</td><td>179,534</td><td>191,861</td><td>216,079</td></tr> <tr> <td>※H29年度 薬品・診療材料 手術室増加に伴う増加額</td><td></td><td></td><td></td><td>35,949千円</td><td></td></tr> </tbody> </table> 総合	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	薬品	162,823	179,830	114,860	101,066	102,777	診療材料	180,834	169,947	179,534	191,861	216,079	※H29年度 薬品・診療材料 手術室増加に伴う増加額				35,949千円	
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度																								
薬品	162,823	179,830	114,860	101,066	102,777																								
診療材料	180,834	169,947	179,534	191,861	216,079																								
※H29年度 薬品・診療材料 手術室増加に伴う増加額				35,949千円																									
			108	・積極的に施設基準を取得する。 ・診療報酬の適正請求にかかわる研修会等を実施する。	研修会等を通じて、病院全体として適正請求に関する意識の向上を達成できた。特定共同指導では上から2番目の評価となる「経過観察」の結果を得ることができた。 新規やランクアップの届出を積極的に行い、患者単価の上昇を達成できた。																								

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置																																																																																																			
中期計画	中期計画	年度計画	No.	行動計画																																																																																															
			109	・H29 ・各病院において、診療材料委員会を中心に関係職員の意識を徹底し、適正な調達に努めている。 ・診療材料単価低減を図るため、医療従事者と協働した購入材料の選定や価格交渉を推進した。 ・薬品費の節減と薬利部門職員の業務軽減を図るため、一薬品メーカー・一卸業者制度を継続するとともに、機構に薬品を納入する卸業者の数を5社で競争を行い、ベンチマーク調査等を活用して周辺の値引率を把握しつつ、値引率向上を図っている。 ・破損など原因ごとに対策を講じて、診療材料の廃棄量の削減に努めている。 ・第2期中期期間(H26～30) 診療材料コスト削減実績 (単位：千円) <table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th></tr><tr><td>期別</td><td>実績</td><td>実績</td><td>実績</td><td>実績</td><td>実績</td><td>実績</td></tr><tr><td>区 分</td><td>12,109</td><td>6,513</td><td>12,600</td><td>24,307</td><td>27,023</td><td>30,382</td></tr><tr><td>こころ</td><td>49</td><td>0</td><td>0</td><td>107</td><td>146</td><td>446</td></tr><tr><td>こども</td><td>2,425</td><td>18,881</td><td>6,201</td><td>8,280</td><td>6,182</td><td>6,182</td></tr><tr><td>合 計</td><td>4,671</td><td>23,895</td><td>75,817</td><td>42,724</td><td>34,551</td><td>60,951</td></tr></table> 29年度 新規購入・廃止した診療材料・薬品 品目数の実績 (単位：件) <table><tr><th colspan="2">診療材料品目数</th><th colspan="2">薬品目数</th></tr><tr><th>区分</th><th>期別</th><th>期別</th><th>期別</th></tr><tr><th></th><th>10/1期 (a)</th><th>10/2期 (b)</th><th>10/3期 (c)</th></tr><tr><td>期合</td><td>11,776</td><td>6,853</td><td>2,914</td></tr><tr><td>区 分</td><td>11,776</td><td>6,853</td><td>2,914</td></tr><tr><td>こころ</td><td>408</td><td>38</td><td>73</td></tr><tr><td>こども</td><td>4,132</td><td>19</td><td>39</td></tr><tr><td>合 計</td><td>15,315</td><td>6,905</td><td>3,022</td></tr></table> 29年度 廃棄・破損額 (単位：千円) <table><tr><th>区分</th><th>期別</th><th>期合</th></tr><tr><td>区 分</td><td>10/1期 (a)</td><td>10/2期 (b)</td></tr><tr><td>期合</td><td>5,402</td><td>5,712</td></tr><tr><td>区 分</td><td>159</td><td>143</td></tr><tr><td>こころ</td><td>2,013</td><td>2,201</td></tr><tr><td>こども</td><td>7,574</td><td>8,116</td></tr><tr><td>合 計</td><td>15,690</td><td>15,690</td></tr></table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	期別	実績	実績	実績	実績	実績	実績	区 分	12,109	6,513	12,600	24,307	27,023	30,382	こころ	49	0	0	107	146	446	こども	2,425	18,881	6,201	8,280	6,182	6,182	合 計	4,671	23,895	75,817	42,724	34,551	60,951	診療材料品目数		薬品目数		区分	期別	期別	期別		10/1期 (a)	10/2期 (b)	10/3期 (c)	期合	11,776	6,853	2,914	区 分	11,776	6,853	2,914	こころ	408	38	73	こども	4,132	19	39	合 計	15,315	6,905	3,022	区分	期別	期合	区 分	10/1期 (a)	10/2期 (b)	期合	5,402	5,712	区 分	159	143	こころ	2,013	2,201	こども	7,574	8,116	合 計	15,690	15,690
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																													
期別	実績	実績	実績	実績	実績	実績																																																																																													
区 分	12,109	6,513	12,600	24,307	27,023	30,382																																																																																													
こころ	49	0	0	107	146	446																																																																																													
こども	2,425	18,881	6,201	8,280	6,182	6,182																																																																																													
合 計	4,671	23,895	75,817	42,724	34,551	60,951																																																																																													
診療材料品目数		薬品目数																																																																																																	
区分	期別	期別	期別																																																																																																
	10/1期 (a)	10/2期 (b)	10/3期 (c)																																																																																																
期合	11,776	6,853	2,914																																																																																																
区 分	11,776	6,853	2,914																																																																																																
こころ	408	38	73																																																																																																
こども	4,132	19	39																																																																																																
合 計	15,315	6,905	3,022																																																																																																
区分	期別	期合																																																																																																	
区 分	10/1期 (a)	10/2期 (b)																																																																																																	
期合	5,402	5,712																																																																																																	
区 分	159	143																																																																																																	
こころ	2,013	2,201																																																																																																	
こども	7,574	8,116																																																																																																	
合 計	15,690	15,690																																																																																																	
			110	効率的な医療機器購入及び管理のための対策を実施する。 ・各病院において、病院一体となって徹底した価格交渉や価格調査を行い、入札・見合わせ等の徹底により競争性を確保することなどにより、効率的な購入及び管理に努めた。 ・価格交渉では事務と連携して医師等自らも業者と交渉するほか、スケールメリットを生かした複数台購入も行っている。 ・機種選定では複数機種を原則とし、1機種に限定する場合でも複数業者間の競争を維持するよう努めている。 ・価格調査では、他病院実績の調査や関係団体への照会、ベンチマーク調査により目安となる金額の把握を徹底し、適正な金額設計に生かしている。 ・保守委託では、3病院一括の契約を結ぶなど、機器に応じた契約や保守内容の見直しを行いコスト低減を図っている。																																																																																															
				第2期(H26～30)自己評価 説明 (総合) ・各年度、自治体共済会MRPベンチマーキングシステムを用いて、卸・メーカーに対して診療材料の価格交渉や品目の切替を医療従事者の協力を得ながら行った。また、H29年9月より共同購入組織である「一般社団法人日本ホスピタルライアンス(略称:NHA)」に加盟し、より一層の診療材料費の低減を行っている。 診療材料費については、医療従事者と協働し、同種同効品の絞り込みや価格交渉、安価な材料への切替等を進めた。さらに、SPDの有効活用により、在庫量の適正管理に努めた。 薬品費については、各病院薬利部(室)長同席の下メーカー要請を行うなど、機構全体で値引率改善に向け取り組んだ。 全期間を通して、徹底した価格交渉や競争性確保、先端医学棟の高額機器など案件に応じた「購入＋保守管理」一括評価といった工夫を行い、効率的な医療機器購入を行うことができた。 保守委託については、3病院一括契約により規模のメリットを生かすとともに、保守内容の継続的な見直しによりコスト削減を図った。																																																																																															

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置				
中期計画	中期計画	年度計画	No.	行動計画
				業務の実績
				第2期(H26～30)自己評価
				説明

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置																																		
中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画																														
3 事務部門の専門性の向上	3 事務部門の専門性の向上 経営管理機能を強化するため、引き続き法人固有の事務職員を採用するとともに、専門性の向上に計画的に取り組む。併せて、急速な経営環境の変化にも迅速に対応できるよう病院運営や医療事務等に精通した人材の確保に努める。	II 3 事務部門の専門性の向上 ・ 事務職員の計画的な採用 ・ 階層や職務に応じた効果的な研修の実施、学会発表等へ事務職員の参加など ・ 異動方針の弾力的運用及び各部署におけるOJT (on-the-job training) をはじめとする人材の育成・研修の推進 ・ 診療情報管理機能の強化	113	・ 階層や職務に応じた各種研修を実施する。 ・ また、事務職員の機軸外研修への積極的な参加を促す。 ・ 職員の適性等を考慮した弾力的な人事異動を行う。																														
		・ H29 採用内定者研修、事務職員基礎研修(新規採用職員)、会計研修等を実施し、業務関連知識を高めている。 職員の適正等を考慮し、適宜人事異動を行った。 事務職員に対する研修状況 <table><tr><th>受講時期</th><th>研修名</th><th>開催状況</th></tr><tr><td>新採年度</td><td>新規採用職員研修</td><td>5、6月 2日間</td></tr><tr><td>係長級昇任時</td><td>新任監督者研修</td><td>5月 1日間</td></tr><tr><td>セクション長昇任時</td><td>新任監督者研修</td><td>8月 1日間</td></tr><tr><td rowspan="2">管理者(毎年度)</td><td>コーチング研修</td><td>9月 1日間</td></tr><tr><td>コミュニケーション研修</td><td>7月 1日間</td></tr><tr><td rowspan="3">希望により任意参加</td><td>ファンレタレーション研修</td><td>11月 1日間</td></tr><tr><td>メンタルヘルズ研修</td><td>12月 半日</td></tr><tr><td>会計基礎研修</td><td>4月 半日</td></tr><tr><td>会計中級研修</td><td>9月 半日</td></tr><tr><td>未収金回収研修</td><td>12月 半日</td></tr></table> A 業務の基礎部分に対する研修体系は出来たので、引き続き継続をしつつ、必要な研修を取り入れていく。		受講時期	研修名	開催状況	新採年度	新規採用職員研修	5、6月 2日間	係長級昇任時	新任監督者研修	5月 1日間	セクション長昇任時	新任監督者研修	8月 1日間	管理者(毎年度)	コーチング研修	9月 1日間	コミュニケーション研修	7月 1日間	希望により任意参加	ファンレタレーション研修	11月 1日間	メンタルヘルズ研修	12月 半日	会計基礎研修	4月 半日	会計中級研修	9月 半日	未収金回収研修	12月 半日			
受講時期	研修名	開催状況																																
新採年度	新規採用職員研修	5、6月 2日間																																
係長級昇任時	新任監督者研修	5月 1日間																																
セクション長昇任時	新任監督者研修	8月 1日間																																
管理者(毎年度)	コーチング研修	9月 1日間																																
	コミュニケーション研修	7月 1日間																																
希望により任意参加	ファンレタレーション研修	11月 1日間																																
	メンタルヘルズ研修	12月 半日																																
	会計基礎研修	4月 半日																																
会計中級研修	9月 半日																																	
未収金回収研修	12月 半日																																	
				業務の実績 ・ H29 診療情報管理士資格の取得支援制度を設け、資格者の増員を図り、有資格者を診療情報業務に配置した。 (総合) 診療情報管理業務について一部を外部委託していたが、H28年度より委託から直雇用に切替え、診療情報管理業務の充実を図った。がん登録や症例登録業務の体制を強化した。																														
				診療情報管理士資格取得状況 (単位:人) <table><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th></tr><tr><td>資格</td><td>3</td><td>11</td><td>6</td><td>13</td><td>5</td></tr><tr><td>専門課程修了者</td><td>1</td><td>5</td><td>2</td><td>4</td><td>1</td></tr><tr><td>一般課程修了者</td><td>2</td><td>6</td><td>4</td><td>9</td><td>4</td></tr><tr><td>合計</td><td>4</td><td>18</td><td>10</td><td>18</td><td>11</td></tr></table> ※ 専門課程修了者：資格試験受験資格を有する者 A	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	資格	3	11	6	13	5	専門課程修了者	1	5	2	4	1	一般課程修了者	2	6	4	9	4	合計	4	18	10	18	11
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度																													
資格	3	11	6	13	5																													
専門課程修了者	1	5	2	4	1																													
一般課程修了者	2	6	4	9	4																													
合計	4	18	10	18	11																													

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置					
中期計画	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績
4. 業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成	4. 業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成 業務の改善改革への取組を奨励し、その活動を積極的に評価するとともに、職員の意見が反映されやすい風通しの良い組織運営を進めるなど、職員の意欲が高い活気に溢れた病院づくりに取り組む。	II 4	業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成 ・業務の改善の取組等を通じた職員の意識向上及び病院運営の活性化	事務部門の業務マニュアルの作成等、業務の平準化や効率化のための取組を継続する。 115	・ H29 ・業務の標準化を図るため、事務部門の業務マニュアル整備・活用に向けた取り組みを実施している。 ・院内コミュニケーションシステム上に整備したマニュアルを公開し、共有化している。 ・第2期中期目標期間（H26～30） ・事務部門における業務項目数に対して、マニュアル整備率を上げている。
					業務項目数に対して、マニュアル整備率を100%としている。また、作成されたマニュアルを公開していることで、マニュアルの共有化が図られている。
4. 業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成	業務改善に向けて、職員 の意欲を高め、積極的 な参画を促すなど、継続 的に業務改善へ取り組む 組織風土を醸成するこ と。				業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。
					業務項目数に対して、マ ニュアル整備率を100%と している。また、作成され たマニュアルを公開して いることで、マ ニュアルの共有化が図ら れている。

(参考) 用語解説

用語 (50音順)	解 説
A C T	A C Tとは、Assertive Community Treatment(包括型地域生活支援プログラム) の略で、重い精神障害を持つ人たちに対して、住み慣れた地域で支援する、集中型・包括型ケースマネジメントプログラム。
C C U	C C Uとは、Coronary Care Unitの略で、冠疾患集中治療室と呼ばれ、主に心筋梗塞などの冠動脈疾患の急性危機状態の患者を収容し、専門の医師・看護師により、厳重な監視モニター下で持続的・集中的に管理・治療する部門。 ※こども病院では、C C UをCardiac (心臓病の) I C Uと解釈している。
D M A T	D M A Tとは、Disaster Medical Assistant Teamの略で、災害の発生直後(48時間以内)に被災現場へ駆けつけ、救出・救助部門と合同して活動できるトレーニングを受け、機動性を持った災害派遣医療チーム(D M A T: ディーマット)。
D P C	D P Cとは、Diagnosis Procedure Combinationの略で、診断群分類のこと。これに基づく診断群分類包括評価(しんだんぐんぶんるいほうかつひょうか)により、日本の急性期入院医療費の定額支払い制度が平成18年から(試行は平成15年から)運用されている。(総合: H20.7導入、こども: H21.7導入)
E S C O	E S C Oとは、Energy Service Companyの略で、1970年代アメリカで始まり、1990年代後半に日本に導入された省エネ化を目指す事業で、省エネルギーに関わる一連の業務を一括して請け負うことや、計画した省エネ効果が出なかった場合、省エネ相当分を顧客に補償する義務を負うことなどが特徴。
H C U	H C Uとは、High Care Unitの略で、集中治療室に準ずる機能を持つ高度な治療室。看護配置数は集中治療室の1/2であるが、一般の病棟よりはるかに多いため両者の中間に位置する病室。集中治療室から一般病棟への転室は落差が大き過ぎ、移行が難しいため、一般病棟への移行を円滑に行うために設置される。手術後の患者や集中治療を脱した重症患者の経過観察を受け持つことが多い。
I C U	I C Uとは、Intensive Care Unitの略で、集中治療室と呼ばれ、内科系・外科系を問わず呼吸、循環、代謝そのほかの重篤な急性機能不全の患者を収容し、強力かつ集中的に治療看護を行う部門。
m-E C T	m-E C Tとは、修正型電気けいれん療法で麻酔科医による全身麻酔の下、筋弛緩剤の投与により体幹のけいれんを起こさせないもので、うつ病、躁うつ病、統合失調症などの治療に用いられており、従来の有けいれん療法に比べ、安全で有効な治療法とされている。
M F I C U	M F I C Uとは、Maternal Fetal Intensive Care Unitの略で、重い妊娠中毒症、前置胎盤、合併症妊娠、切迫早産や胎児異常など、ハイリスク出産の危険度が高い母体・胎児に対応するための設備と医療スタッフを備えた集中治療室のこと。
M S W	M S Wとは、Medical Social Workerの略で、疾病を有する患者が、病気になることで生じる生活上の様々な困難に対して、自立した生活が送ることができるように、社会福祉の立場から、患者の生活全体を支援していく専門家のこと。
N I C U	N I C Uとは、Neonatal Intensive Care Unitの略で、未熟児をはじめとするハイリスク新生児は専門的な医療機関で集中治療・管理する必要がある、このような医療を展開する場所全体を一般的に広義の新生児集中治療室と呼んでいる。
P C I	血管に刺入する管(カテーテルという)を用いて冠動脈疾患に様々な治療を行うことを総称して(経皮的)冠動脈インターベンション(PCI)と呼ぶ。 風船療法(カテーテルの先端の風船(バルーン)で狭窄した冠動脈を拡張)や経皮的冠動脈ステント留置術(拡張した冠動脈にステントという金属のコイルを内側に張り付けて血管を支え再狭窄を防ぐ)やD C A(カッターで狭窄病変部位を削り取り拡張治療)やローターブレードというドリルのような先端を回転させて病変を削り取るなどの治療法がある。
P E T	P E Tとは、Positron Emission Tomography(ポジトロン・エミッション・トモグラフィ)の略で、PET検査とは、陽電子(ポジトロン)を放出する放射性核種(ポジトロン核種)で標識した薬剤を静脈から注射して、細胞の活動状態を画像化する診断技術である。 がん等の診断、治療効果・治療後の経過観察に有用な最先端の検査法で、同様にがんの早期発見にも有用である。
P I C U	P I C Uとは、Pediatric Intensive Care Unitの略で、小児集中治療室と呼ばれ、専属の専門医が配置され独立病棟として24時間小児重症患者を受け入れている。

用語（50音順）	解 説
P S W	P S Wとは、Psychiatric Social Workerの略で、精神保健福祉士と言い、社会福祉学を学問的基盤として、精神障害者の抱える生活問題や社会的問題の解決のための援助や、社会参加に向けての支援活動を通じて、患者を支援していく専門家のこと。
S P D	S P Dとは、Supply Processing Distributionの略で、物品・物流の包括的管理業務のことを指す。物品の発注、検収、入庫、払出、搬送、格納、出庫、在庫確認、棚卸を一元管理すること。
T A V I	T A V Iとは、Transcatheter Aortic Valve Implantationの略で、「経カテーテル大動脈弁留置術」と訳されます。T A V Iは、胸を開かずに、心臓が動いている状態で、カテーテルを用いて人工弁を患者の心臓に装着する治療法である。
葵カード	連携安心カードともいい、病院から診療所に紹介する際に、病状悪化等で入院が必要になった場合に、葵カードを提示すれば県立総合病院が必ず対応するので安心してください、という意味で患者に渡すカードのこと。静岡市では、医師会と各病院が、病院の医師と診療所の医師の両方が役割分担して連携して患者を診る仕組みを運用している。
医療観察制度	心神喪失又は心神耗弱の状態で重大な他害行為を行った人を対象として、国の責任による手厚い専門的な医療と、退院後の継続的な医療を確保するための仕組み等によって、その円滑な社会復帰を促進することを目的とした制度であり、こころの医療センターにおいては、平成21年3月24日付で指定入院医療機関指定書（東海北陸厚生局長指定、第0004号）により指定入院医療機関として指定された。
医療秘書（医師事務作業補助者）	クラークとも言われ、病院勤務医の負担軽減を図るため、医師の事務作業を補助する職員のこと。 医師の指示の下、診断書の文章作成補助、診療記録への代行入力、医療の質の向上に資する事務作業（診療に関するデータ整理、院内がん登録等の統計・調査、医師の教育や臨床研修のカンファレンスのための準備作業等）並びに行政上の業務（救急医療情報システムへの入力等）への対応を行う。
看護師修学資金制度	当機構への就職を希望する看護学生に対して、資質の向上に資することを目的に修学資金（月5万円）を貸与する制度のこと。なお、当機構に看護師として就職した期間に相当する額の返還が免除される。 また、既に静岡県外の病院等から貸与を受けている同種の修学資金に対して、借り換えをするための資金（返還資金）を貸与するメニューも用意している。
緩和ケア	主に治癒を目的とする治療ではなく、全人的なケアで、痛み、その他の症状コントロール、心理面、社会面、精神面のケアを行うもの。
がんセンターボード	がんの症例について、手術・化学療法・放射線治療・緩和医療、画像診断、病理診断等、院内のがん診療・診断に携わる医師をはじめ、看護師、薬剤師等関連する専門職が、診療科や職種の垣根を越えて一堂に集まって、さらに連携する地域の医療者（医師会の医師、看護師、薬剤師、訪問看護師、介護関係職等）にも参加してもらい、それぞれの専門的な知識・技能を集約して、がん患者の症状・状態や治療法・治療方針等の情報を共有して意見交換し、最適な治療方針を協議・決定する場のことを言う。
クリニカルパス	クリニカルパスとは、ある病気の治療や検査に対して、標準化された患者様のスケジュールを表にまとめたもので、1つの治療や検査ごとに1つずつ作られている。 クリニカルパスには、病院用、患者様用と2つ準備されており、患者用クリニカルパスには、「入院診療計画書」として、患者が入院してからの食事や処置、検査・治療、そのための準備、退院後の説明等が日ごとに詳しく説明されている。
クロザピン	クロザピンは抗精神病薬で、H21.4月に製造承認され、7月より発売開始となった。クロザピンの使用にあたっては、高い治療効果の反面、重篤な副作用（白血球の減少）が報告されていることから、安全管理体制の整備が義務付けられている。
固定チームナーシング	入院患者への看護は、24時間体制で求められている。しかし、看護師ひとりでは、対応しきれないため、「看護提供方式」を活用して24時間の看護を提供している。 「固定チームナーシング」は、いくつかある看護提供方式の内のひとつの方式のこと。 1年間固定したチームメンバーで活動することを原則に、チームで患者の看護を行う方式である。固定チームの受け持ち患者を分担して受け持ち、入院から退院まで24時間チームメンバーにより看護が展開される。看護師メンバーが固定されることで、継続的な看護が提供される。

用語（50音順）	解 説
コーディング	疾病や手術、検査などをコード化する仕事。 最近、病院では診療情報を活用するために、あるいはDPCやがん登録などの国の制度の義務付けにより、標準化されたコードへのコーディングとそのシステムへの登録が必要となり、そのためコーディングする人の需要が、増えている。正しいコーディングのためには、コード体系の知識とともに医学知識やカルテを読み解く能力が要求される。 疾病のコーディング：膝の関節炎⇒M13.96（Mは骨・筋肉などを示す。13は関節炎を示す。9は詳細不明を示す。6は膝を示す）
コメディカル	薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・歯科衛生士・理学療法士・作業療法士などの、医師・看護師以外の医療従事者の総称のこと。
ジェネリック医薬品（後発医薬品）	特許権が消滅した医薬品について、特許権者ではなかった医薬品製造メーカーがその特許権の内容を利用して製造した医薬品のこと。
紹介率・逆紹介率	・紹介率とは、初診患者のうち、他の医療機関から紹介状により紹介された者及び緊急入院した救急患者の数が占める割合のことである。 $\text{紹介率} = (\text{初診患者のうち紹介患者数} + \text{救急患者数}) \div \text{初診患者数} \times 100$ ・逆紹介率とは、地域医療支援病院の全患者のうちから他の医療機関に紹介した者で、診療情報提供料を算定したもの数（同一人に複数回又は複数紹介先算定の場合あり）と、初診患者の総数との比較のことである。 $\text{逆紹介率} = \text{逆紹介患者数} \div \text{初診患者数} \times 100$
初期臨床研修医 後期臨床研修医	免許取得の後に、臨床研修の名で上級医の指導の下に臨床経験を積む卒後教育が制度化された。病院独自に「前期・後期研修医」の名称を使用することがあるが、研修医（広義、1-5年目程度）＝研修医（狭義、＝前期研修医、1-2年目）＋後期研修医（3-5年目程度）としていることが一般的である。 一般に「研修医」の語を使う場合、「前期研修医」を指す。後期研修医とはほぼ同義の語として、専修医、修練医、などがあるが、各々の病院独自のものである。
新専門医制度	新専門医制度とは、平成29年度以降に専門研修を開始する医師を主な対象として開始を予定していた制度で、今まで各学会が独自に定めた基準により認定をしていた専門医資格を、中立的第三者機関である日本専門医機構が統一的に専門研修プログラムの審査・承認を行い、承認を受けたプログラムに基づいて専門研修施設群がカリキュラムの修了を判定。その判定をもとに日本専門医機構が専門医の認定を行うものとされていたものである。 ただし、医師の地域偏在への懸念が解消されなかったことから1年の延期が決定された。（小児科学会（小児科専門医）はH29より先行実施）
心理教育・家族教室	心理教育とは、精神障害やエイズなど受容しにくい問題を持つ人たちに、病気に関する必要な基礎知識を提供するとともに、療養生活を営む自信と地域で暮らしていく力量を身につけ、医療機関で提供される各種リハビリテーションプログラムや、地域の援助プログラムを主体的に利用することを促すことによって、医療機関における治療や援助から、精神障害者を日常的に支える地域リハビリテーションへの連続的な移行を目指して行う支援法のこと。 患者の家族だけを対象に行う支援を家族教室と言う。
心理・社会的治療	精神科における薬物療法と電気けいれん療法以外の心理療法的プログラムの総称で、多職種のチーム医療が原則である。 デイケア、作業療法、認知行動療法、心理教育・家族教室、ACTなどの各種治療法を含む。
診療情報管理士	診療情報管理士とは、四病院団体協議会（日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神科病院協会）および医療研修推進財団が資格付与する民間資格のこと。 主な業務内容として、診療録の物理的な管理や内容の精査を行う「物の管理」、診療情報をコーディングするなどしてデータベースを構築する「情報の管理」、構築されたデータベースから必要な情報を抽出・加工・分析する「情報の活用」がある。
ダ・ヴィンチ	3D画像を確認しながら、離れた場所からロボットアームを操作して内視鏡下手術を行うもので、皮膚切開を最小限にすることで、患者の負担をできるだけ抑えることが可能（術中の出血量が少ない、術後の疼痛が少ない）。

用語（50音順）	解 説
地域医療支援病院	1997年（平成9年）4月の医療法の第3次改正で制度化された医療機関の機能別区分のひとつ。 目的としては、地域の病院、診療所などを後方支援するという形で医療機関の役割分担と連携を目的に創設された。都道府県知事によって承認される。 （承認要件） ・ 病院の規模は原則として病床数が200床以上の病院であること。 ・ 他の医療機関からの紹介患者数の比率が80%以上であること。 ・ 他の医療機関に対して高額な医療機器や病床を提供し共同利用すること。 ・ 地域の医療従事者の向上のための生涯教育等の研修を実施していること。 ・ 救急医療を提供する能力を有すること。
地域連携クリニカルパス	病院の医師と診療所の医師、疾患によってはリハビリ施設など地域の医療提供施設が役割分担して連携して患者を診る仕組みの中で、疾患別に、以降の診療予定をスケジュール表の形式で表わしたもの。患者は診療所にいつ受診し、病院にいつ受診し、あるいはリハビリ施設にいつ受診し、どういう治療を受けるのかが分かり、医療施設は患者の診療の進捗管理をし、施設間で情報を共有するために使われる。診療報酬点数表上では、疾患が限られているが、「地域連携計画書」といい、計画管理料や退院時指導料等が算定できる。
ドクターカー	平成20年4月25日に道路交通法施行令の一部が改正され緊急自動車の指定対象に追加された乗用車型のドクターカー（患者搬送のための特別な構造又は装置を有しない医師派遣用自動車）。静岡市消防局の要請により「ドクターカー」に当院の救命救急センターのスタッフが搭乗し、災害や事故の現場に急行したり、搬送途中の救急車とドッキングして治療を開始する。
認知行動療法	認知行動療法とは、人間の気分や行動が認知のあり方（ものの考え方や受け取り方）の影響を受けることから認知の偏りを修正し、問題解決を手助けすることによって精神疾患を治療することを目的とした精神療法であり、2010年から、一部保険点数化がされた。
認定看護師	認定看護師とは、日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することを認められた者をいい、水準の高い看護実践を通して看護師に対する指導・相談活動を行う者をいう。
ハイブリッド手術室	据置型血管撮影装置（アンギオ）を設置した手術室であり、カテーテル血管内治療と外科的手術の双方に対応が可能。 ・ 合併症などの緊急時の対応が可能。（カテーテル治療から外科的手術への移行） ・ 手術のみでは到達困難な部位に対する治療が可能。 ・ カテーテルのみでは治療できない緊急時の病変に対しても外科的手術を同時に行うことで対応が可能。 ・ 鮮明な透視画像により治療精度が向上
レジデント	初期臨床研修医はジュニアレジデント、初期レジデント、スーパーローテーターなどと呼ばれ、それ以降に専門科での研修を行うものを単にレジデントと呼んだり、後期研修医、後期レジデント、シニアレジデント、専攻医などと呼ばれている。